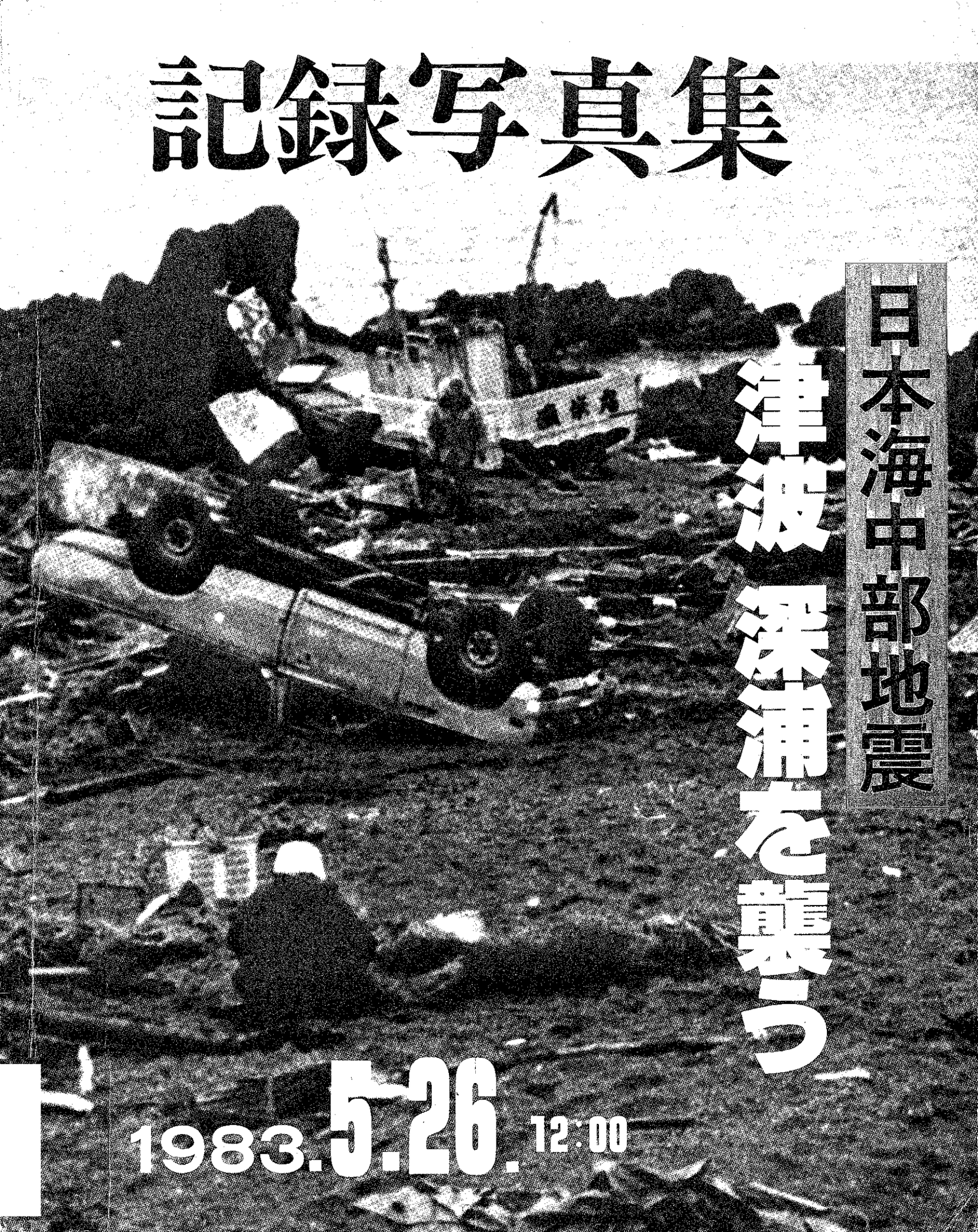
記録写真集



日本海中部地震

津波 漁港を襲う

1983.5.26. 12:00

もくじ

地震・真昼の恐怖　落石・陥没・亀裂など…… 3〜 9

襲いくる津波　引き潮満ち潮・浸水・漁船・
国道・鉄道・漁港・自動車・避難…10〜39

破　壊　漁港・道路など……40〜47

農作物　浮苗田・冠水田など……48〜53

欠　壊　農道・林道・潮冠田など……54〜59

町道・資料：ドキュメント……60〜61

無　残　水路・溜池・商店・水道……62〜69

わが町の災害……70〜75

陳情・調査団など……76〜89

資料：観測所の役割など……79〜87

復　旧……90〜94

資料：地震年表……90〜99

捜索活動……95

資料：新聞記事……88〜99

発刊にあたって

5月26日、正午発生した日本海中部地震は、深浦全域に及び、わが町では前例のない大きな被害をもたらしました。

突如襲いかかってきた地震・津波、自然の力の偉大さと恐しさをまざまざと見せつけられました。一瞬にして船や田、家などかけがいのない財産を失った被災者の皆さんには、心からお見舞申し上げるとともに、はからずも津波の犠牲となったかたがたにはお悔み申し上げ、ご冥福を祈ります。

わが町を急襲した地震・津波による被害は空前の記録となり、実に63億5,460万円にも上りました。町では直ちに災害対策本部・地震災害対策会議を設置して対処、総力をあげて1日も早い復旧のため、県・国をはじめとする各関係機関・各団体等一致協力のもとに各般にわたって努力しているところです。多くの皆さんが、それぞれの立場でご尽力賜りましたことは、たのもしい限りであり、深く感謝申し上げるとともに、関係機関におかれましては、さらに復旧に対する特段のお力添いをお願いする次第です。

天災の恐しさを教訓として、限りない明日への発展を願いつつ、ここに記録写真集を皆さんのご協力を得て編さんすることができました。明日への糧に少しでもお役に立てばと願っています。

このいまわしい悪夢から、一日も早く脱するため、町民の皆さんとともに粉骨砕身の努力をする決意です。

昭和58年7月15日

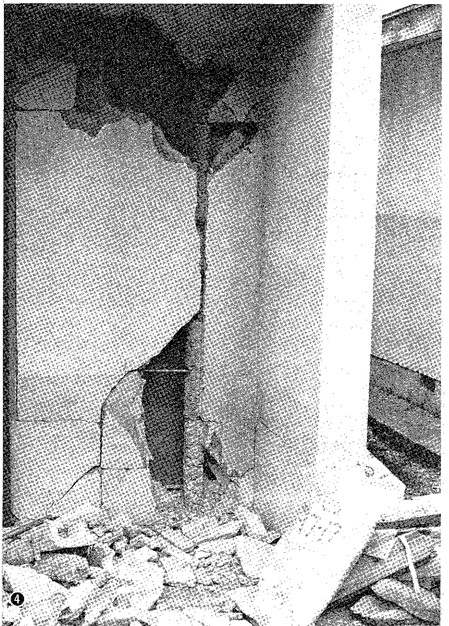
深浦町長　松浦　武

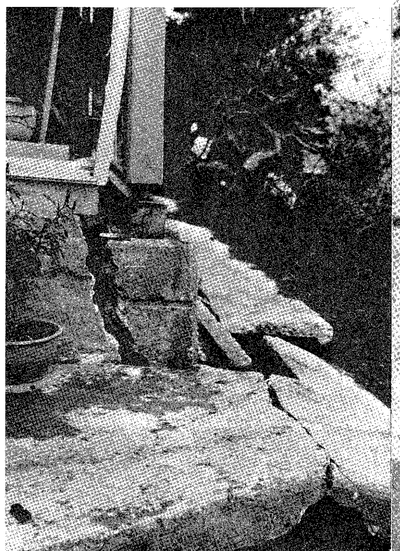
真昼の恐怖

古くからみんなに親しまれ、観光の町深浦のシンボルであった名門、猿神鼻洞門の雄美な姿は大音響とともに崩れ去った。

猿神鼻洞門（深浦）

行合崎の遊歩道欠壊



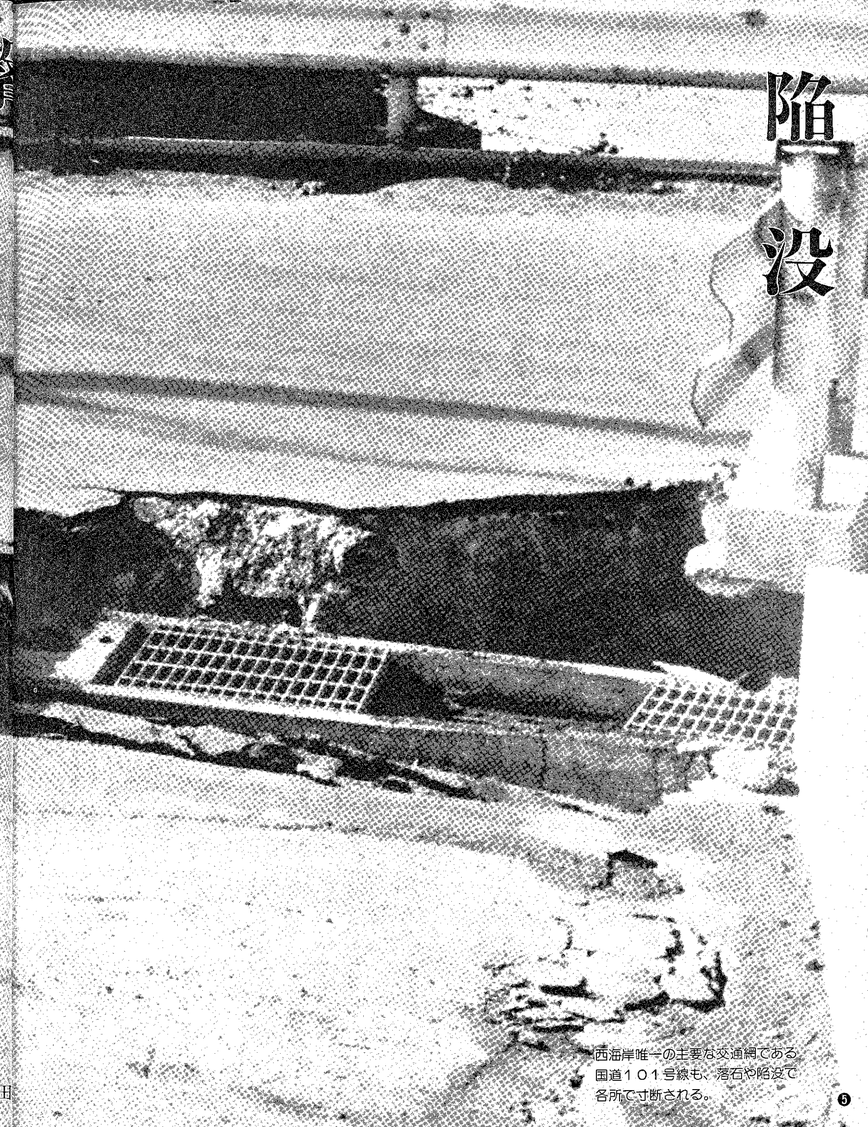


モルタルに無数の亀裂が入り、壁が崩れ落ちた。

M7.7の強震 深浦を直撃

陥没した路面（柳田

陥没



西海岸唯一の主要な交通網である、国道１０１号線も、落石や陥没で各所で寸断される。

ブロック塀が崩れ、へいが倒れ、地面は亀裂が走った。（深山）

亀裂

一晩のうちに路面がメチャクチャになった大戸瀬中学校の通学路。

恐怖

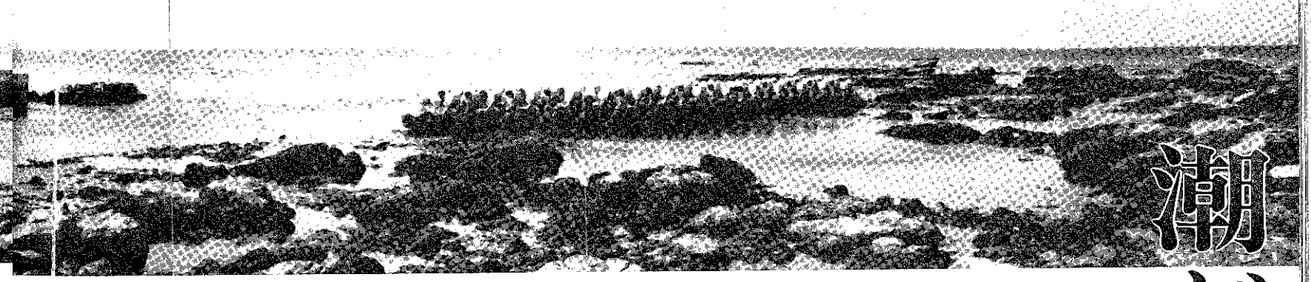
地震だ!!　津波だ!!
高台に避難する
北金ケ沢の皆さん。

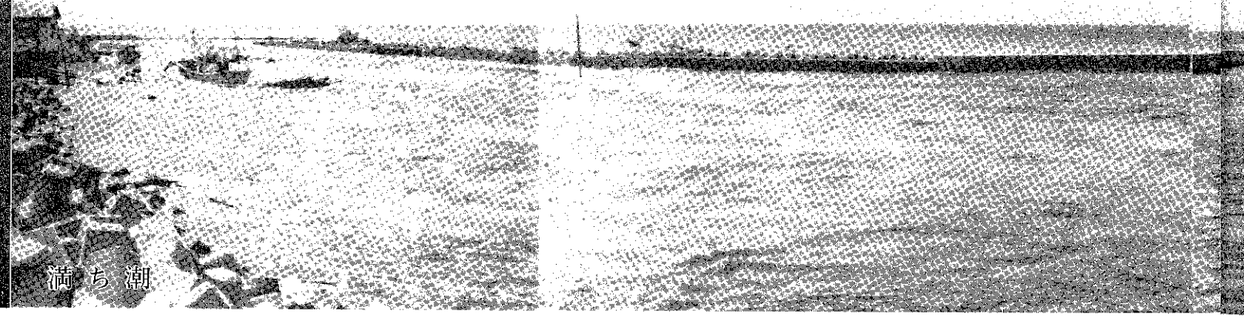
校舎の破片で、無残な姿となった乗用車（大戸瀬中学校）

撮影者／堀内孝保さん

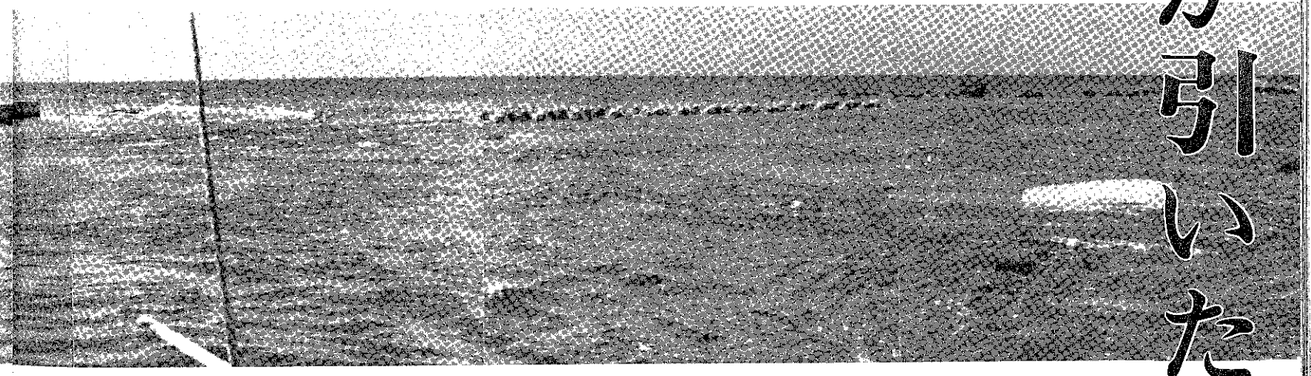
潮が引いた

引き潮





満ち潮

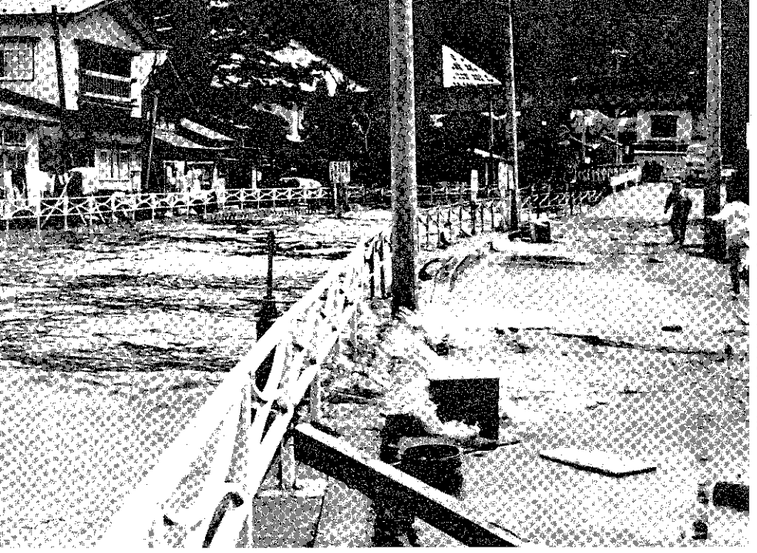


あっ津波だ

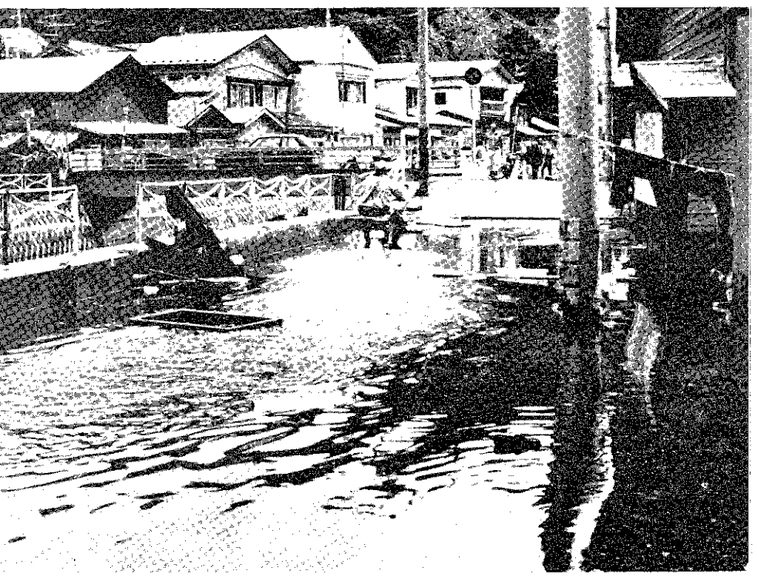
引き潮（深浦港）

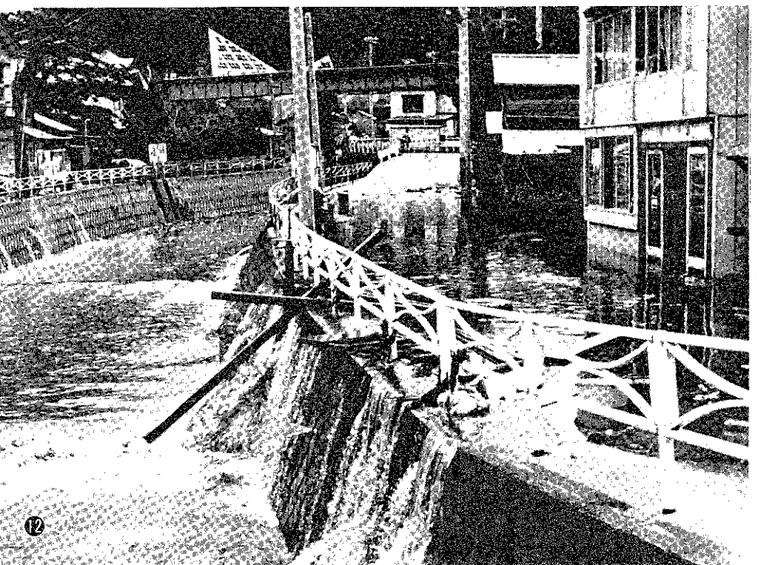
満ち潮（深浦港）

津波急襲



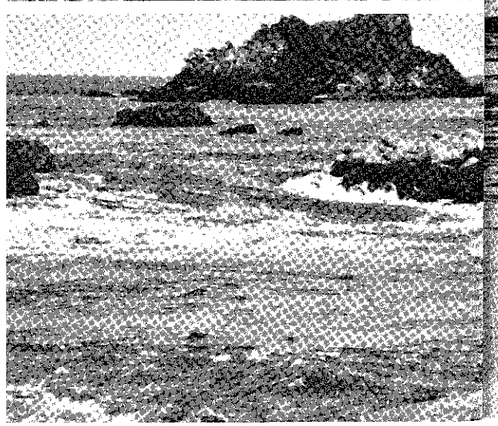
◀川原町・床上浸水が続出





撮影者／増富與志徳さん

⑫



撮影者／宮本俊夫さん

撮影者／七戸茂勝さん　⑬

漁船がもみくちゃに

（深　浦　港）

転覆

津波による被害が最も大きかったのは、なんといっても漁船・漁具等の被害である。その被害額は実に23億4,390万円にも上った。
転覆などで失った船は89隻を数えた。

巨体をさらした ドロール船

津波の第一波で漁船が転覆（深浦港）

津波に襲われ寸断された国道

護岸を乗り越え、鉄道を乗り越え、国道１０１号線をひとのみにした津波
（晴山）

公共土木関係の災害は、道路31地区、河川７地区、橋梁２地区で、その被害額は５億２,500万円にも上った。

運行不能となた国鉄五能線

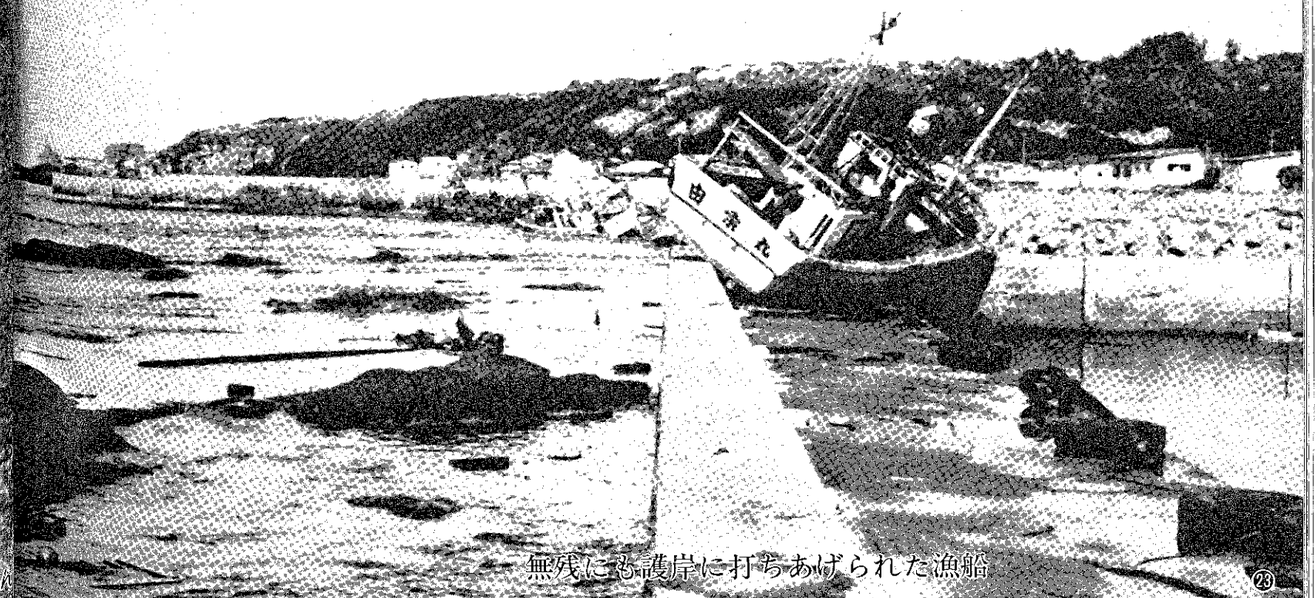
国鉄がうけた被害も大きく、42件、
その被害額は3億5,000万円と見込
まれている。この被害で、22日間も
住民の足は奪われた。

（晴　山）

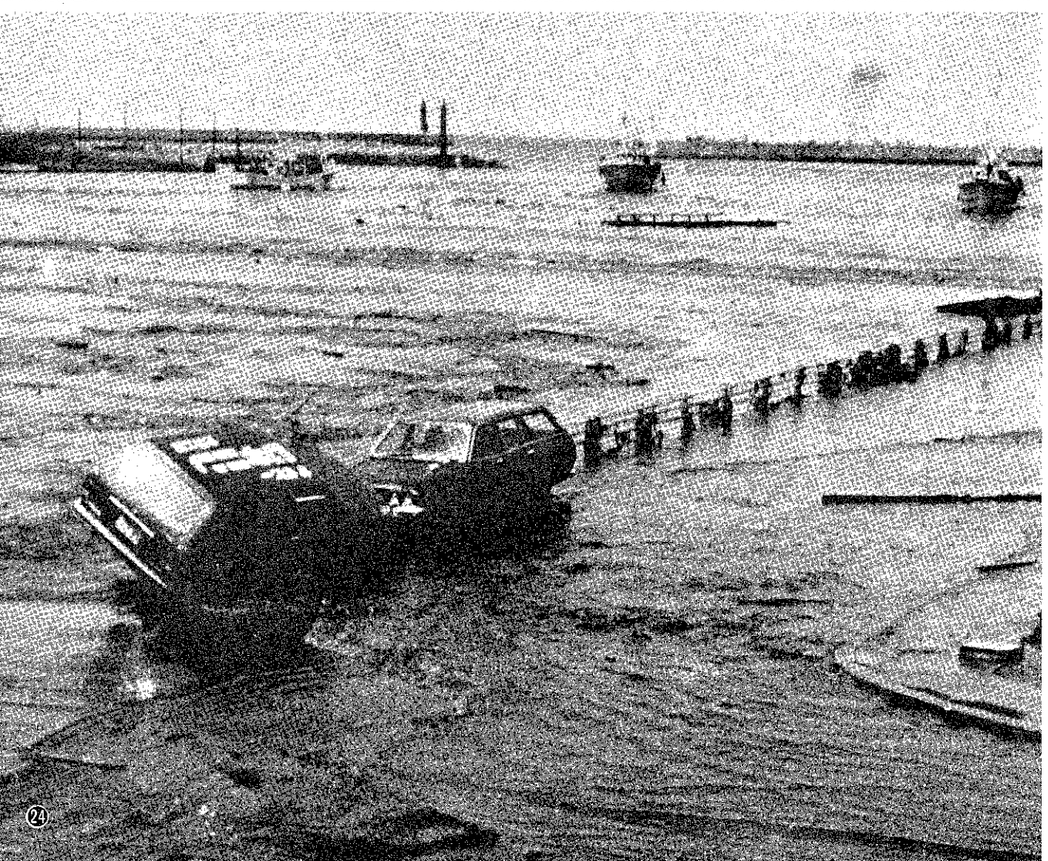
修羅場と化した田野沢

撮影者／宮本信晴さん

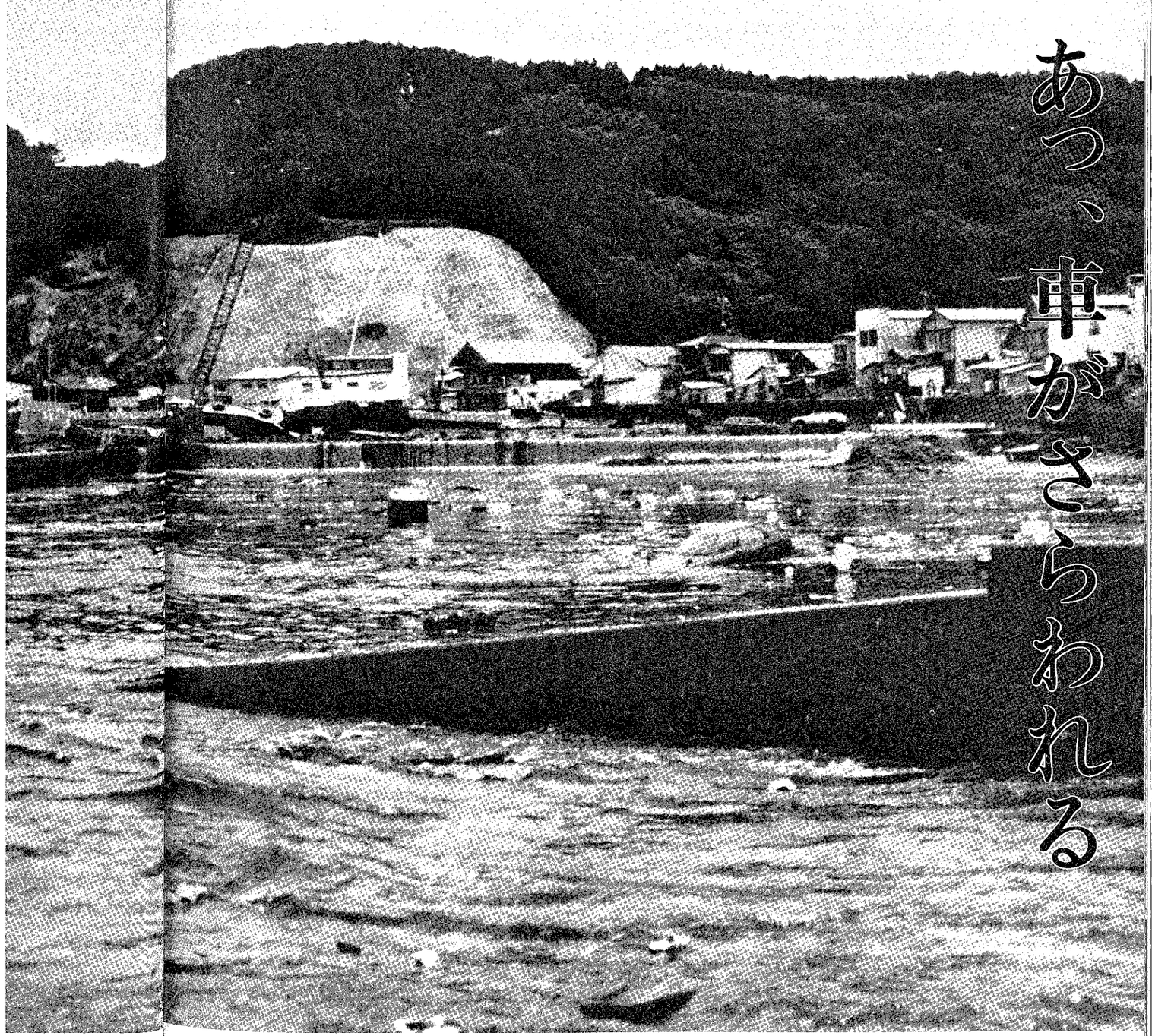
倒れた！　落ちた！



無残にも護岸に打ちあげられた漁船



撮影者／斉藤健一さん



あっ、車がさらわれる

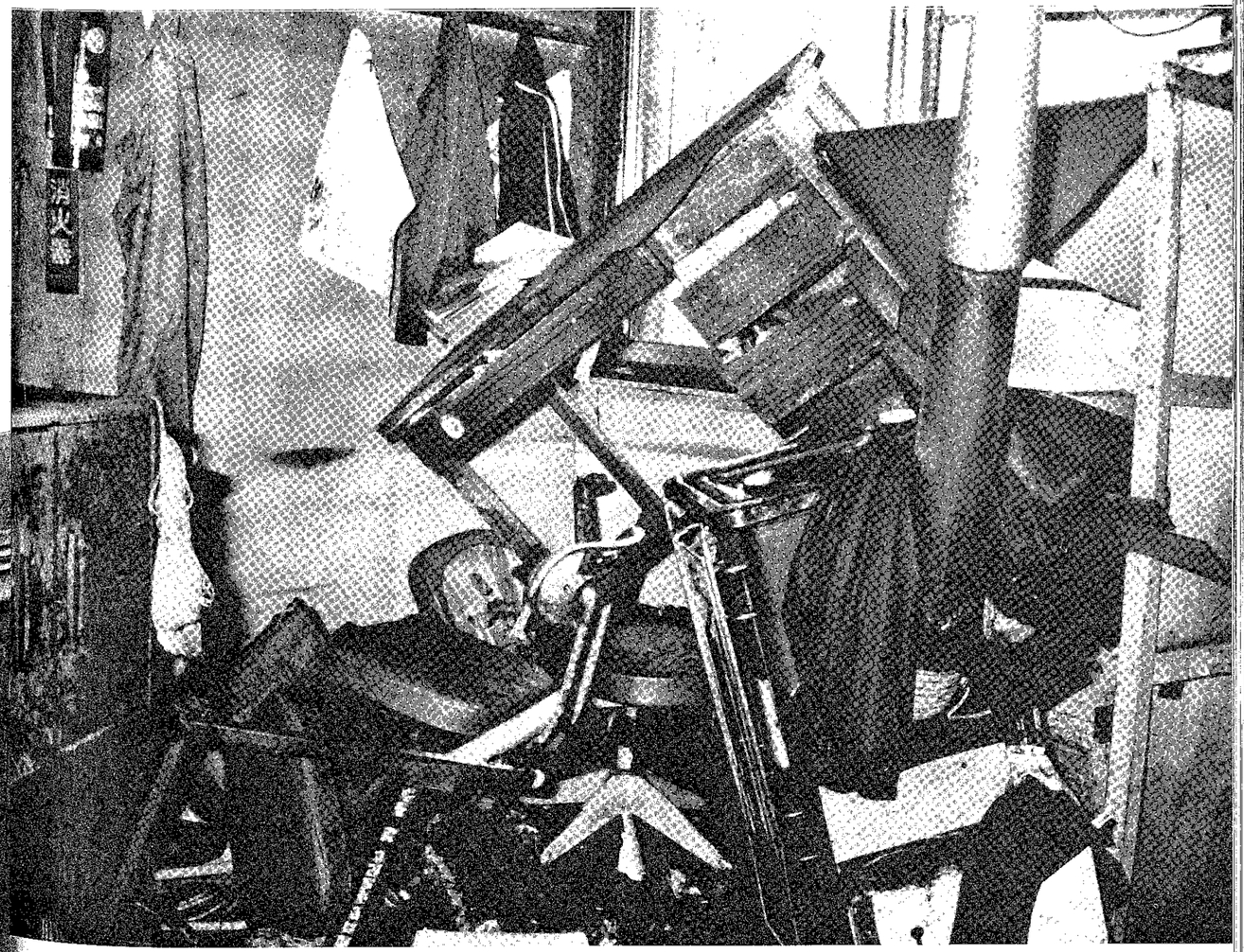
撮影者／八木　博さん

埋立地駐車場に駐車していた車が
次々に海へ運ばれ、――――
そして沈んだ。　　（深浦）
わが町の自動車被害は全部で53台
にも上り、その被害額はおよそ
7,000 万

深浦漁協に津波が浸入

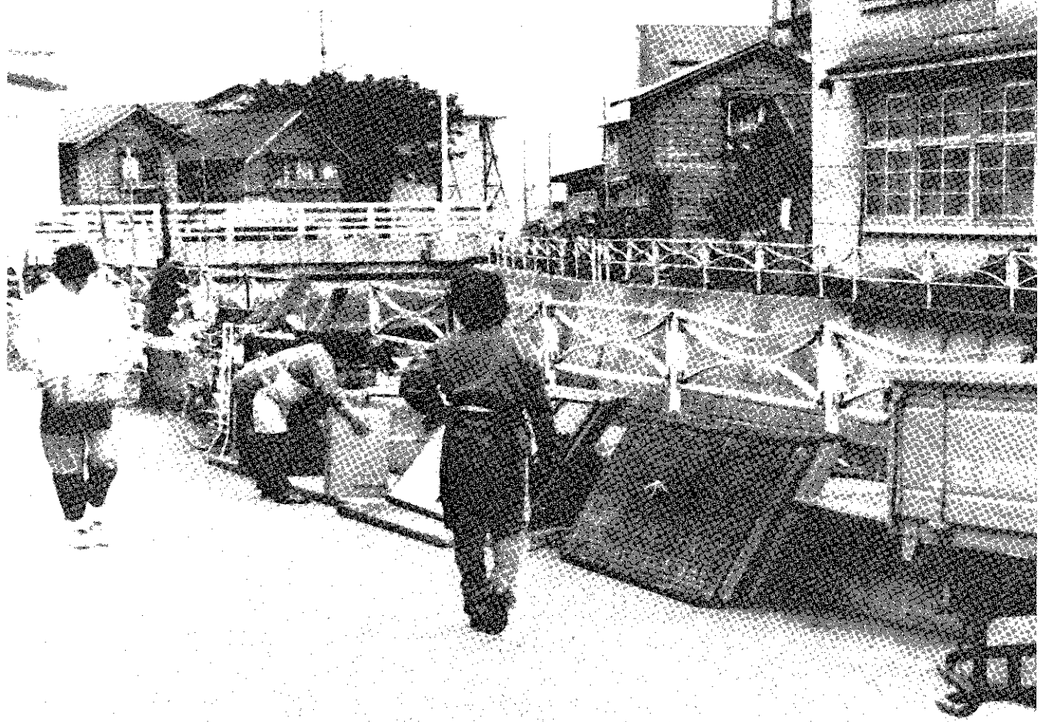
わか町の家屋被害は６６７戸に及び、その被害額は5億7,000万円にも上った。
このうち、住家床上浸水は28戸、床下浸水71戸、非住家流失25戸である。

ぐらっ!!その一瞬



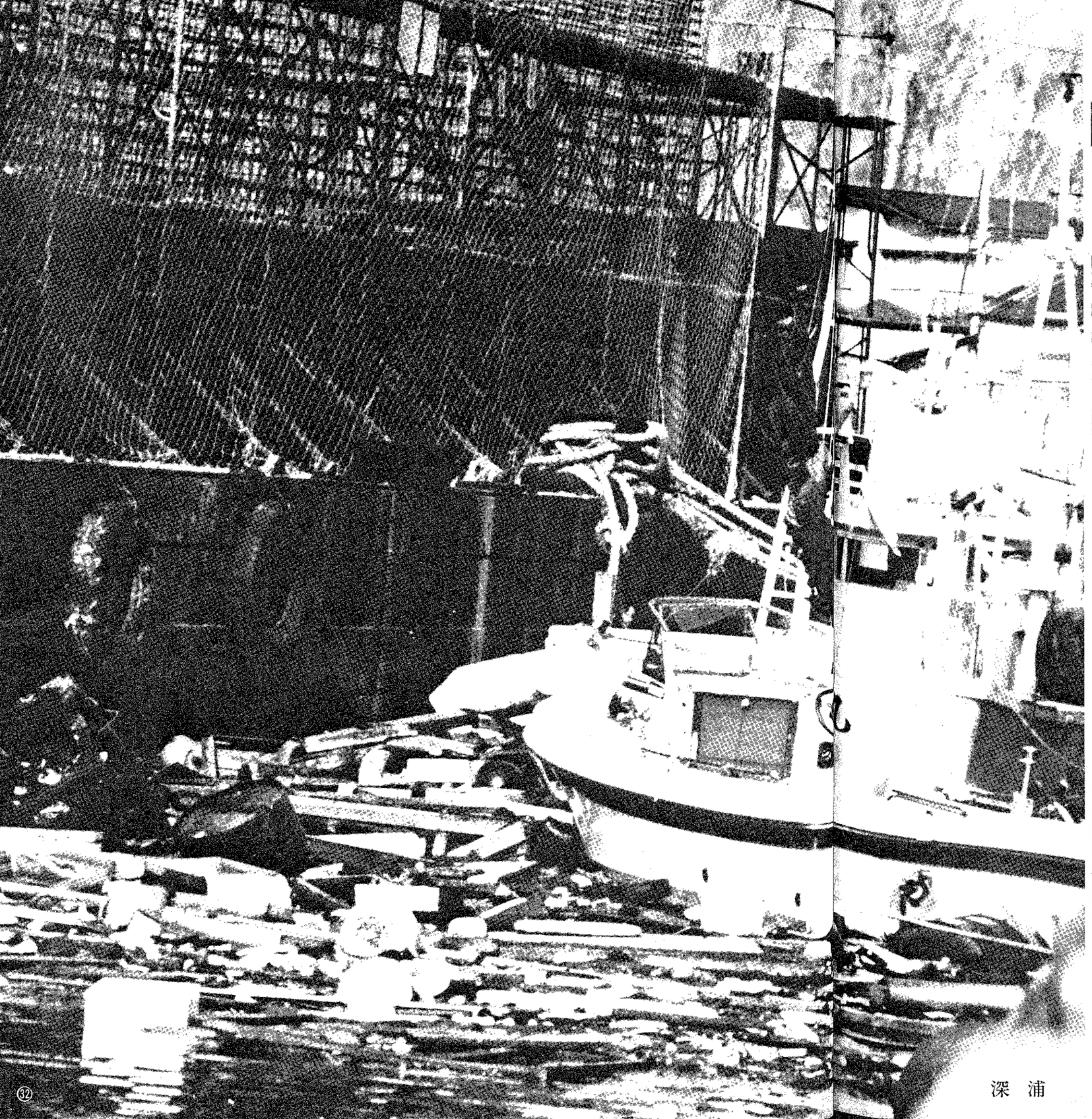
震度5の強震
そして津波が追いうちを
かけるように襲ってきた。

撮影者／加藤勝行さん

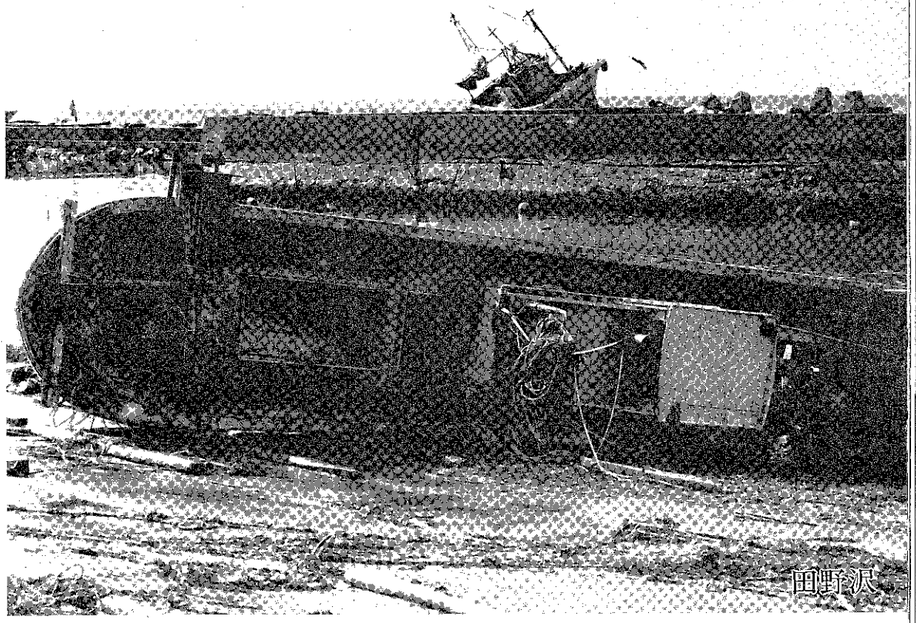


磯崎川が逆流

深浦港から磯崎川を押し上げた津波!!
川は逆流して付近の住宅は水浸しになった。

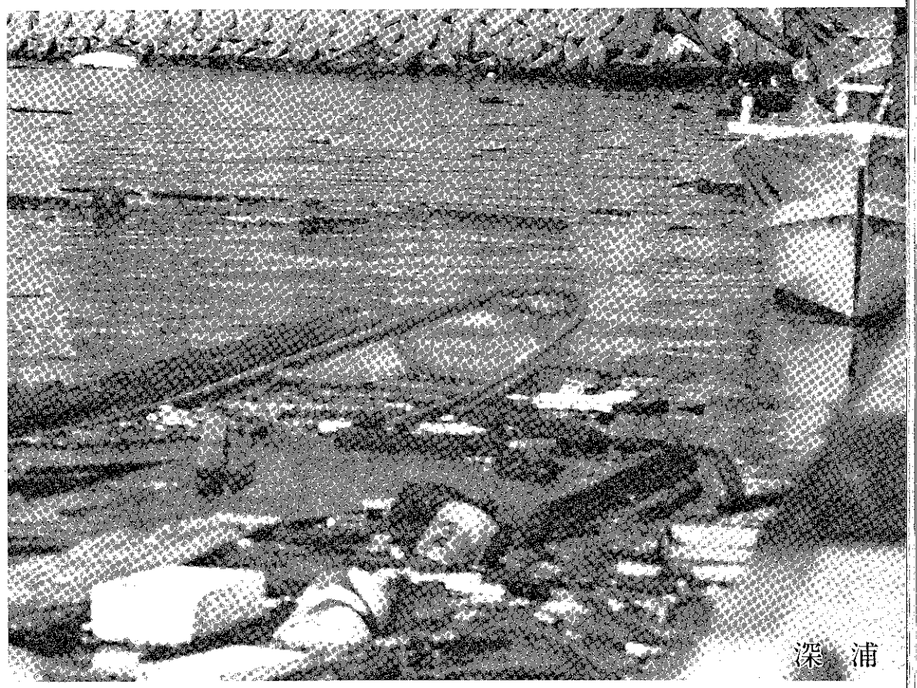


深　浦



田野沢

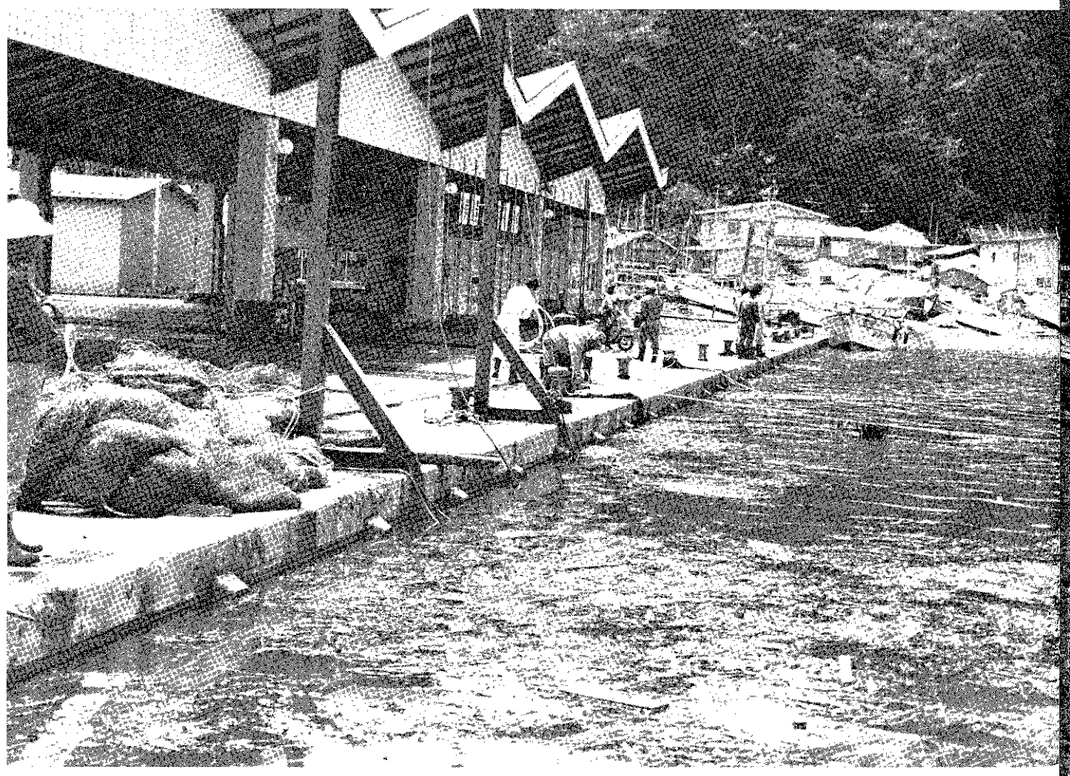
沈　没

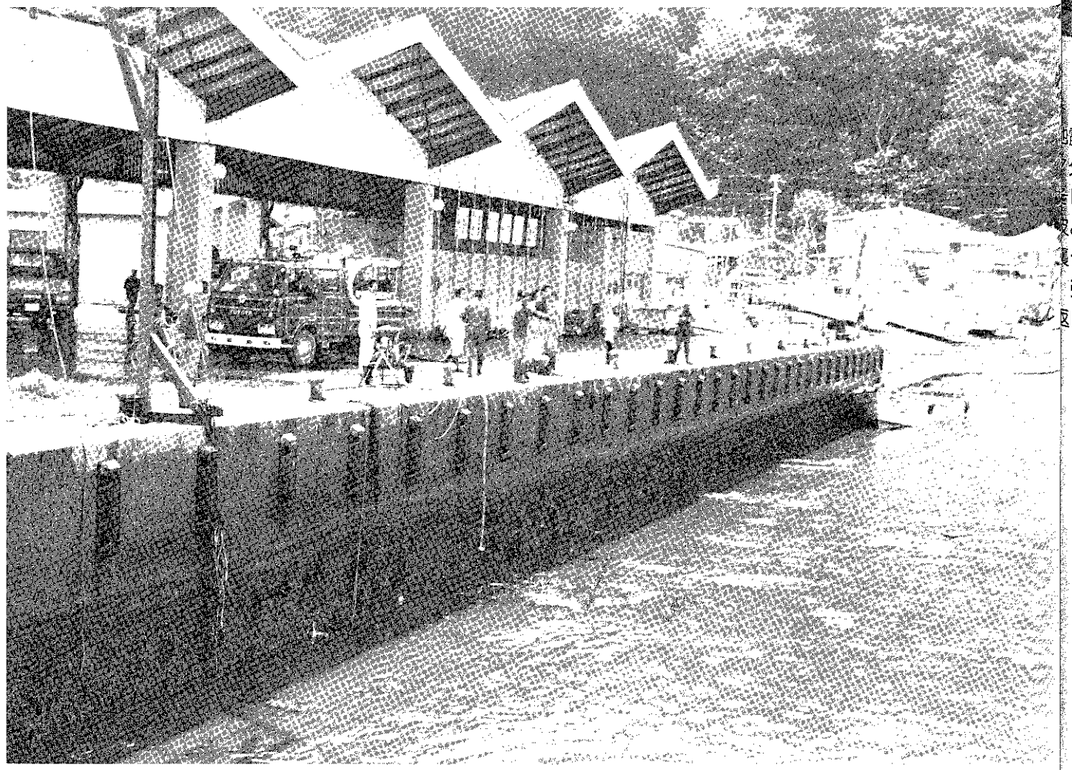


深　浦

ある船は転覆……。そして、ある船は沈没……。

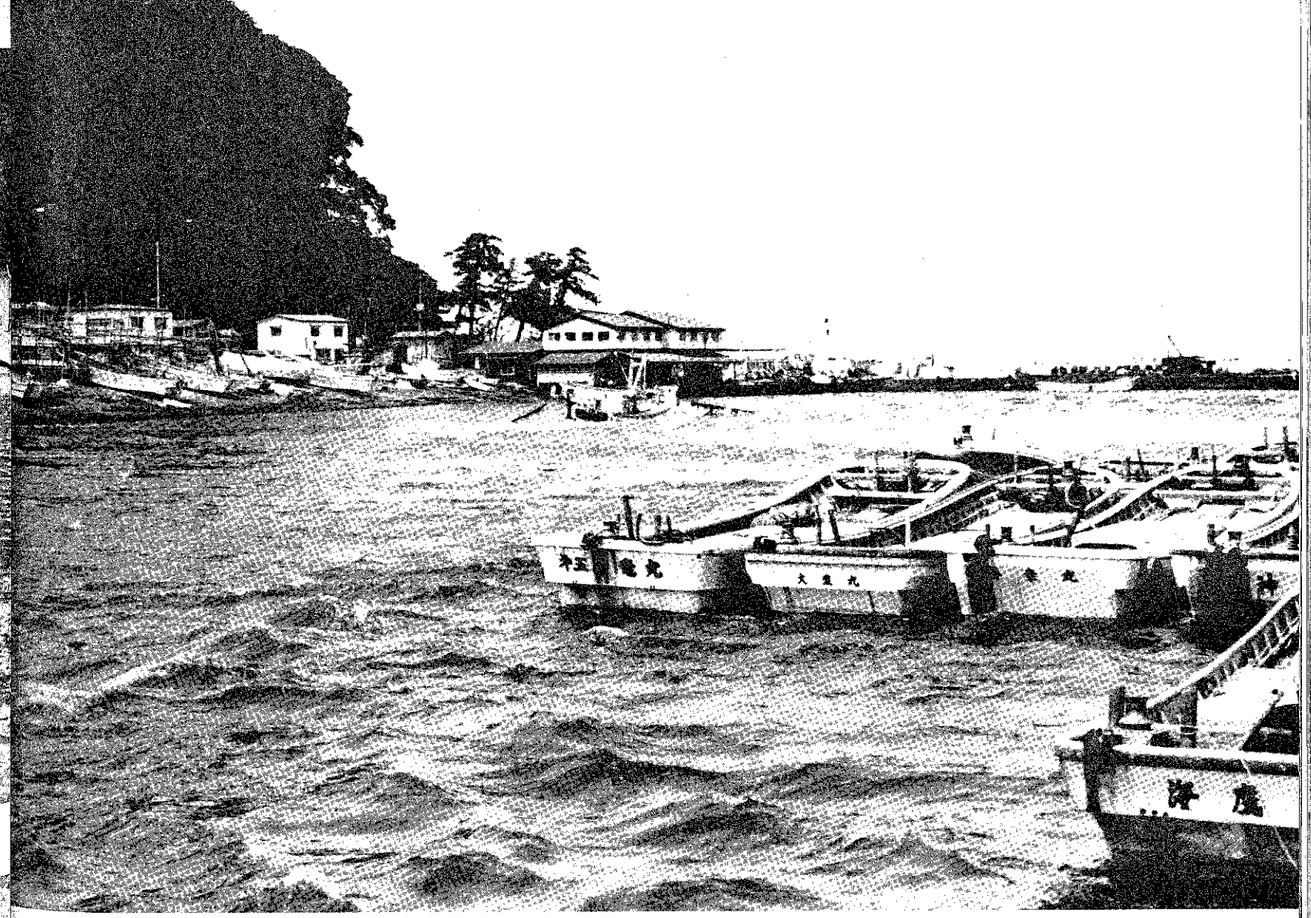
落差





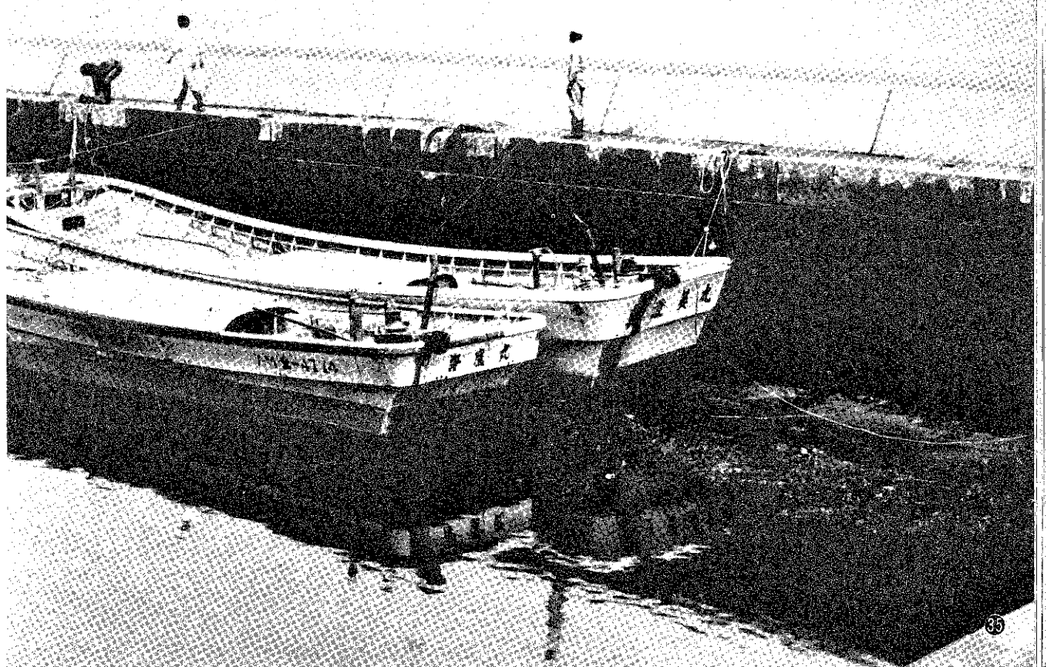
北金ケ沢漁港の荷さばき場

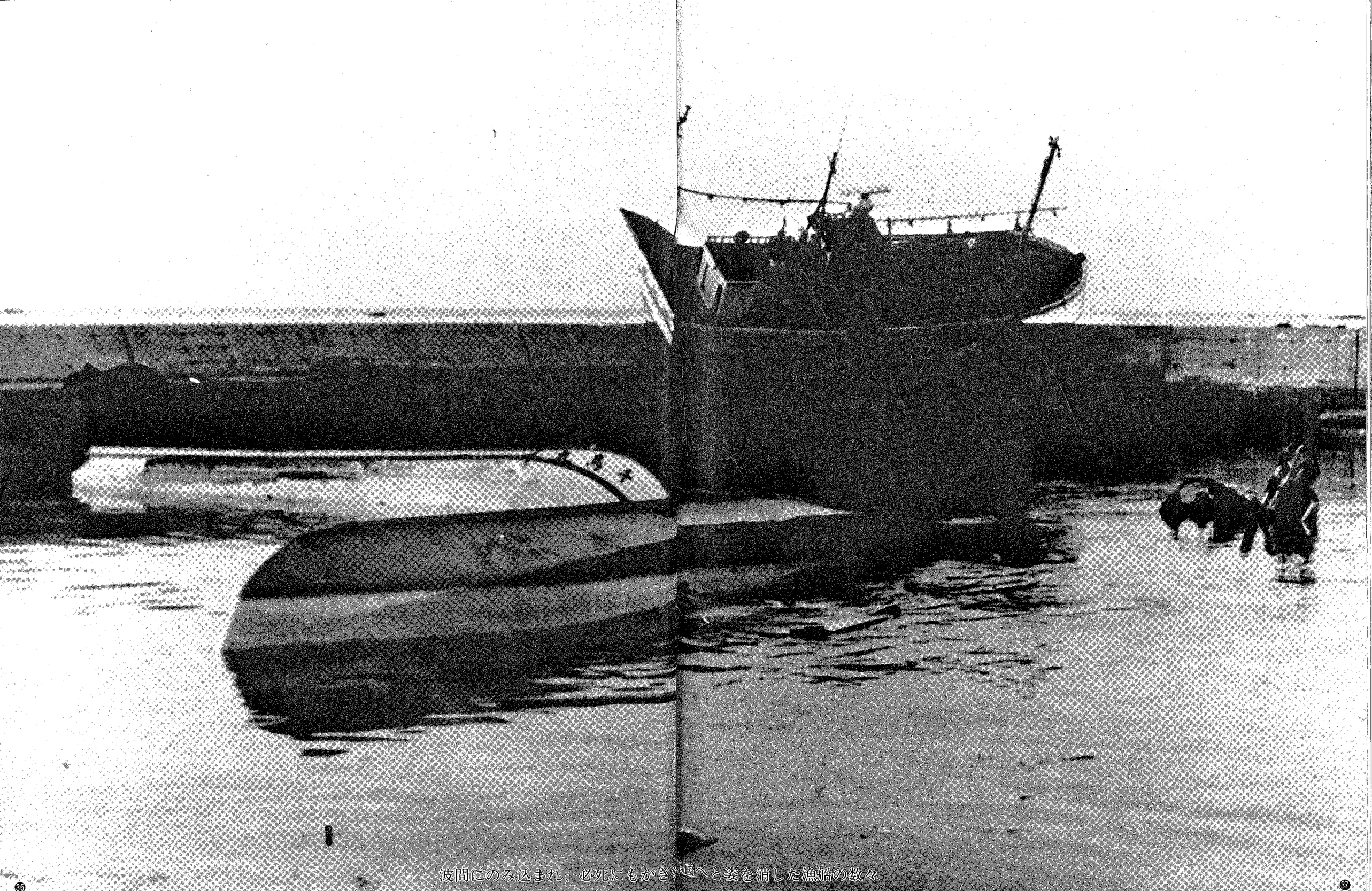
撮影者／
根上　孝さん



北金ケ沢漁港

震から７分後の午後０時
分、引潮が始まった。
して、さらに７分後、津
となって深浦沿岸一帯を
つてきた。
引いては押し寄せる繰り
返しが、延々と続いた。





波間にのみ込まれ、必死にもがき、海底へと姿を消した漁船の数々

避　難

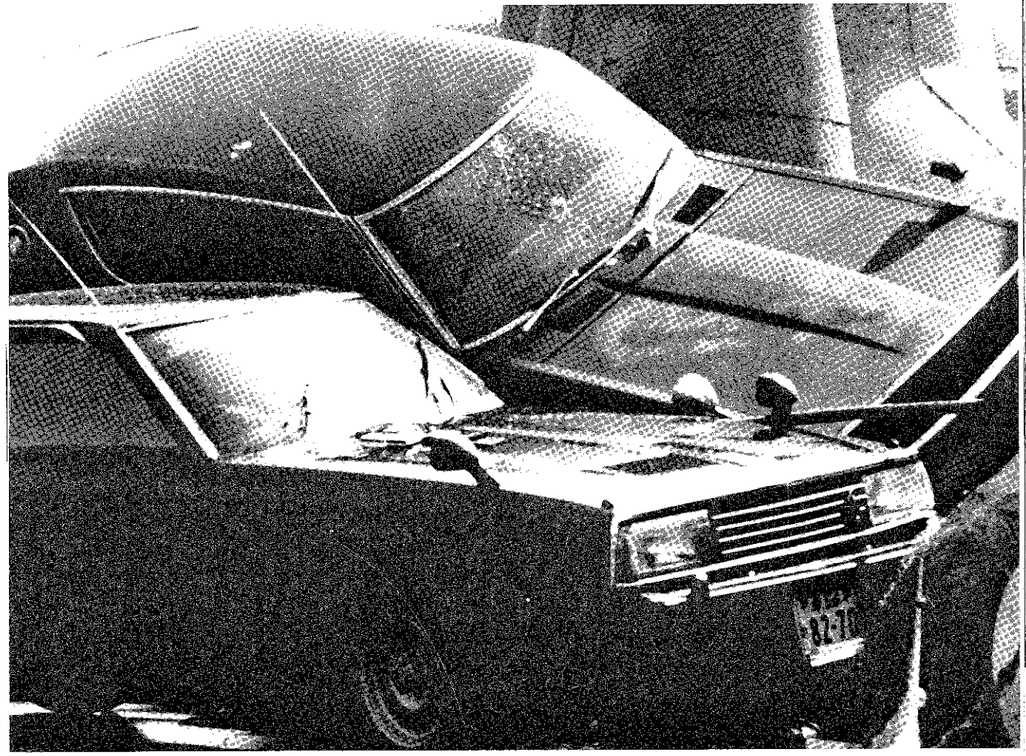
避難命令が出され、いち早く高台の
深浦小学校へ避難する町民の皆さん。

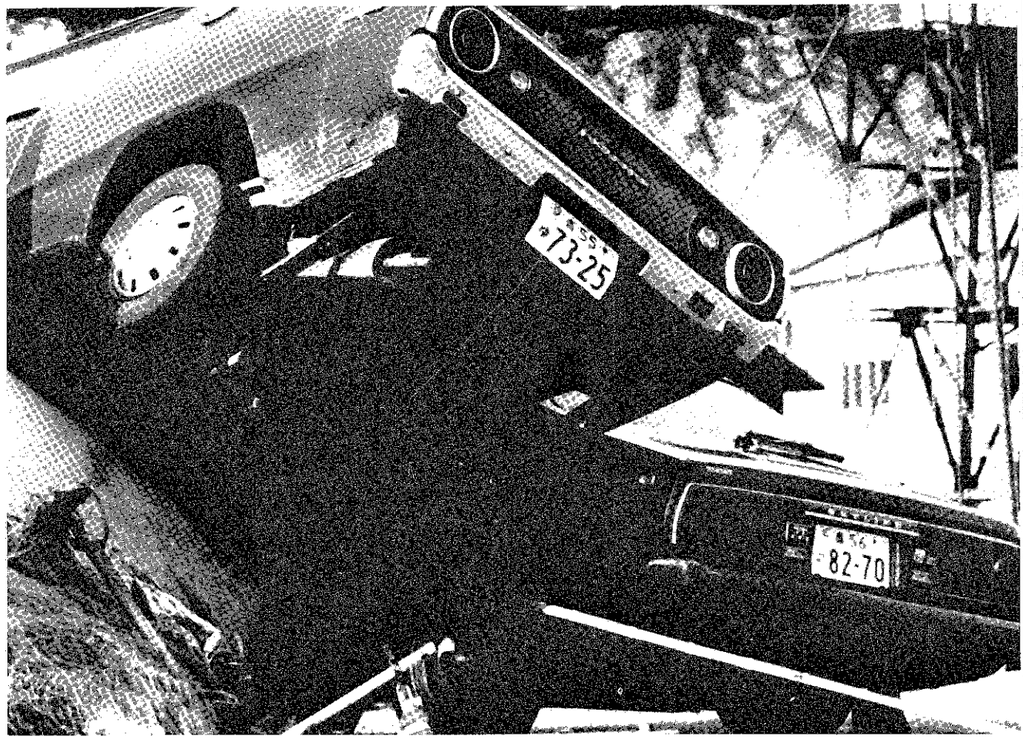
撮影者／野呂隆昌さん

漁船が岸壁に打ちあげられ、車が沈む。

風合瀬漁港

破　壊





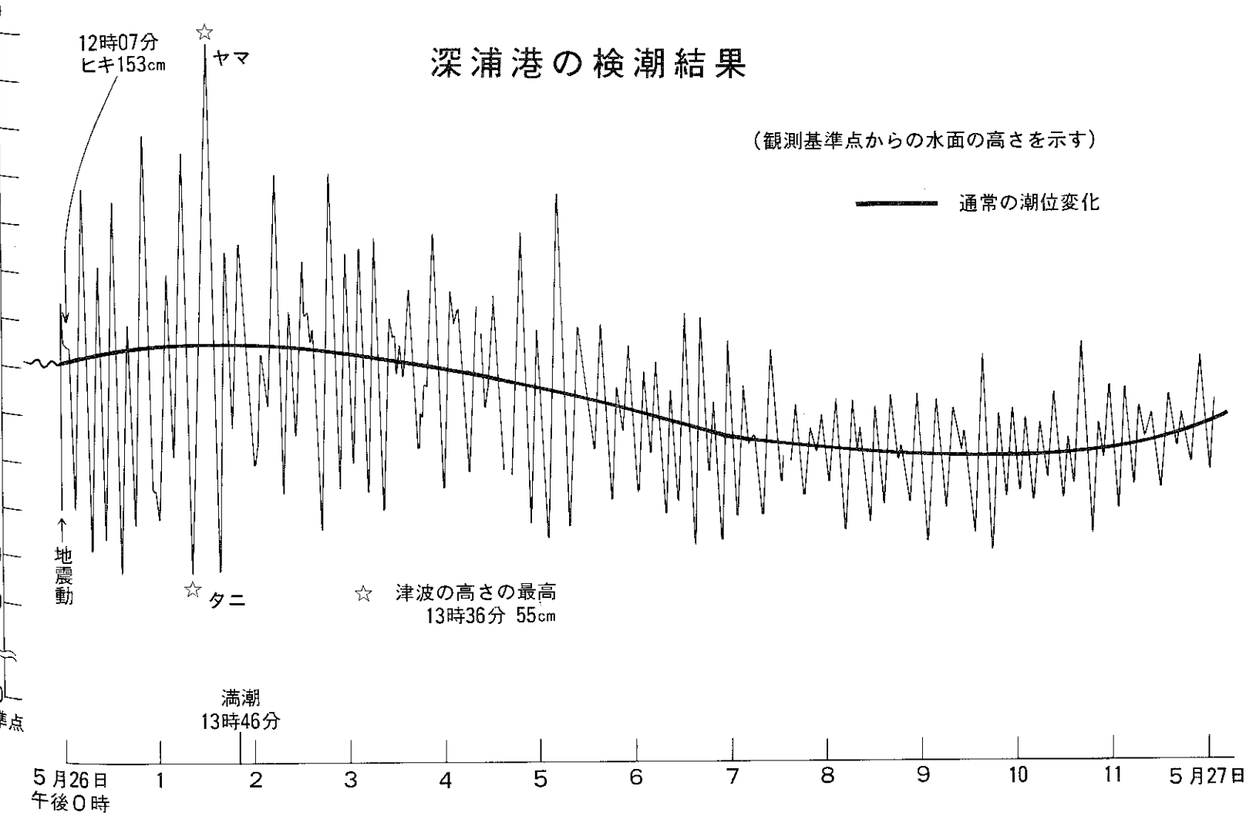
路中央部まで深い亀裂が
り、路肩が欠壊した町道
東野線　　（東野）

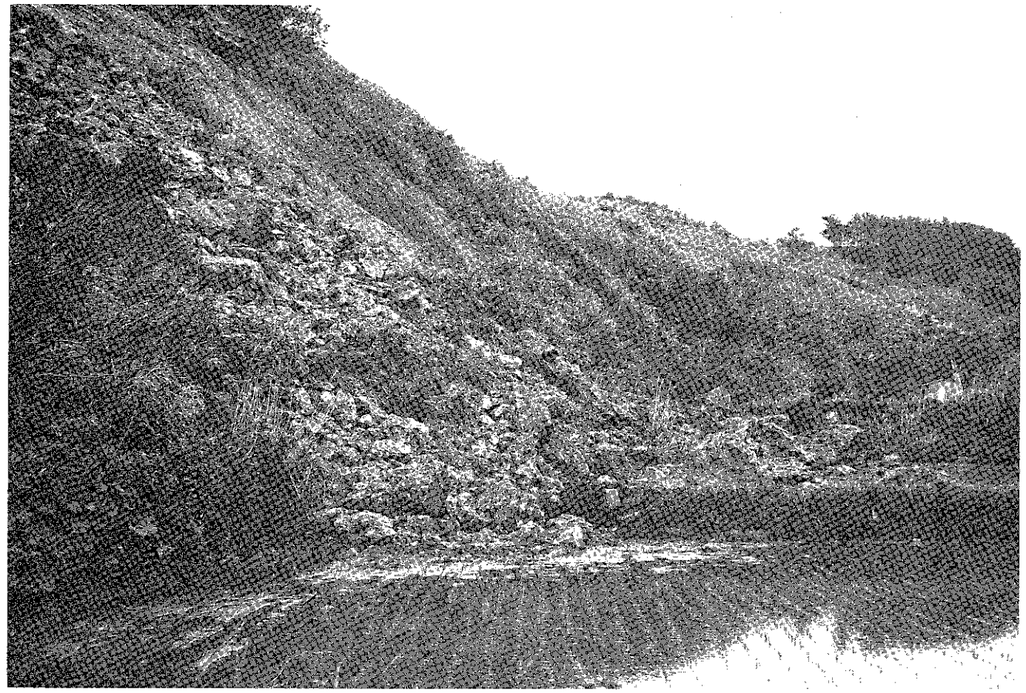
路面全体をわたって、大きな
亀裂が入った林道、稲の山線
（関）

5月26日 深浦測候所の検潮儀は図のように記録

深浦港の検潮結果

（観測基準点からの水面の高さを示す）

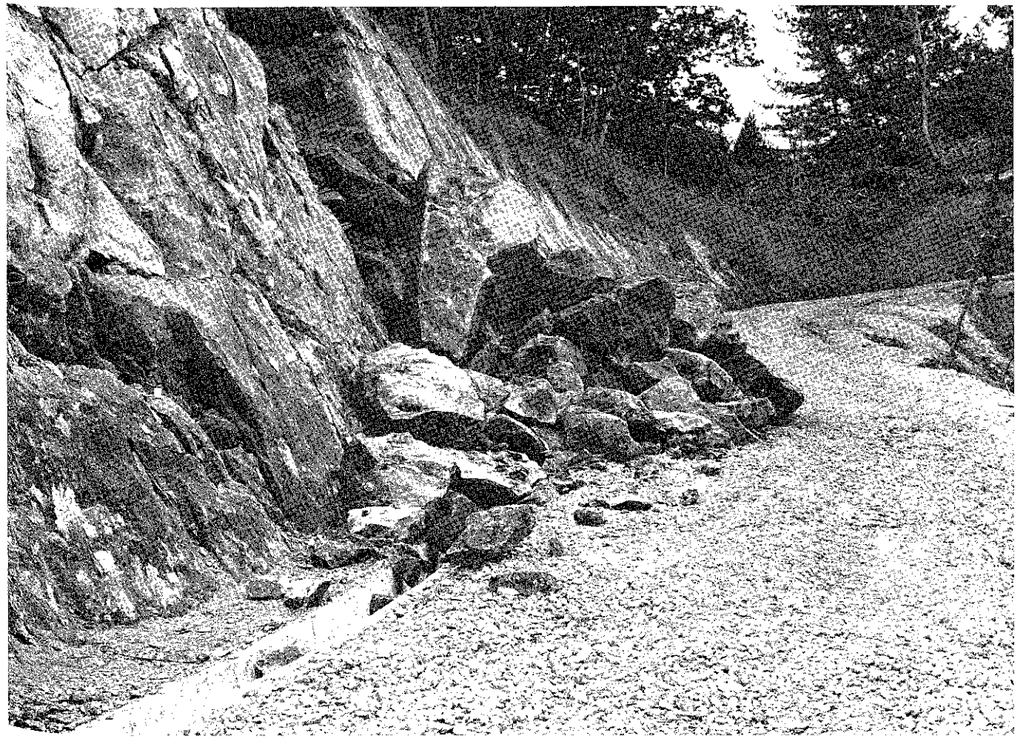




山崩れが生じ、農業用水路や田んぼが埋没した小広戸地区（広戸）

産業道路である林道
葉野木平線も、各所
寸断。特に路肩の欠
は目をおおう惨状
（横磯）

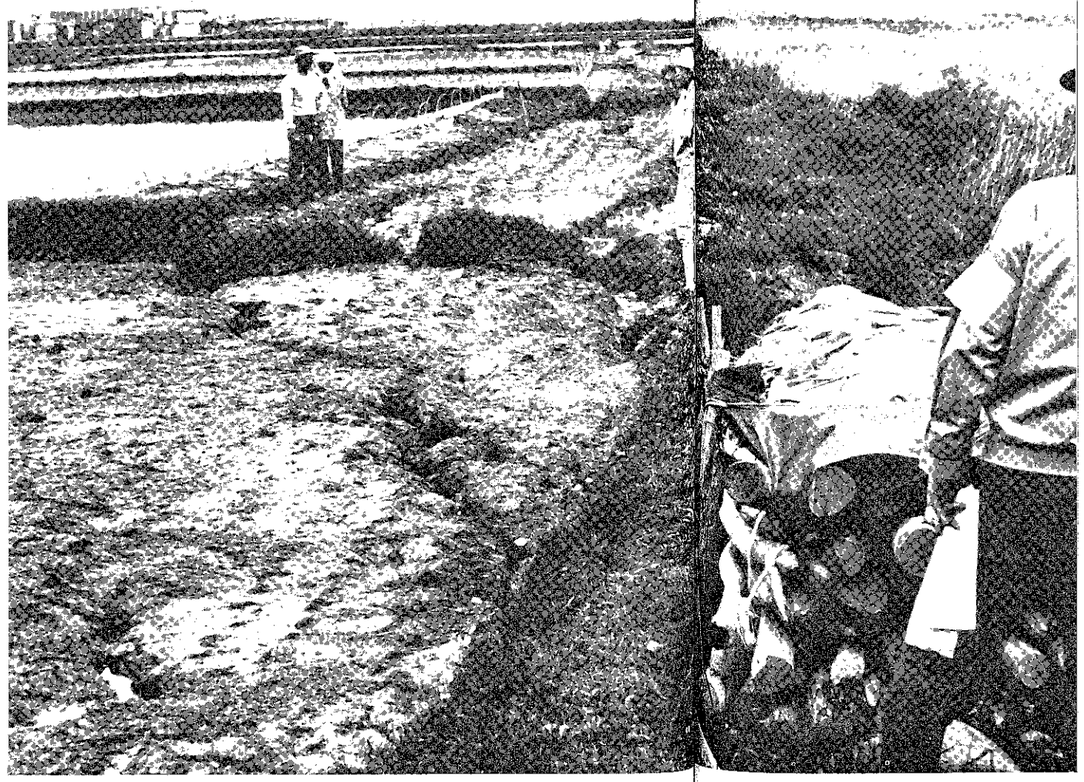
路肩が崩れ落ちたり
おびただしい無数の
亀裂が入った農道・
石動線　　（岩坂）

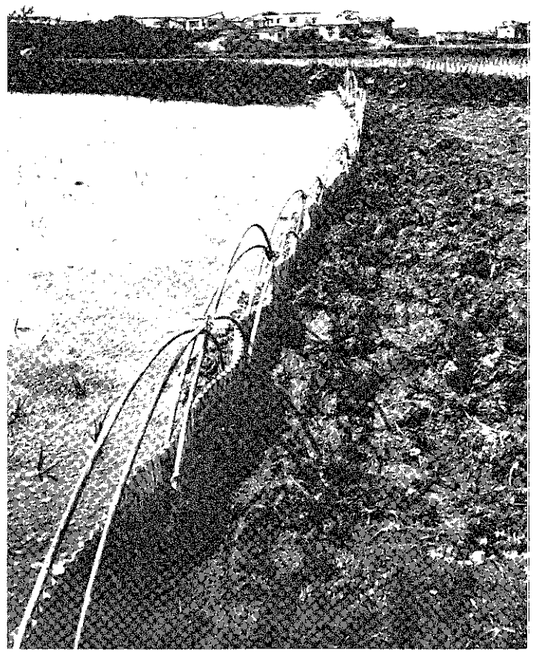


のり面の落石が各所に
起った林道・桜沢線
（柳田）

農作物

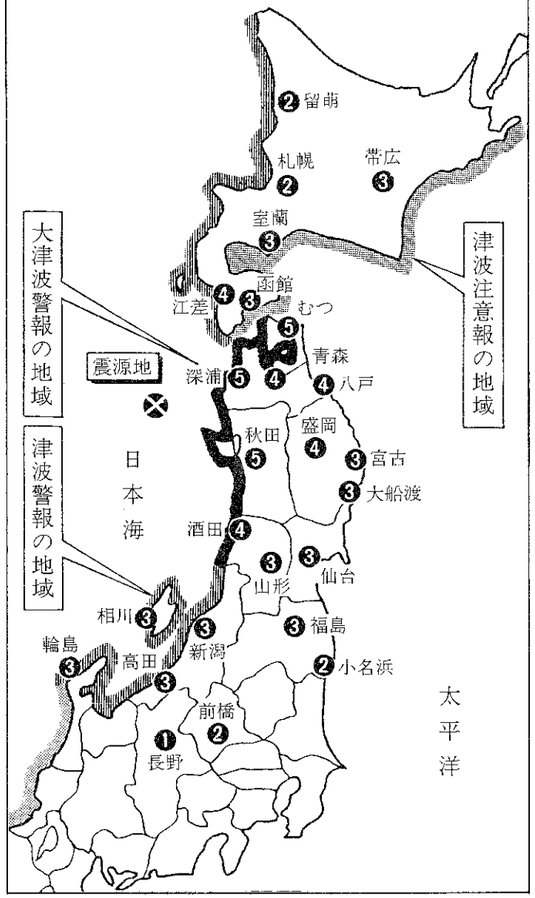
農作物では、なんといっても水田が第一の被害をこうむった。
わが町全体で、6haの水田かん没をみても被害の大きさがわかる。ここの地域では、1haがかん没した。　　（関）



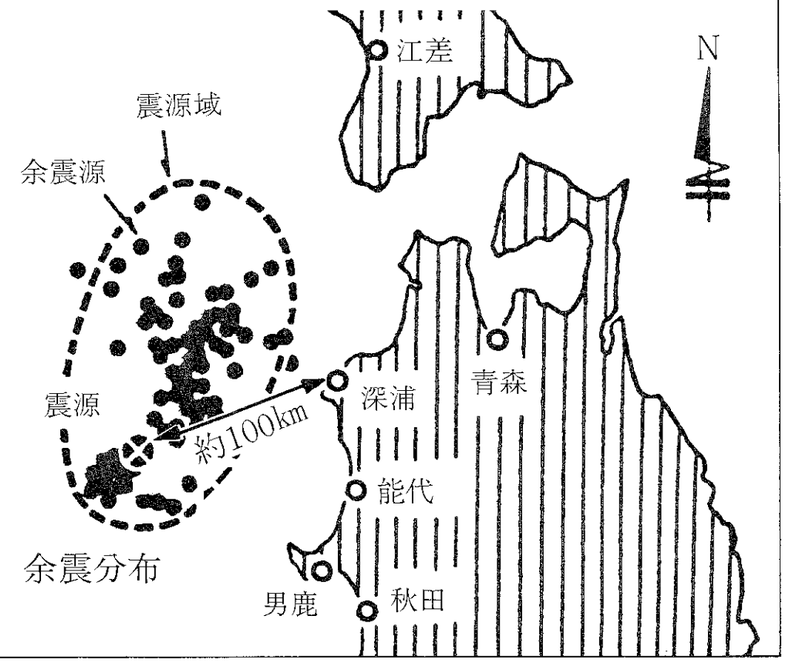


田植え直後に発生した地震で、広い地域にわたって浮苗田ができた。田植えが済んだばかりの田んぼは、震動で苗がすっかり浮き上ってしまった。

その時 各地の震度は



余震の分布と震源地

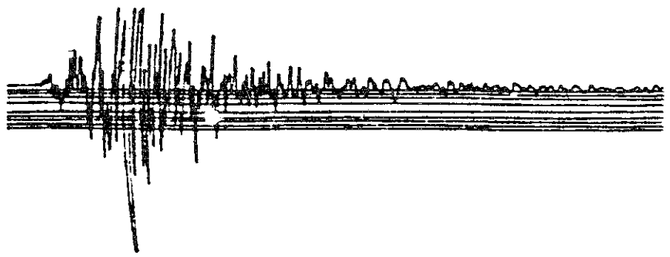


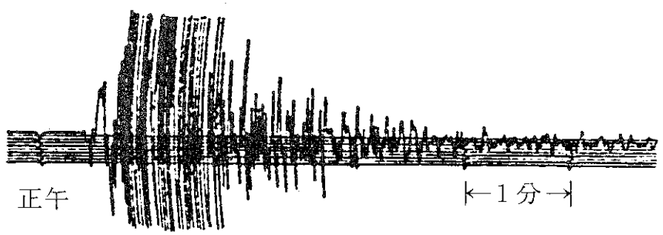
浮苗田

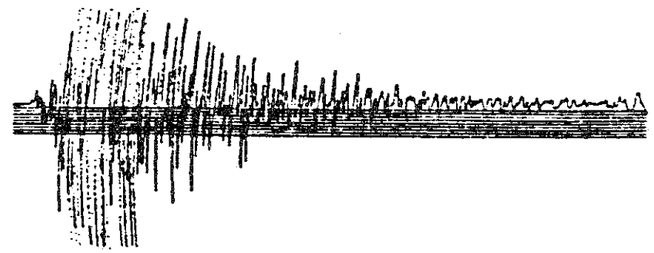
わが町の水田被害面積は、全部で77ヘクタールに上った。
その中で最も多かったのが田植えしたばかりの苗が、まだ活着しない幼な時に揺り動かされたためことごとく苗が浮いてしまった農家による被害である。
この地区では、実に20haがその被害にあった。田の水面に土が細かく盛りあがった。地震の恐しさを思い知らされる。（柳田）

青森地方気象台がとらえた5月26日の12時00分22秒 地震

地震計

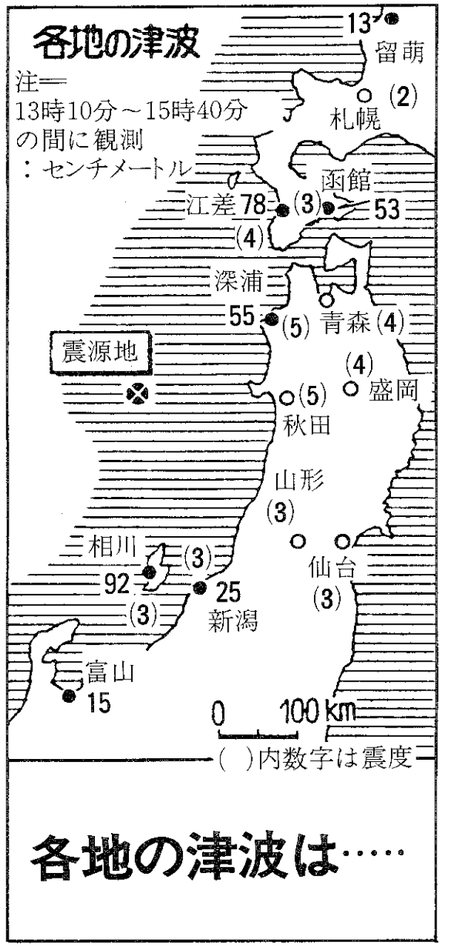






観測史上最大の規模

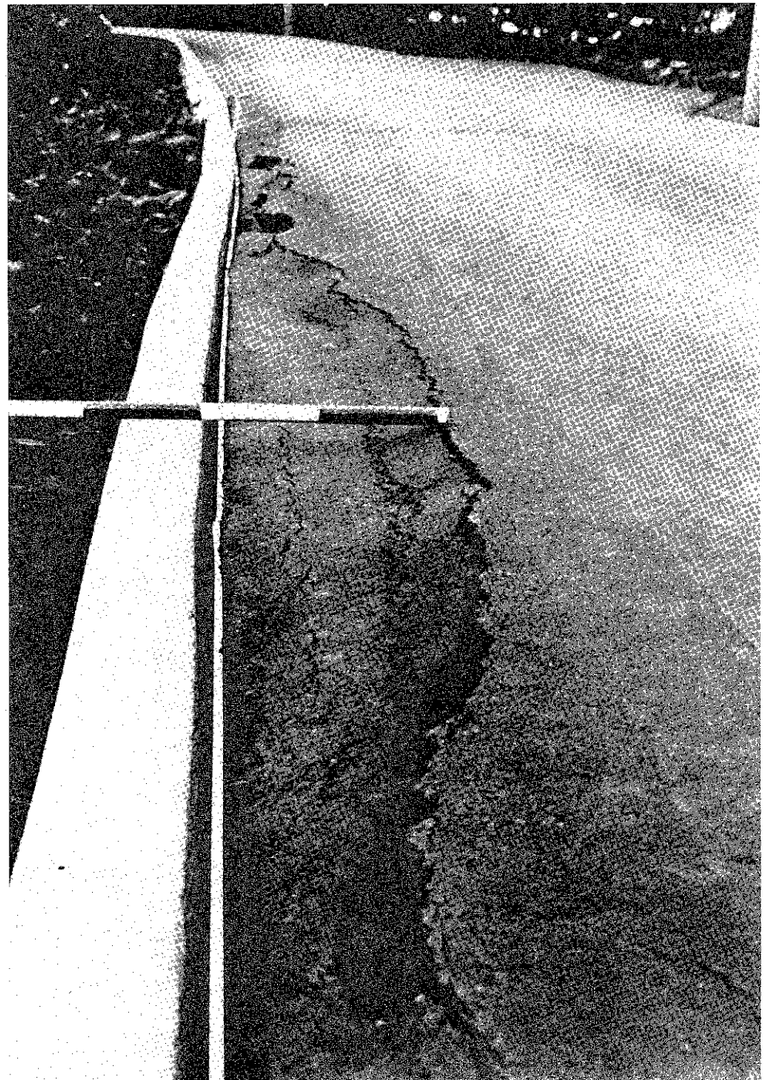
冠水田



各地の津波は……

急襲した津波は、強固な護岸を乗り越え、浜田をひとなめにのみ込んでしまった。散乱した跡には、苗の株すら見あたらない、すさまじい状況が続いている。　（追良瀬）

欠壊



生活道である町道・長慶平線も、
地震のため各地で落石や、路肩に
地割れができた。

◀八森山の主要道である林道・入前崎線の
痛手もすごい。
この路線も各所で路肩欠壊が生じた。

路面が中央部で真っ二つに
割れた農道・石動線
（岩坂）

道路ののり面がずり落ちて
きた林道・桜沢線
（柳田）

農道・林道・農業用水路・
溜池など全部で70地区に及
び、その被害額は1億6,100
万円に上った。

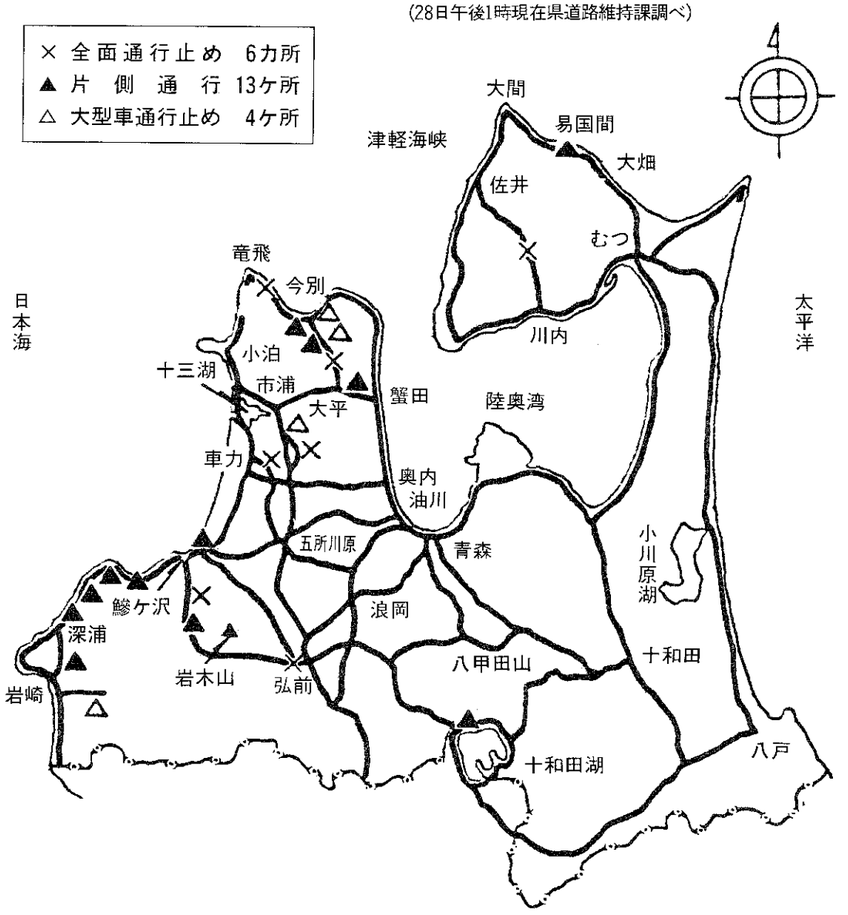
海と山にはさまれた国道101号線はいたる所で土砂が崩れ、通行困難になり、渋滞が続いた。（晴山）

路面が割れ、スタスタになり段差が生じた（北金ケ沢バイパス）

道路障害個所

（28日午後1時現在県道路維持課調べ）

× 全面通行止め　6カ所
▲ 片側通行　13ケ所
△ 大型車通行止め　4ケ所



田んぼに舟が

津波は執ように何度となく波状攻撃をかけてきた――。
田んぼに漁船が飛び込み、板切れといわず、トラム缶といわず、無数にその残骸が田んぼに散乱した。
（晴山）

地元の東奥日報が５月27日の朝刊で県内の状況を次のとおり報道

ドキュメント

午後０・０・18　東北地方の日本海側を中心に強い地震。西郡深浦町、むつ市で震度５、青森、八戸市などで震度４を記録。

０・３　深浦町で有感の余震。震度３。震源地に近い同町では以後たて続けに。

０・８　余震。青森で震度２。

０・10　県警が地震対策本部。

０・10　秋田県男鹿市・男鹿水族館で観光客10人が津波に襲われ６人が不明。同県能代市の能代火力発電所の護岸工事現場で作業船数隻が転覆、７人死亡、27人不明。男鹿市加茂海岸で遠足の小学生12人が高波にさらわれる。

０・14　本県はじめ東北、北海道の日本海側に大津波警報発令。

０・15　県でも災害対策本部。

０・16　深浦町で33㌢の津波の第一波観測。

０・20　深浦町が沿岸住民に避難命令。

０・33　深浦町で有感の余震。８回目。震度３。

０・36　深浦町で最大55㌢の津波。

０・39　余震。青森で震度２。

０・48　県警が岩木川の土手を調査。

０・57　余震。青森で震度３。

１・０　県消防防災課に「鰺ケ沢、深浦に避難命令」の報告。市町村からの被害報告で電話鳴りやまず。

１・５　十三湖河口で釣り客数人が波にさらわれたとの第一報が県警に。

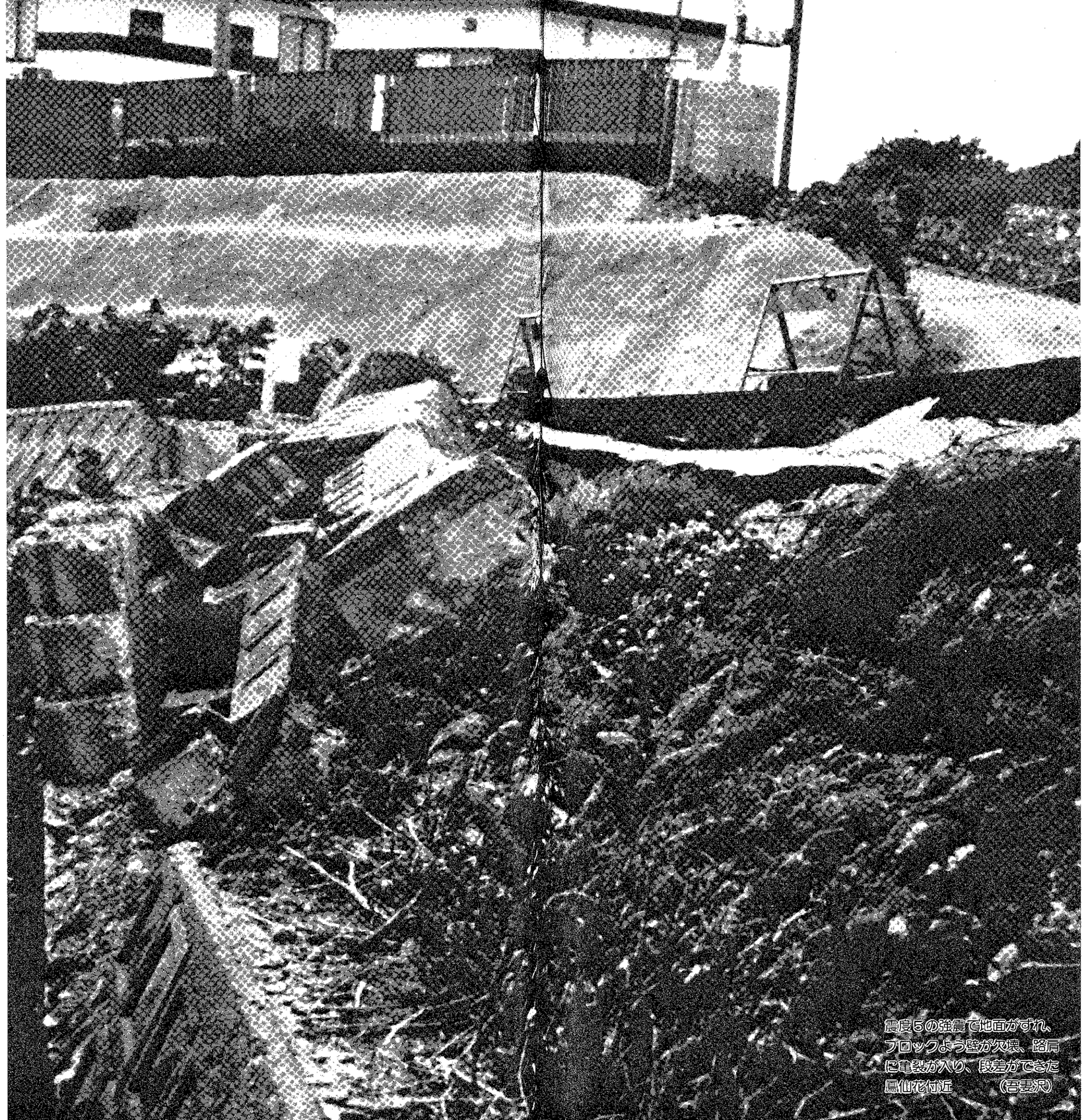
１・７　十三湖大橋が10～20㌢隆起しているとの情報。大型車通行不能。

１・25　東郡稲垣村の簡易水道が断水。

１・27　東郡蟹田町の蟹田川河口の潮位が20㌢上がる。

１・28　深浦町横磯の海岸でも１人行方不明の情報。

１・31　西海岸五能線付近の道路の土砂崩れで線路上に土砂が流出していることがわかる。



震度５の強震で地面がずれ、ブロックよう壁が欠損、路肩に亀裂が入り、段差ができた　鳥仙花付近　（吾妻沢）

１・44　鰺ケ沢町で護岸工事中の作業員10人が波にのまれたとの第一報。病院に搬送された４人のうち３人が死亡。

２・８　県土木部長室に県内道路の被害報告入る。通行止めなど25路線。

２・27　北郡小泊村で漁民ら数人が行方不明の情報。

２・28　十三湖大橋で応急修理始まる。

２・40　小泊の漁民のうち１人を救出。

２・46　深浦町で有感の余震、19回目。震度３。

２・53　青森港で青函連絡船、フェリーが着岸できず沖待ち。

３・０　深浦町の田野沢海岸で漁民１人行方不明の情報。青森市のカネ長デパートでは繰り上げ閉店。

３・３　県警機動隊第二陣が鰺ケ沢町へ出発。

３・23　県警機動隊の第一陣が十三河口へ到着。

３・30　知事「大変な災害だ。対策に万全を期す。これから鰺ケ沢、深浦方面を見てくる。」

３・25　自衛隊機が空から撮影した被災地のビデオが知事室へ。山内、志賀両副知事らに説明。

３・50　岩崎を含む西海岸３町村の視察と被災見舞いのため知事が県庁を出発。

４・０　十三湖河口で行方不明となっていた釣り客のうち２人の無事確認。

５・55　北郡小泊村ほろ内で釣りにきていた八戸の親子波にのまれたとの情報。

８・55　津波警報ようやく解除。

９・10　不明の八戸の親子のうち１人の死亡確認。

９・46　深浦町で有感の余震、最初の地震から数え実に53回。震度１。

無残

用水路の取水口が1.5mの幅で亀裂、12mにわたって欠壊した広戸地区の水田用水路

堤体が一部崩壊したほか、周囲全体にわたって亀裂が入った成瀬の溜池
（田野沢）

大小無数の亀裂が生じた横磯の溜池 ▶

（柳　田）

八幡宮の石鳥居が倒れる

（関）

撮影者／本間柳根さん

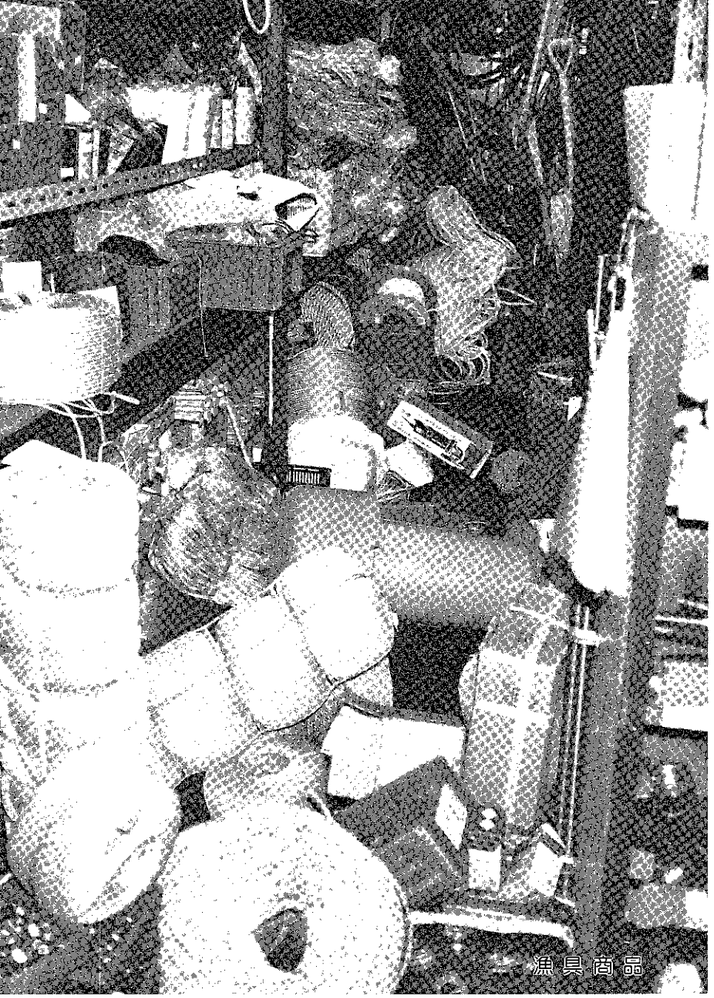
墓石が崩れる

▲墓地参道が左右にずれてしまった石畳
（柳 田）

墓石が方々で崩れた関地区

八幡宮の唐獅子転落（関）

撮影者／木村いつさん



撮影者／佐藤　実さん

惨さん 憺たん

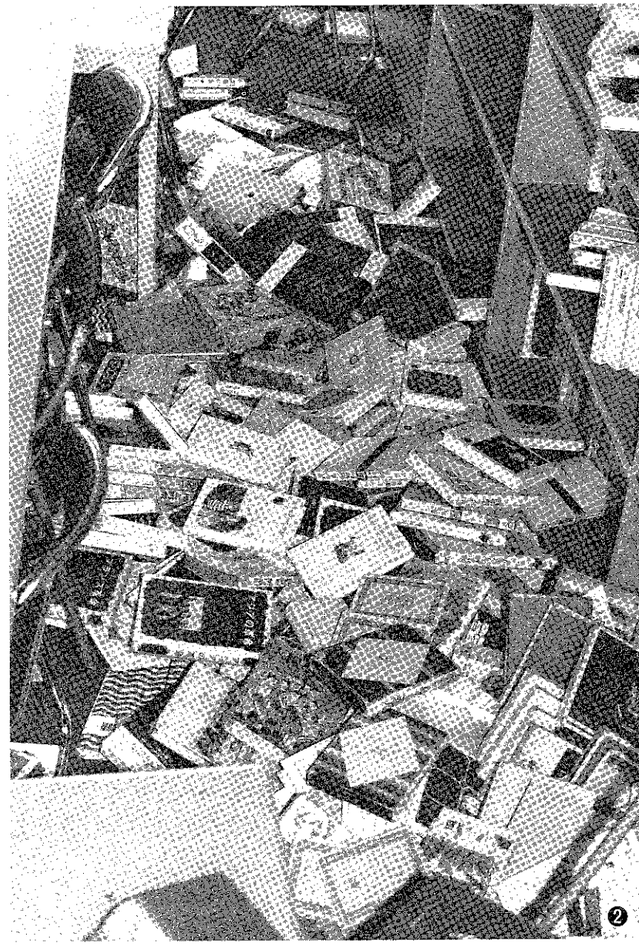
商工関係では、わが町の全域に及び商品や設備品等の破損も大きく、被害額は7億9,060万円に上った。

店は酒びんが割れ、散乱

撮影者／加納律生さん

撮影者／小山武夫さん

❶

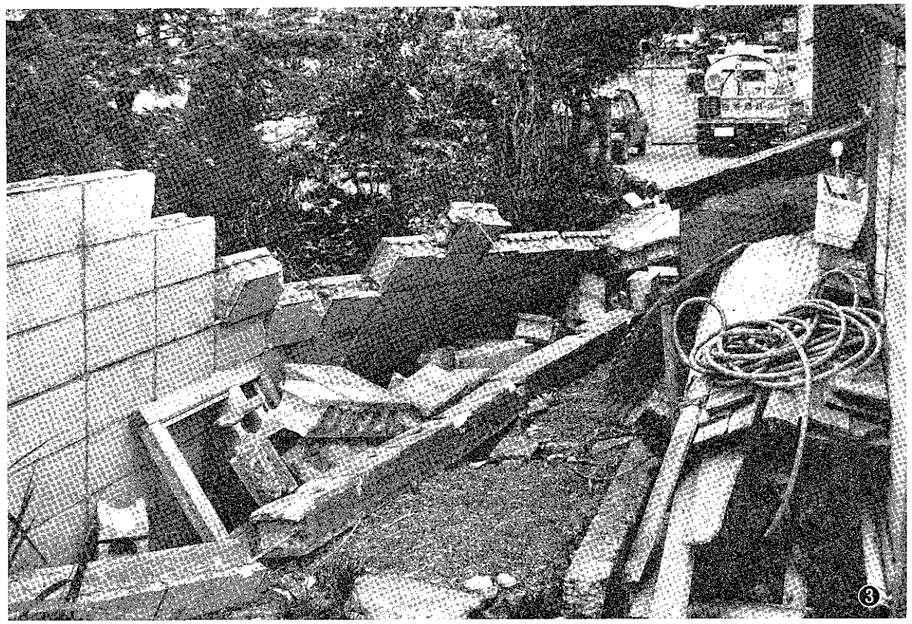


❷

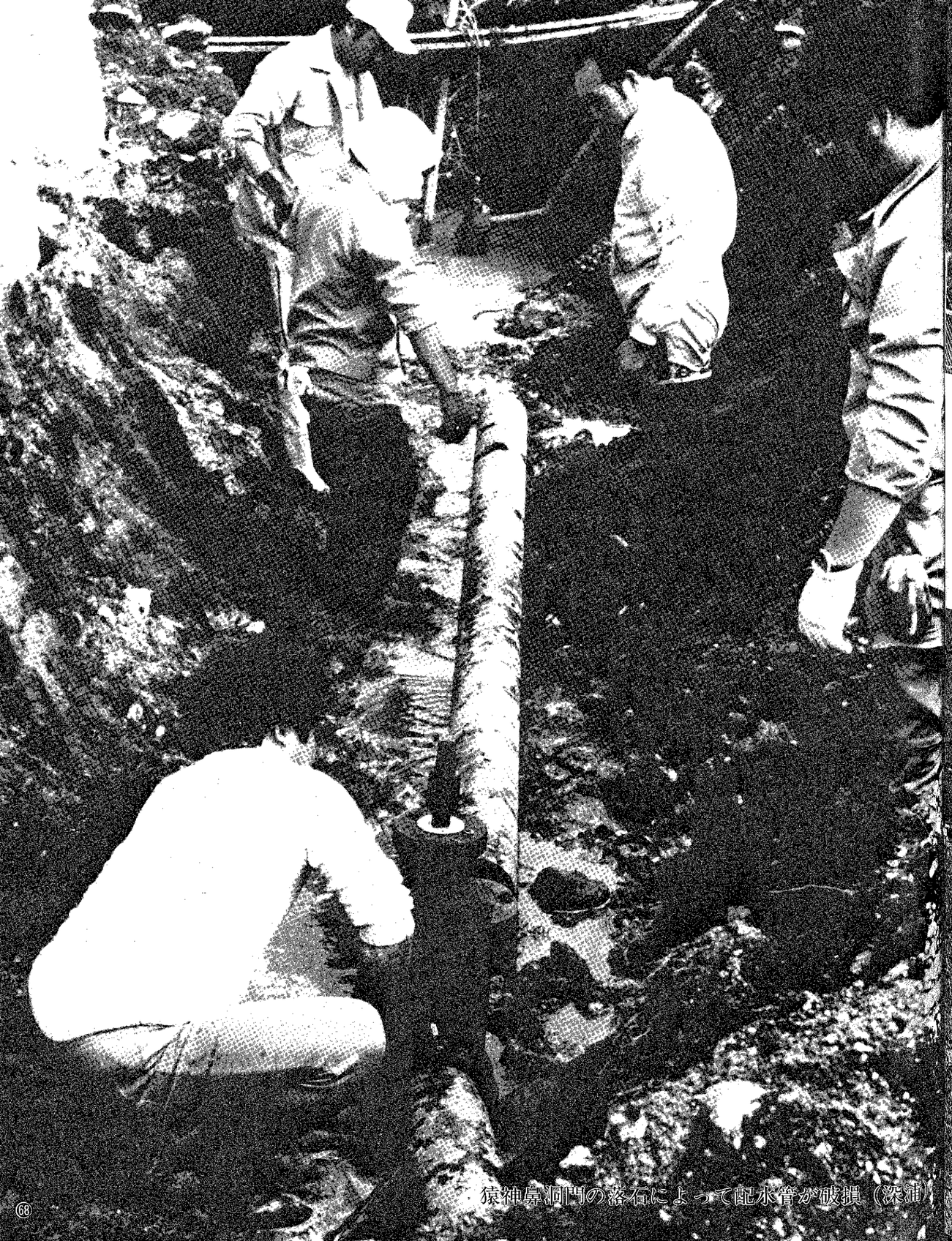
① ちん列棚から商品が落下し、さんぜんとなった商店（深浦）

② 大戸瀬中学校の図書室

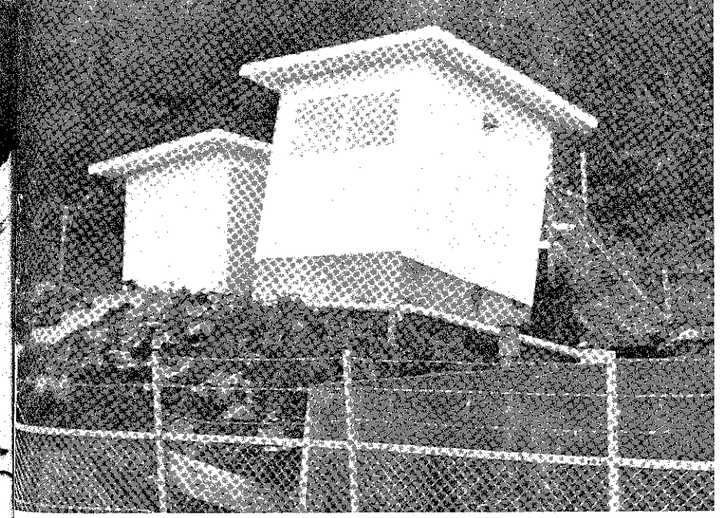
③ ブロック壁が倒れる。



❸

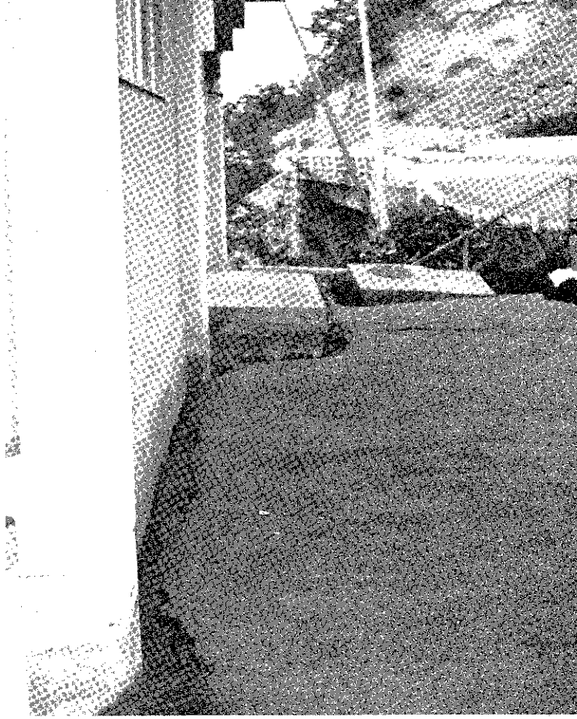


猿神鼻洞門の落石によって配水管が破損（深浦）

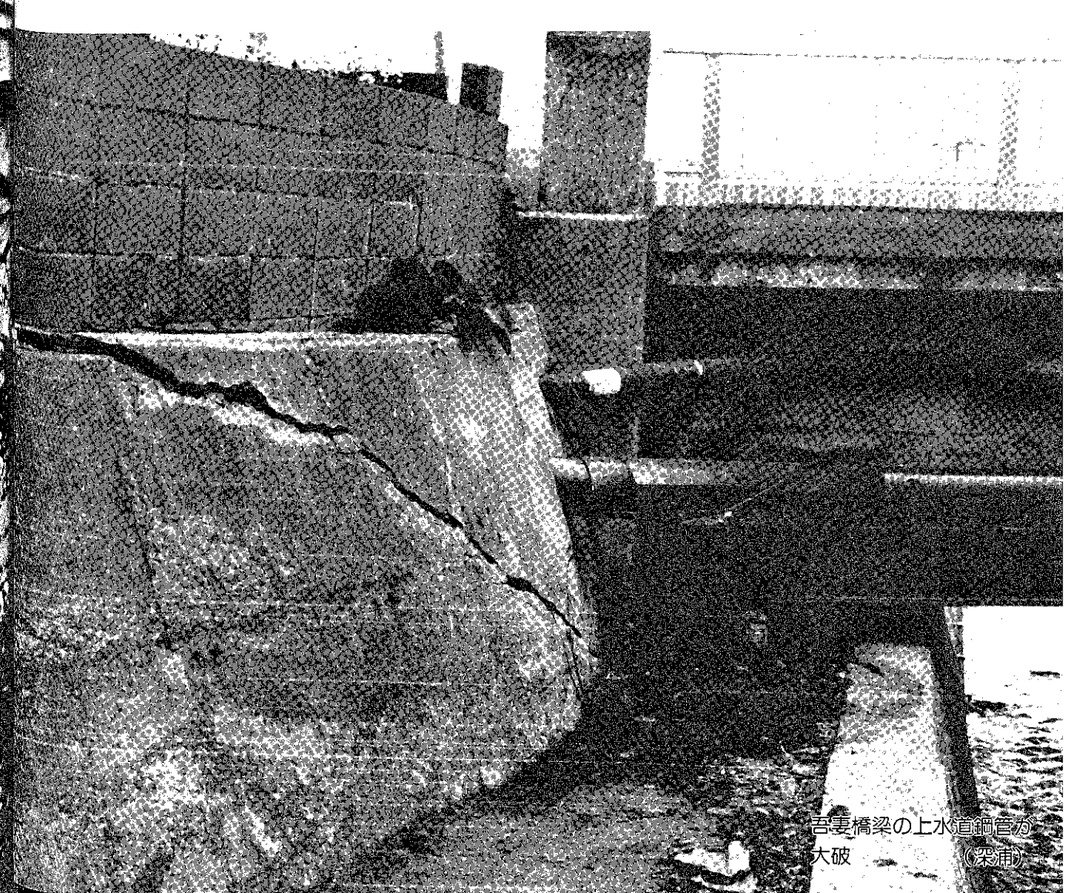


水道の滅菌室が傾むく（風合瀬）

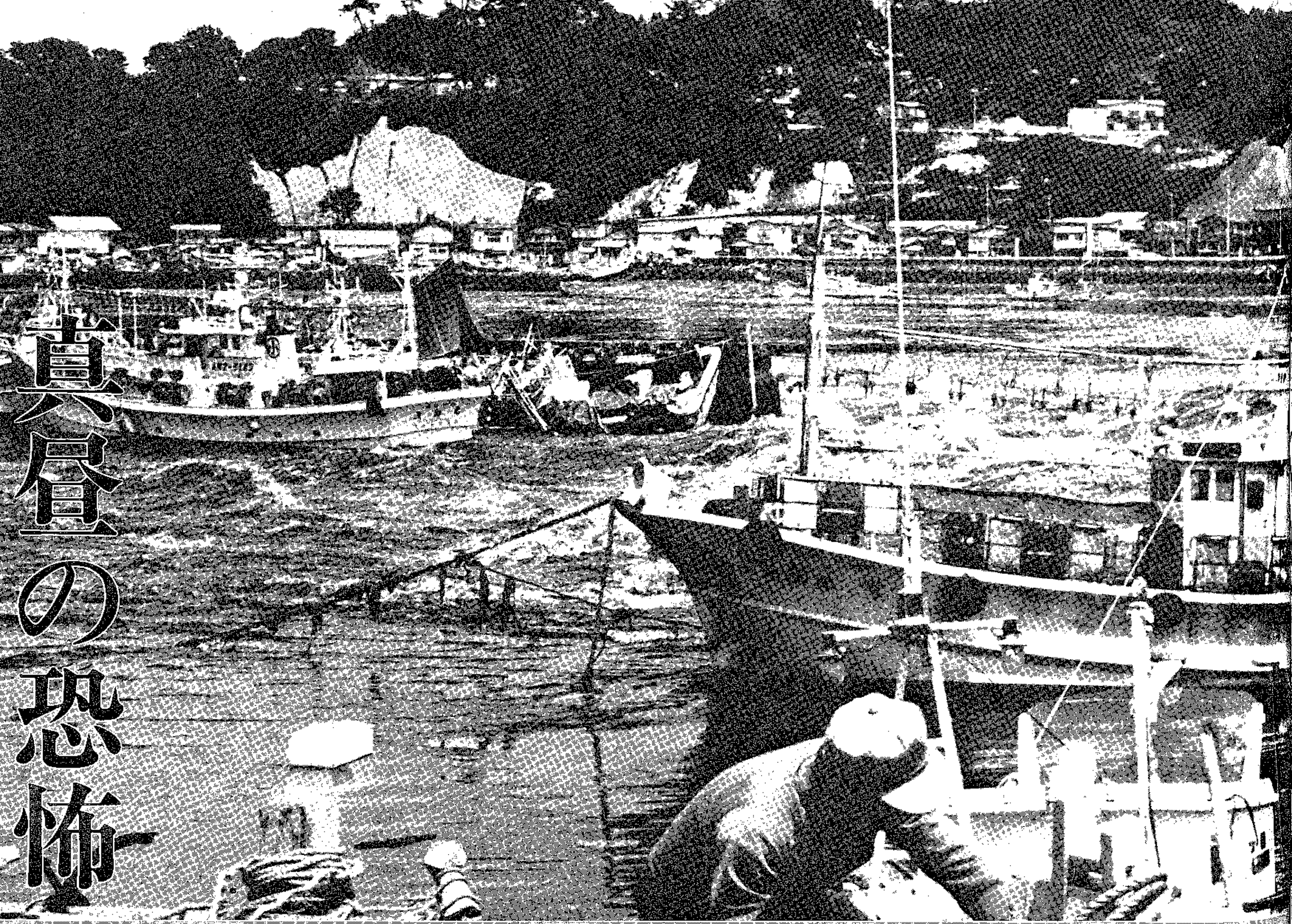
水道施設は７地区に及び、その被害額は1億9,500万円に上り、６日間にわたって給水活動が続き、延べ8,865戸33,950人が断水で悩まされた。



浄水場内陥没（関）



吾妻橋梁の上水直管が大破（深浦）



真昼の恐怖

　昭和58年5月26日午後12時00分22秒、深浦沖西方約100キロ、北緯40°4′、東径138°9′、深さ5キロを震源とするマグニチュード7.7の巨大地震が発生、深浦、むつ、秋田が震度5の強震、青森、八戸、盛岡、酒田、江差で震度4の中震と広い地域に及びました。

　わが町全域にわたって直撃したこの地震は、わが町にとってこれまでに例を見ない大規模なもので、地震直後4メートルの津波が急襲、被害をさらに大きなものとしました。

　棚のものはことごとく落ち、住家は傾き亀裂が入り、わが町の観光のシンボルとして長い間親しまれてきた猿神鼻洞門は豪音をたてて崩れ落ち、道路はいたるところで亀裂や陥没が生じ、国鉄五能線はまくら木が浮いたり、線路が曲ったり、津波で土砂がさらわれるなど運行不能の状態となりました。

　なかでも大戸瀬中学校々舎の被害は大きく、使用不能におい やられたほか、墓地の被災も大きく、墓石がことごとく崩れ去った地域も見られたほどです。

　津波は一瞬のうちに船や車をさらうなど、港という港は大破した漁船や護岸に押し上げられた船、あるいは田んぼや岩礁に打ち上げられた船、転覆して波間に没む漁船や逃げまどう船など、まさに地獄絵図が各地で見られました。

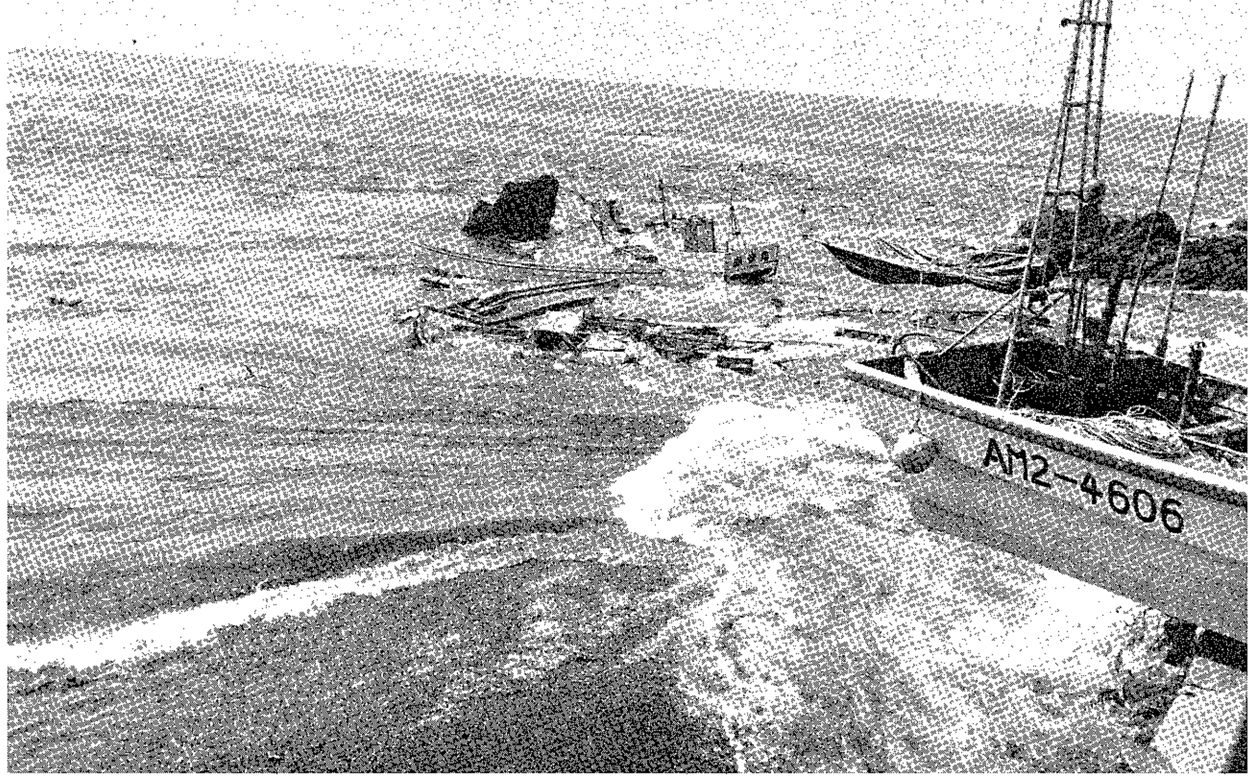
　わが町がこうむった災害は大きく、5月30日現在、災害対策本部がとりまとめた被害額は、実に30億4,900万円にも上りました。しかし、調査が進むにつれ被害額はさらに増え、7月5日現在の調べでは、死者2人、負傷者2人、住家全壊11、一部破損428、床上浸水28、床下浸水71の592戸に及び、非住家全壊3、半壊47、流失25の75、公共施設としては、大戸瀬中、深浦中、長慶平小・中、修道小、明道小、深浦小、大戸瀬小の7校、上水・簡水の水道施設は、深浦、へなし、横磯、東野、広戸、北金ケ沢、関、岩坂、風合瀬など7つの施設（9地区）が断水や破損をし、消防施設は防火水槽5基、公共土木施設は漁港5地区、道路21地区、河川10地区、農業用施設としては、農道8地区、林道4地区、農業用水路・ため池5か所の合せて70か所、観光施設等5地区、漁船は減失89、大破17、中破121、小破76の合わせて303隻に上りました。

　また、潮冠水、浮苗、干害、土砂流入等の水田は77ヘクタール、自動車は減失35、破損18の53台が被害をうけ、門・へい・家財商品、国や県の施設等を合せると、63億5,460万円というぼう大な被害額になりました。

　町では災害対策会議を設け、国や県に被害状況を説明して激甚災害対策特別財政援助法、農業災害補償法、天災融資法等々の適用など積極的に陳情を行うなど、復旧に向けて全力を傾注しています。

　わが町を直撃した地震や津波の急襲した「真昼の恐怖」を記録するとともに、災害時への教訓にしたいものです。

撮影者／吉川　衛さん



撮影者／佐藤源蔵さん

日本海中部地震深浦を直撃
その後の動き

5月26日
- 12時00分22秒　地震発生
- 震源地：北緯40度4分、東経138度9分　深浦沖西方約100㌔、深さ5㌔
- 震源域　同方位東西約数10㌔、南北約100㌔のほぼだ円型
- 地震規模　マグニチュード7·7
- 最高震度　5（強震）
- 気象庁「日本海中部地震」と命名
- 12時07分ごろ　海水引き始めの現象が見られる
- 12時13分ごろ　津波来襲
  以後波高が継続的に来襲（深浦港約4㍍・田野沢漁港約3.7㍍を記録・深浦測候所の検潮儀は最高55㌢を記録）
- 12時14分ごろ　避難命令
- 12時18分　県消防防災課・津波警報
- 12時30分　消防団へ出動命令
- 14時　地震災害対策本部設置
  地震災害対策会議設置
- 14時40分　地震災害対策本部設置を県に報告
- 16時30分　避難命令解除
- 18時ごろ　北村県知事災害現地視察
- 20時58分　津波警報解除
- 災害状況調査を開始
- 国鉄五能線各地で寸断、不通となる
  国道101号線北金ケ沢バイパス18時まで災害のため通行止、田野沢～晴山間14時まで通行止、その後片側通行、18時全面復旧。磯崎橋付近2時間の通行止
- 水道断水による給水活動開始「全面断水＝風合瀬、関、岩坂、一部断水＝深浦、北金ケ沢、全部で1,479戸に及ぶ」（自衛隊も救援出動）
- 横磯・田野沢＝行方不明者捜索活動開始
- 震度3　5回を含む58回の余震

5月27日
- 災害対策全員協議会開催
- 地震災害対策会議委員を委嘱
- 政府調査団来町（加藤国土庁長官ほか）議員参加により被災地案内及び災害状況説明、陳情「国土庁、文部、厚生、農林水産、通産、自治、科学技術庁」
- 竹内代議士、松尾参議員来町
- 日本共産党調査団来町（野間団長ほか）災害状況を説明、陳情
- 地震災害対策会議開催
- 災害状況現地調査
- 給水「全面断水＝へなし、東野、広戸、風合瀬、北金ケ沢、関、岩坂、一部断水＝深浦、全部で1,913戸に及ぶ」（自衛隊出動）
- 横磯、田野沢＝行方不明者捜索
- 震度1～2　余震44回

5月28日
- 議員参加により県へ陳情（4班編成）「県議会、総務部、農林部、水産部、土木部、環境保健部、教育庁」
- 災害状況現地調査
- 給水「全面断水＝東野、広戸、風合瀬、北金ケ沢、関、岩坂、一部断水＝横磯、深浦、全部で1,928戸に及ぶ」
- 横磯、田野沢＝行方不明者捜索
- 震度1～2　余震15回

5月29日
- 庁議　災害状況調査の中間まとめ
- 災害状況現地調査
- 給水「全面断水＝東野、広戸、風合瀬、関、岩坂、一部断水＝北金ケ沢、深浦、全部で1,676戸に及ぶ」
- 横磯、田野沢＝行方不明者捜索
- 震度3　1回を含む余震11回

5月30日
- 日本社会党調査団来町（佐藤・目黒副本部長ほか関代議士など同行）議長、各常任委員長参加による災害状況説明、陳情
- 県議会農林常任委員会へ陳情（於木造）
- 災害救助法適用以外の災害援護適用となる。
- 給水「全面断水＝関、岩坂、一部断水＝深浦、北金ケ沢、全部で1,168戸に及ぶ」
- 横磯、田野沢＝行方不明者捜索
- わが町の災害は30億4,900万円に上る
- 県から毛布・日用品等救援物資到着
- 震度3　1回を含む余震8回

5月31日
- 参議院災害対策特別委員会調査団来町（福間委員長ほか、山崎・木村代議士、松尾参議員同行）地震対策委員参加による被災地案内及び災害状況説明、陳情
- 地震災害対策会議開催
- 庁議開催
- 日本赤十字社青森支部から日用品セット等救助物資到着
- 給水「一部断水＝深浦　702戸これまで6日間の給水は延8,866戸、33,950人に上る」
- 横磯、田野沢＝行方不明者捜索
- 震度1～2　余震7回
- 地震災害見舞金　県漁業信用基金協会5万円、㈲拓建測量2万円、㈱林業土木コンサルタント3万円、青森銀行100万円、みちのく銀行50万円、山久薬品商会3万円、黒滝秀一5万円、㈱協同測量3万円、

6月1日
- 県及び県議会に西北五広域市町村圏協議会が（深浦からは助役）災害状況の説明をするとともに陳情。
- 災害救助法が適用となる。
- 地震災害対策相談所開設（深浦町庁舎内、大戸瀬支所内）
- 県議会水産商工労働常任委員会来町（太田副委員長ほか）　災害状況を説明するとともに陳情。
- わが町の災害は、42億6,300万円となる。
- 震度3　2回を含む7回の余震
- 地震災害見舞金　ハタザワ商店5万円、津軽信用金庫30万円
- 横磯、田野沢＝行方不明者捜索

6月2日
- 田沢代議士来町、議員参加による災害状況を説明するとともに陳情
- 横磯、田野沢＝行方不明者捜索
- 震度1～2　6回の余震

6月3日
- 自由民主党非常災害対策本部調査団来町（天野団長ほか、県選出の田沢、竹内、木村代議士同行）
- 商工会の皆さんが、県及び国民金融公庫に対し、商工関係で陳情
- 地震災害対策会議開催
- わが町の災害は、52億2,920万円となる。
- 横磯、田野沢で行方不明者捜索
- 14時ごろ、横磯海岸で行方不明者能代市の加藤昇さんを発見。遺体で収容。
  「捜索延人員251人、船舶延70隻、ヘリコプター4機（自衛隊）」
- 震度1～2　6回の余震

6月4日
- 田野沢で行方不明となっていた漁業を営む山下久夫さんを7時ごろ発見、遺体で収容
  「捜索延人員761人、船舶320隻、ヘリコプター一延4機（自衛隊）」
- 震度1　5回
- 住家全壊等の被災家庭173世帯に救援物資を配布
- 地震災害見舞金　道標俳句会3万円

6月5日
- 震度1　1回

6月6日
- 山本自治大臣来県、県及び町村会が陳情（深浦からは町長、議長などが参加）於、青森
- 県議会文教公安常任委員会来町、（高橋委員長ほか）大戸瀬中学校災害状況現地調査
- 震度1～2　2回

6月7日
- 震度1　2回
- 地震災害見舞金　藤田周次郎50万円、鉄建建設㈱10万円、岩木町3万円

6月8日
- 衆議院災害対策特別調査団来町、（上原委員長ほか）地震災害対策会議委員参加による災害状況説明をするとともに陳情
- 地震災害対策会議開催
- 災害融資と経営指導の相談所を開設（会場・商工会館）
- 地震災害見舞金　伏屋康生1万円

6月9日
- 県知事、国へ陳情、被災地の関係市町村長参加
- 震度3　2回を含む余震7回
- 地震災害見舞金　日本水道協会3万円、弘前市5万円、東京都北区共産党議員団5万円、深高同窓会東京支部5万円

6月10日
- 県教育委員会来町（加藤委員長代行ほか）大戸瀬中学校の災害状況現地視察
- 震度1　2回

6月11日
- 震度1　1回

6月12日
- 震度1～2　5回

6月14日
- 震度1　1回
- わが町の災害は54億6,270万円となる
- 地震災害見舞金　㈱サトリ1万円

6月15日
- 議員による国への陳情（国土庁、自治省、農林水産省、建設省、文部省、厚生省、水産庁、中小企業庁）
- 11時、国鉄五能線・深浦～岩崎間復旧・開通となる
- 震度1～2　3回

6月16日
- 13時30分、国鉄五能線・深浦～森田間復旧・全面開通となる

6月18日
- 震度1　3回

6月19日
- 震度1～2　2回

6月20日
- 震度1～2　2回

6月21日
- 15時26分ごろ、地震発生
- 深浦の最高震度　4（中震）
- 地震の規模　マグニチュード6·9
- 震源域　日本海中部地震の震源域
- 15時38分　津波警報発令
- 16時00分　避難命令
- 17時43分　津波警報解除・注意報に切替
- 19時35分　避難命令解除
- 震度4　1回を含む余震24回

6月22日
- 震度1～2　14回
- 地震災害見舞金　久保田鉄工㈱5万円

6月23日
- 地震災害対策相談所、相談件数324件、内訳＝家屋・自動車等の相談268件、漁船·漁具等の相談17件、農地・施設等の相談38件、その他1件、罹災証明書の交付件数287件（6月1日～23日までのまとめ）
- 震度1～3　4回

6月24日
- 震度1　2回

6月25日
- 震度1　3回
- 地震災害見舞金　名川町母親クラブ連絡協議会16,200円、三菱電気㈱100万円

6月26日
- 震度1～2　3回

6月27日
- 地震災害見舞金　㈱竹内精機50万円
- 震度1　1回

6月28日
- 震度2　2回

6月29日
- 震度1　2回
- 国土庁防災企画課（楢崎課長ほか）来町、港湾及び大戸瀬中学校の現地視察

6月30日
- 震度1　2回、これまでの震度回数延255回（震度5～3＝16回、震度2～1＝239回）

7月1日
- 激甚災害対策特別財政法等が適用となる（政府閣議決定）

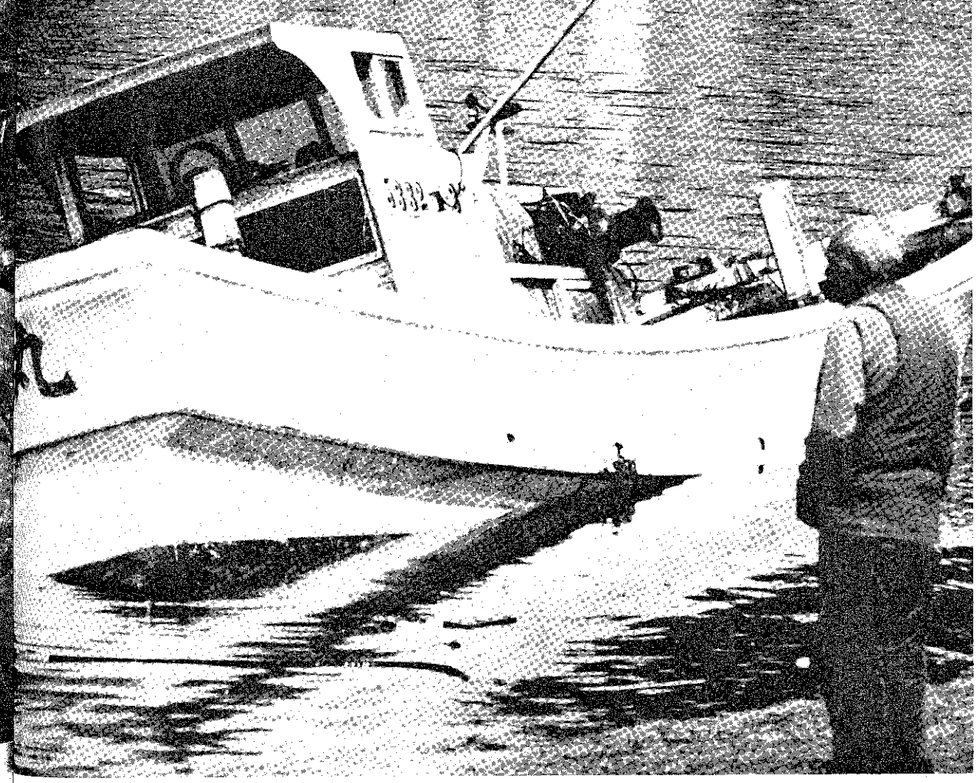
7月5日
- わが町の災害は、63億5,460万円に上る。

国に対する陳情項目

1. 本町全域にわたる被害が甚大であるため、この災害復旧に「激甚災害対策特別財政援助法」による激甚災害の早期指定
2. 農業被害を救済するため「農業災害補償法」及び「天災融資法」の適用
3. 個人住宅の復旧のため「住宅金融公庫」の融資枠の拡大確保と低利長期貸付及び借入金の償還延期措置
4. 災害弔慰金、災害見舞金の早期支払い及び生活安定のため災害援護資金枠の拡大と早期貸付
5. 漁船及び漁業関連設備等の被災救済のため、漁船保険金の早期支払い
6. 被害農林漁業者が必要とする金融公庫等の融資枠の拡大、低利長期貸付及び借入金の償還延期措置
7. 被害商工業者が必要とする金融公庫等の融資枠の拡大、低利長期貸付及び借入金の償還延期措置
8. 公共土木施設、学校施設、農林水産業施設、環境衛生施設及び漁港施設等の災害復旧事業に係る災害査定の早期実施、事前着工を含め早期着工と予算の増額措置
9. 地震災害のため町立大戸瀬中学校校舎が使用不可能となり全面改築を施工しなければ学校教育の安全確保ができないので、義務教育諸学校施設費国庫負担法の緊急適用
10. 地方債の全額充当及び地方交付税繰上交付並びに特別交付税の増額措置

痛恨

撮影者/大船幸一郎さん



その被害額は実に63億5,460万円に上る

日本海中部地震によるが町の災害状況一覧

昭和58年７月５日現在

1．人的被害　　４　人

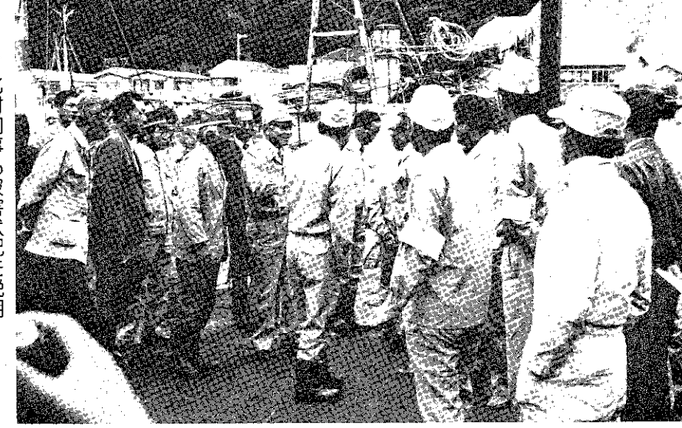
2．物的被害総額　　６３億５,４６０万円

家屋被害	６６７戸	５億７,０００万円
公共施設被害		１１億２,７１０万円
一般被害		３５億５,３５０万円
国関係施設		５億５,９００万円
県関係施設		５億４,５００万円

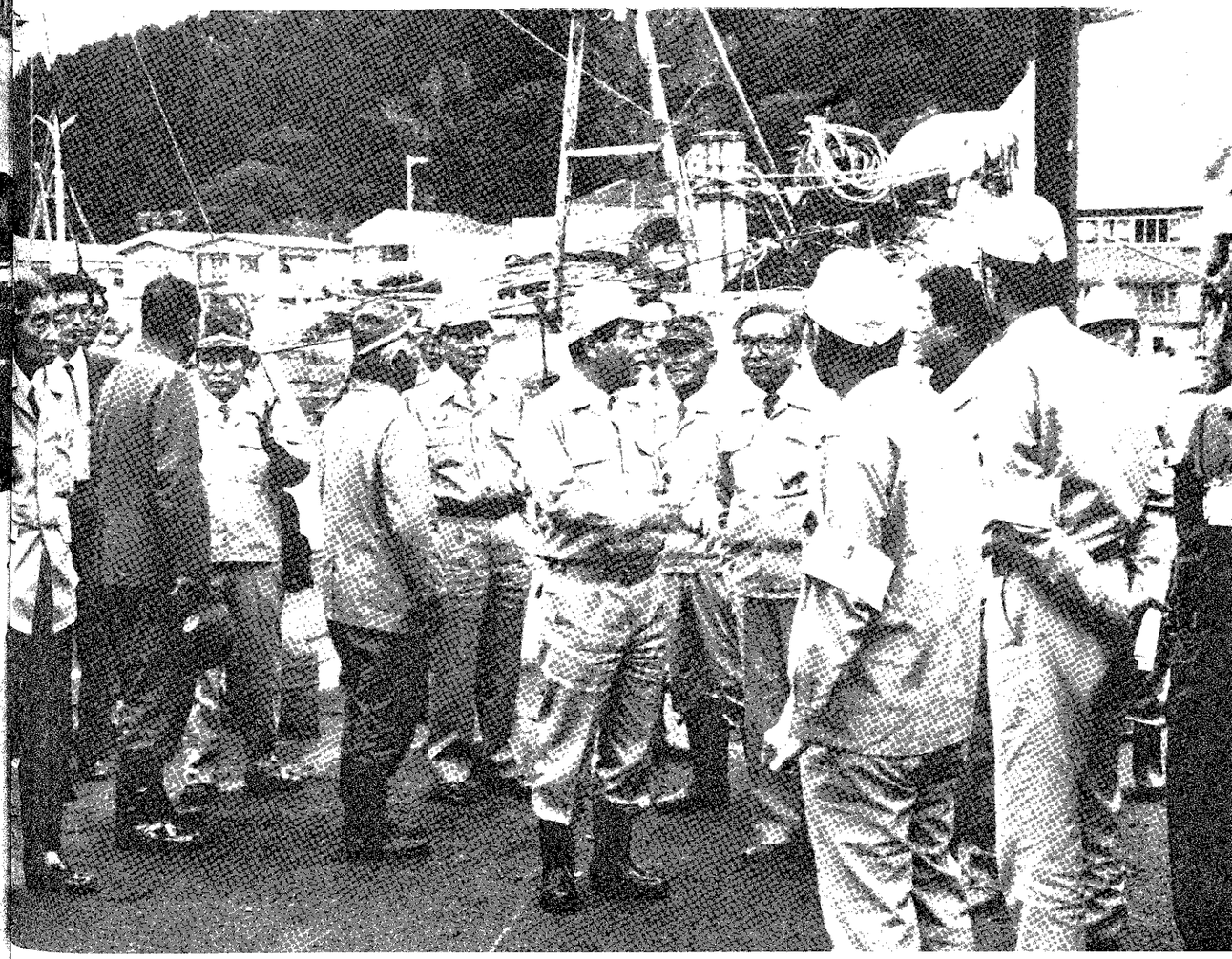
被害区分		件数	災害見積額	内容
人的被害		４人		死者 ２人　負傷 ２人
家屋	住家	５９２戸	5億4,000万円	全壊11、半壊54、一部破損428、床上浸水28、床下浸水71
	非住家	７５戸	3,000万円	全壊 3、半壊47、流失25
公共施設災害			11億2,710万円	
	文教施設	７校	6億0,710万円	大戸瀬中、深浦中、長慶平小・中、修道小、明道小、深浦小、大戸瀬小
	上水・簡水施設	７地区	6億9,500万円	深浦上水、舳作地区簡水、横磯地区簡水、轟木追良瀬地区簡水、北金ケ沢地区簡水、岩坂地区簡水、風合瀬地区簡水
	消防施設		2,000万円	防火水槽　５基
	公共土木施設	３６地区	1億2,400万円	漁港 5地区、道路21地区、河川10地区
	農業用施設	７０地区	1億6,100万円	農道 8地区、林道 4地区、農業用水路・ため池 5か所

被害区分		件数	災害見積額	内容
	その他		2,000万円	観光施設等 5地区
一般災害			35億5,350万円	
	漁船・漁具等	３０３隻	23億4,390万円	滅失89、大破17、中破121、小破76
	商工	全域	7億9,060万円	商品、設備品等
	農作物被害	７７ha	9,100万円	水田稲作（潮冠水、浮苗、干害、土砂流入等）
	自動車	５３台	7,000万円	滅失35台、破損18台
	がけ崩れ	５地区	1,800万円	
	その他		2億4,000万円	門へい、家財等
国関係施設災害			5億5,900万円	
	国鉄	４２件	3億5,000万円	
	港湾	２件	1億0,000万円	岸壁陥没100ｍ
	国有林関係		1億0,900万円	林道16路線、作業道 8路線、種苗施設 1地区、製品事業所 1地区、宿舎 4棟
県関係施設災害			5億4,500万円	
	公共土木施設災害	４０件	5億2,500万円	河川 7地区、道路31地区、橋梁 2地区
	砂防	１地区	2,000万円	
合計			63億5,460万円	

国土庁長官、岩崎から深浦に到着（深浦中学校・校庭）



▶北村知事も被害状況を説明



5月27日、加藤国土庁長官を団長とする政府調査団が来町、深浦漁協など災害現地を視察

6月1日

災害救助法が適用

町では5月26日、松浦町長を本部長とする地震災害対策本部を設置、各地域の被害状態調査を開始すると同時に27日には町議会全員協議会を開き、直ちに地震災害対策会議を設置、被災者の救済をはかるため国・県に対する財政措置などの要望や陳情などを決定し、活動を開始しました。

日本海中部地震
深浦町災害対策会議を設置

わが町では、5月26日、日本海中部地震災害対策の整備促進を図るため、会長に松浦町長、副会長に新岡町議会議長、加納助役、委員に町議会議員、消防団長、町農業委員会々長、町管内各農業協同組合長、町管内各漁業協同組合長、深浦町農業共済組合長、深浦町商工会長、深浦町森林組合長、部員に各課長等で構成する「日本海中部地震深浦町災害対策会議」を設置し、行動を開始しました。

構成員のメンバーは、次のかたがたです。

会長：松浦武、**副会長**：新岡重良、加納悦三、**委員**：福沢正雄、堀内良治、小枝博幸、松沢栄吉、石沢秀幸、岩根哲雄、菊地喜三郎、小山万吉、土岐欽一、吉田昭二、西崎正、三浦義雄、桜庭亮、森山やさ、岩谷克義、鴨伝作、小山内吉蔵、本間和夫、畠川政司、中原圭治、佐藤政巳、山崎清五郎、西崎義三、山本忠一、七戸護、米谷巌、西崎保、千田富次郎、福沢正雄、**部員**：佐藤孝、浜田勇、髙橋孝男、西崎哲、福沢貞三、吉田良市、坂本徳雄、工藤祥一、牧野鉄躬、又地毅、佐藤進、佐々木政規、新岡尚衛、佐藤正雄

▲県　議　会

▲県漁業振興課

県に陳情

5月28日、町と町議会がいっしょになって県に対し、4班に別れ災害情況の報告をするとともに、各所管を回り1日も早く復旧するための対策などについて要望しました

1班
総務部・地方課、消防防災課

2班
環境保健部・環境衛生課、教育庁・財務課

3班
農林部・農政課、農業指導課、水田対策課、土地改良二課、経済課、林政課、治山課、水産部・漁政課、漁業振興課

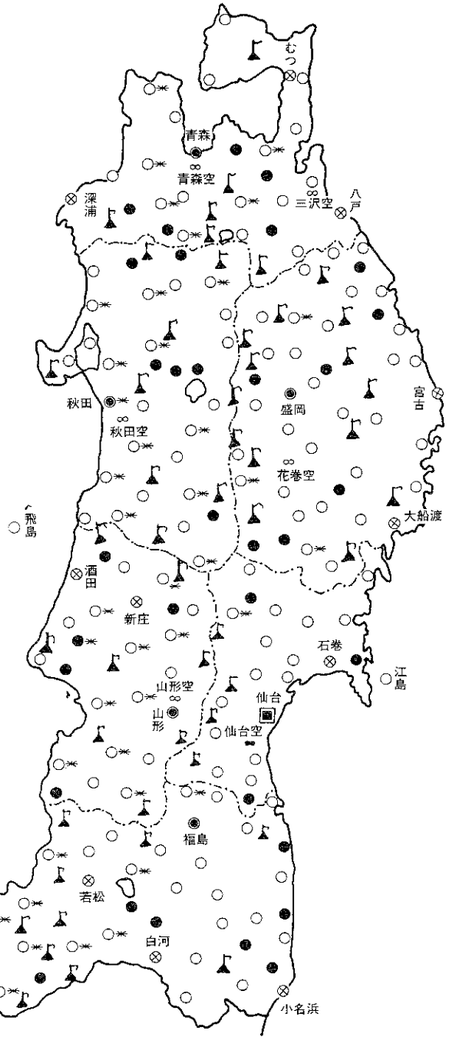
4班
土木部・道路建設課、道路維持課、河川課、監理課、漁港課

▲県農業指導課

▲県農政課

▲県経済課

気象官署・観測所の役割を紹介します。



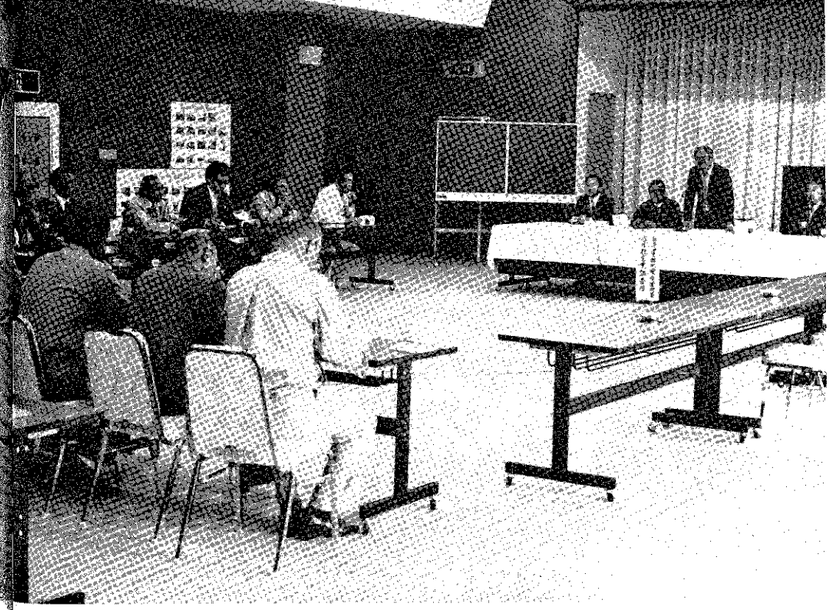
気象管署・観測所一覧表

施設＼県名		青森	秋田	岩手	宮城	山形	福島	合計
管区気象台	▣				1			1
地方気象台	◉	1	1	1		1	1	5
測候所	⊗	3		2	1	2	3	11
航空測候所	●●				1			1
空港出張所	∞	2	1	1		1		5
地域気象観測所	○	18	23	30	16	17	25	129
地域雨量観測所	●	5	6	7	3	5	8	34
無線ロボット雨量計	⌠	6	8	14	4	8	11	51
積雪深計	⋈	6	12	3	1	10	9	41

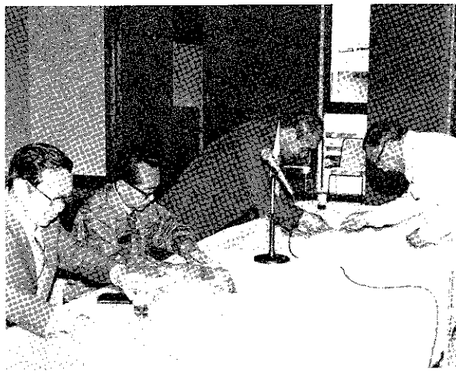
注：昭和58年4月1日の資料による
ただし三沢空港出張所は58.10.1

日本社会党調査団来町

5月30日、日本社会党調査団（佐藤・目黒副本部長に県選出関代議士など一行四人）が深浦の災害状況の説明をうける。（町民総合センター・文化ホール）



国鉄五能線の災害状況を調査する日本共産党調査団

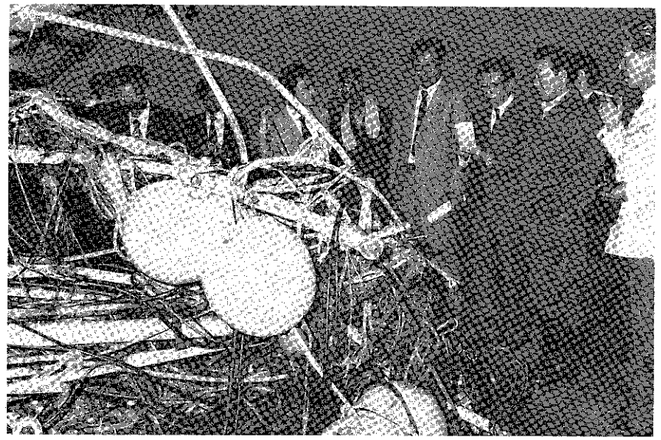


松浦町長と名刺を交換する佐藤副本部長

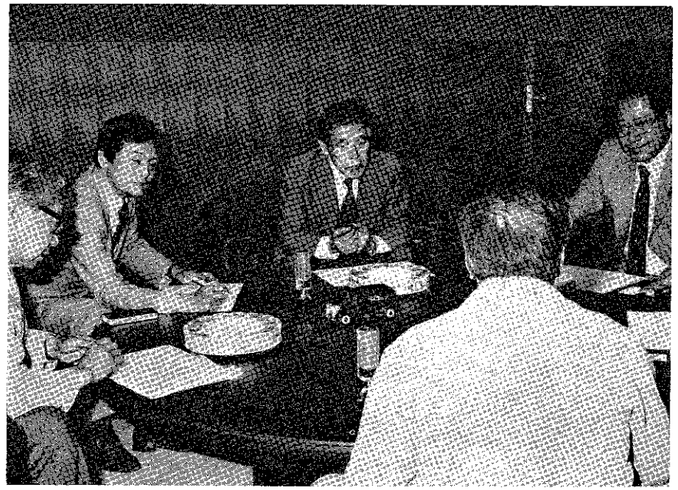
現地視察（深浦）

現地視察（田野沢）

日本共産党調査団来町

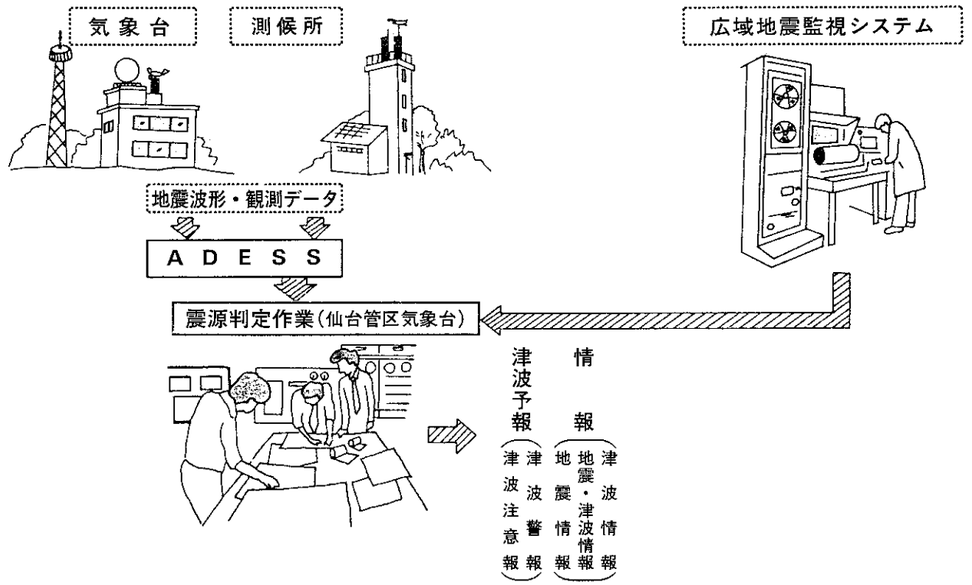


5月27日、田野沢漁港で漁船の被害などを調査する日本共産党の調査団

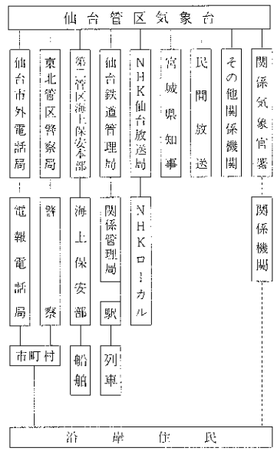


松浦町長から被害状況の説明をうける日本共産党調査団（野間団長・津川前代議士など一行七人）

地震情報や津波予想はこのように



津波予報の伝達系統



地震観測

日本は地震国といわれ，世界で発生する地震の約１割が日本とその周辺で起こっています。なかでも，東北地方の太平洋沿岸は津波の常襲地帯になっています。

地球の表面付近は，地殻と呼ばれる岩石の層によってできています。地殻のある部分に歪が貯えられ，限界に達すると破壊されて，その振動が四方に伝わります。これが地震です。

地震の被害は，直接地震によるものと火災や津波などによる二次的な被害があります。これらの被害を防止・軽減するため，東北では13の気象官署で地震観測・通報体制をしいています。また，これらの官署からは地震波形が常時仙台に送られています。地震が起これば，判定中枢（仙台）でこれらの資料を用いて震源や津波の有無を判定し，直ちに地震情報や津波予報を発表します。

被害状況の説明をうける調査団の皆さん。（町民総合センター文化ホール）

火山観測と火山情報

東北地方には活動火山が14か所もあり，このうち吾妻山・安達太良山・盤梯山の３火山で常時観測を行ない，火山情報を発表し，噴火や異常現象による災害の防止・軽減に努めています。

その他の火山の監視のため，仙台管区気象台には東北地域火山機動観測班を置いて，平常時は巡回して基礎調査観測を行い資料を整え，噴火や活動が活発化した場合には直ちに緊急観測に出動します。また必要に応じて所轄地方気象台から火山情報を発表することになっています。

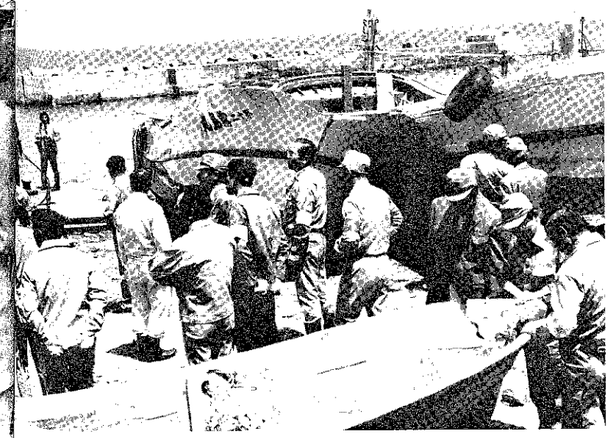
漁業関係者から直接被害状況を聞く調査団の皆さん。

参議員災害対策特別委員会調査団

５月31日、参議院災害対策特別委員会調査団が来町し、松浦町長などから被害状況の説明をうけるとともに現地を視察、町では国に対し救済措置など激甚災害特別財政援助法など６項目を陳情しました。

調査団は福間委員長以下６人のほか、県選出の山崎・木村両代議士も同行しました。

被害状況をくまなく見て回る調査団の皆さん。



沿岸波浪観測

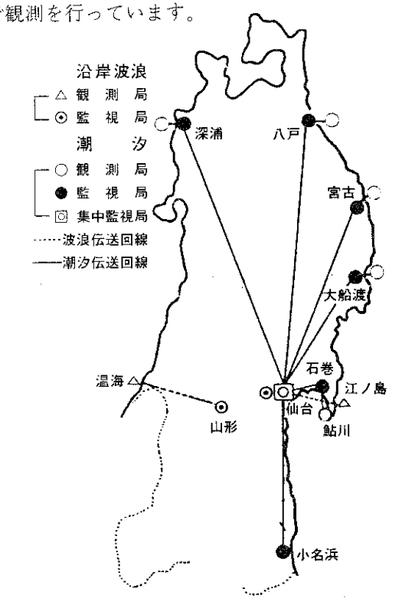
気象庁では，沿岸の予・警報の精度向上と波浪資料の収集のため沿岸波浪観測施設の整備を進めています。

東北では，江ノ島（宮城県），温海（山形県）に超音波型波浪計を設置し，それぞれ仙台管区気象台および山形気象地方台で観測を行っています。

潮汐観測

津波・高潮・異常潮位など異常現象による災害から沿岸住民や港湾施設を守るため，東北の沿岸６か所に検潮所を設備して，潮汐観測を行っています。

これら異常現象を常時監視できるよう隔測装置を設置し，仙台管区気象台で集中監視しています。



東北地方の火山活動

（昭和35年～57年）

火山名	種別	35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57
恐山		●
岩木山		● ● ● ● ● ● ●
八甲田		
秋田焼山		
八幡平		●
岩手山		● ● ●
秋田駒ヶ岳		● ▲▲ ● ● ●
鳥海山		▲
栗駒山		●
鳴子		
蔵王山		● ● ●
吾妻山	常	● ▲ ●
安達太良山	常	
盤梯山	常	

注１：▲ 噴火。　● 火山性異常
注２：常 常時観測火山

衆議院災害対策特別委員会調査団

災害状況など、熱心に耳をかたむける調査団の皆さん。

上原委員長が災害見舞と激励の言葉を述べ、被害状況の説明をうける。

調査団一行が岩崎を視察後、深浦に到着

6月8日、衆議院災害対策特別委員会調査団、上原委員長以下7人と、県選出の木村・竹内両代議士が同行。42億円に上るわが町の被災状況の説明をうけるとともに、災害復旧にあたっての10項目からなる陳情をうけました。

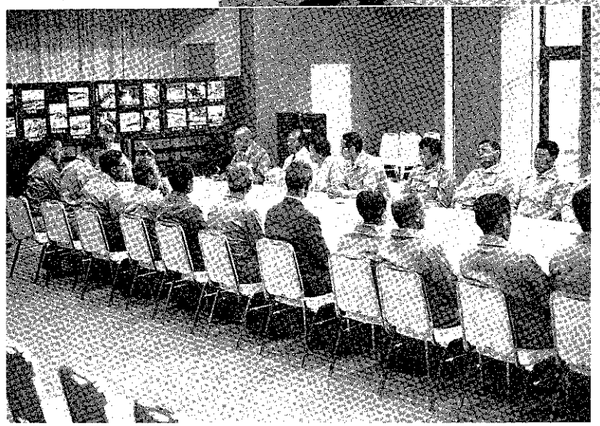
現地視察をする調査団の皆さん。

国に陳情する災害対策会議の皆さん。

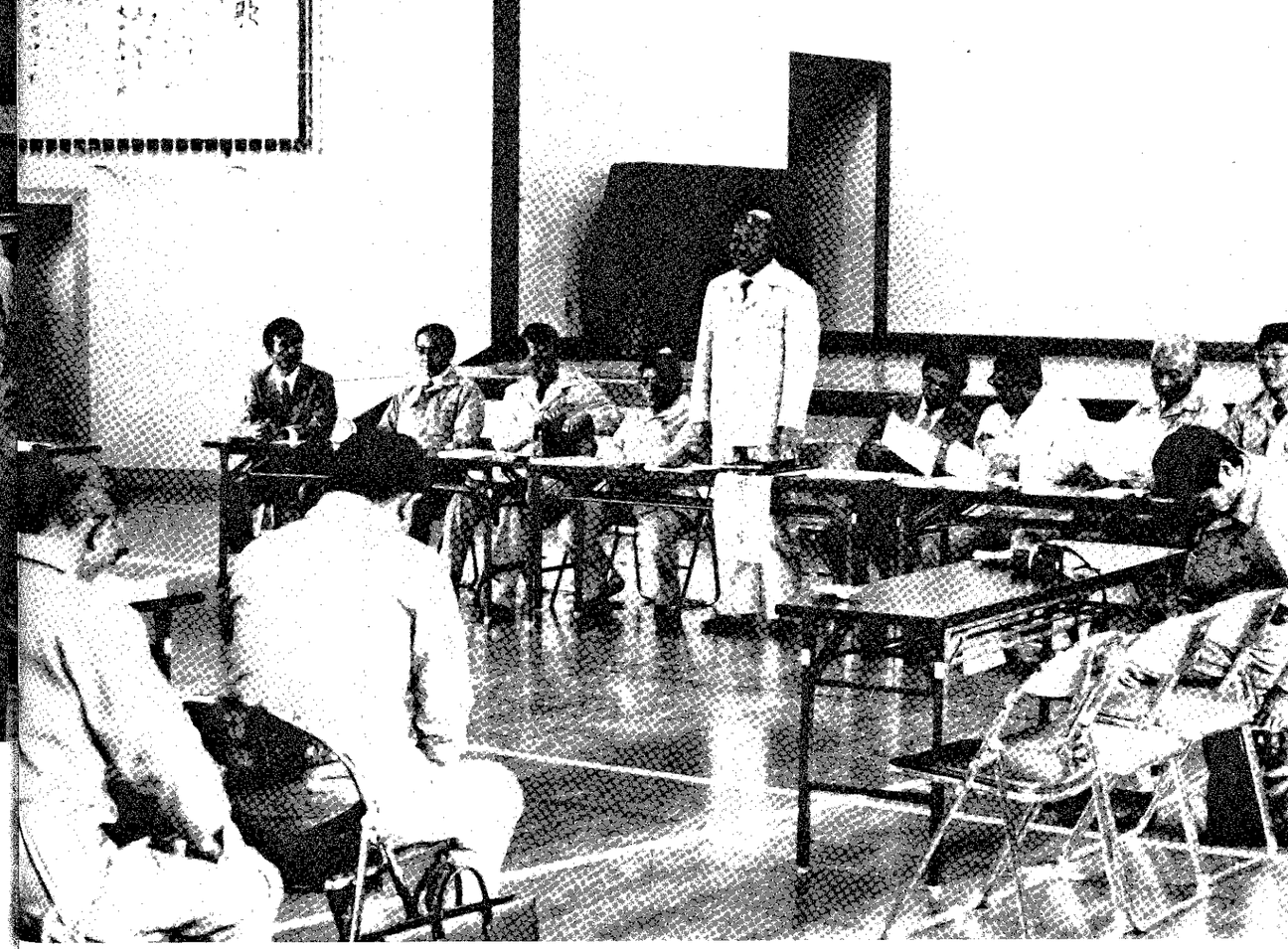
震度〔気象庁震度階級〕

階級	説明	参考事項
0	無感。人体に感じないで地震計に記録される程度	吊り下げ物のわずかにゆれるのが目視されたり、カタカタと音がきこえても、体にゆれを感じなければ無感である。
I	微震。静止している人や、特に地震に注意深い人だけに感ずる程度の地震。	静かにしている場合にゆれをわずかに感じ、その時間も長くない。立っていては感じない場合が多い。
II	軽震。大せいの人に感ずる程度のもので、戸障子がわずかに動くのがわかる程度の地震。	吊り下げ物の動くのがわかり、立っていてもゆれをわずかに感じるが、動いている場合にはほとんど感じない。眠っていても目をさますことがある。
III	弱震。家屋がゆれ、戸障子がガタガタと鳴動し、電灯のような吊り下げ物は相当ゆれ、器内の水面の動くのがわかる程度の地震。	ちょっと驚くほどに感じ、眠っている人も目をさますが、戸外に飛び出すまでもないし、恐怖感はない。戸外にいる人もかなりの人に感じるが、歩いている場合感じない人もいる。

階級	説明	参考事項
IV	中震。家屋の動揺が激しく、すわりの悪い花びんなどは倒れ、器内の水はあふれ出る。また、歩いている人にも感じられ、多くの人々は戸外に飛び出す程度の地震。	眠っている人は飛び起き、恐怖感を覚える。電柱・立木などのゆれるのがわかる。一般の家屋の瓦がずれるのがあっても、まだ被害らしいものはでない。軽い目まいを覚える。
V	強震。壁に割れ目が入り、墓石・石どうろうが倒れたり、煙突・石垣などが破損する程度の地震。	立っていることはかなりむずかしい。一般家屋に軽微な被害が出はじめる。軟弱な地盤では割れたりくずれたりする。すわりの悪い家具は倒れる。
VI	烈震。家屋の倒壊は30%以下で、山くずれが起き、地割れを生じ、多くの人々が立っていることができない程度の地震。	歩行はむずかしく、はわないと動けない。
VII	激震。家屋の倒壊が30%以上に及び、山くずれ、地割れ、断層などを生じる。	

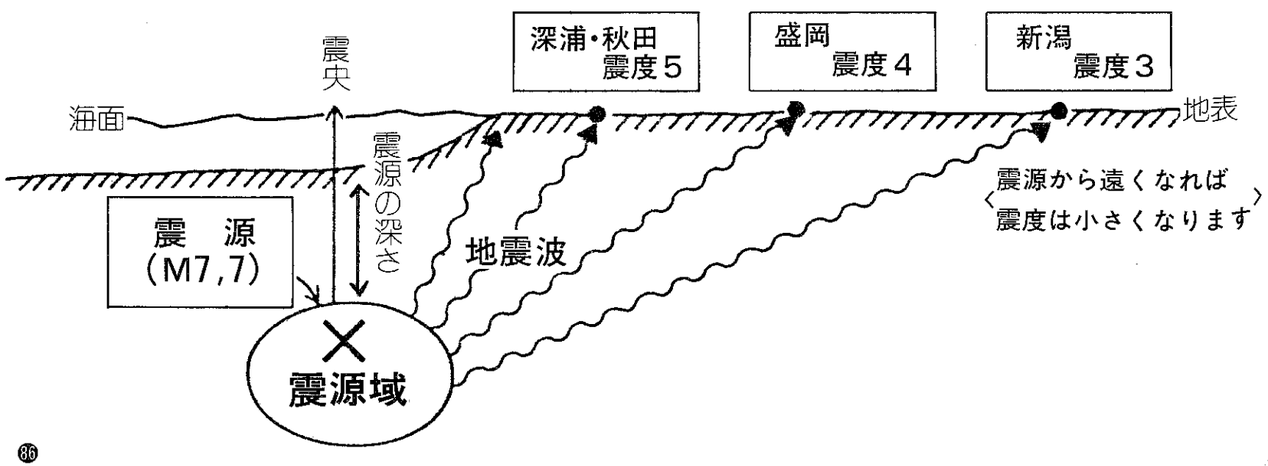


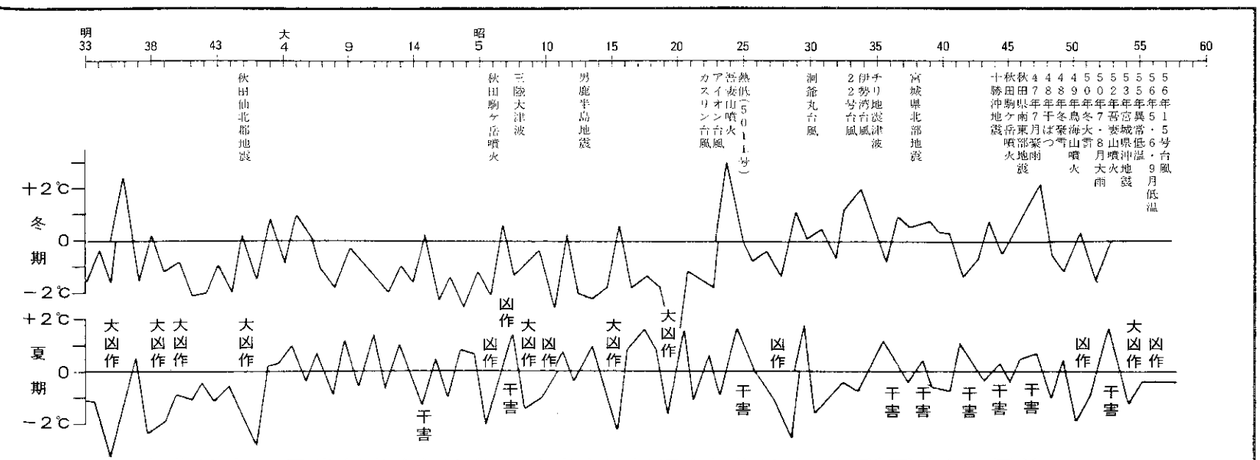
6月2日、県選出の田沢代議士が災害見舞と激励にかけつけました。



6月6日、県議会文教公安常任委員会（高橋委員長以下8人）が、大災害をうけた大戸瀬中学校の現地視察に当町を訪れました。同校で被害状況の説明をうける委員会の皆さん。

マグニチュード(M)と震度の関係〈日本海中部地震の例〉





東北地方の異常気象(含地象・水象)と気温(東北地方6か所平均)の偏差

町議会議員団による国への陳情

6月16日

建設省中村政務次官に陳情する議員の皆さん。

国土庁福島政務次官に陳情する議員の皆さん。

上京陳情

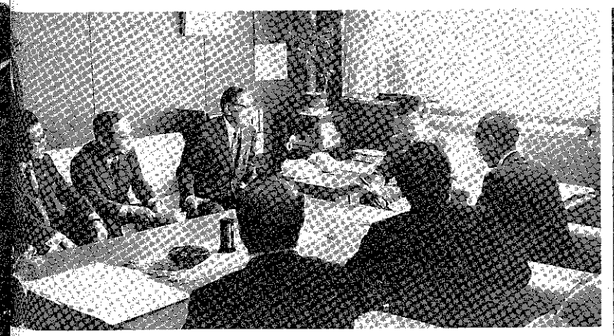
国土庁宮繁官房長に陳情する議員の皆さん。

建設庁川本河川局長に陳情する議員の皆さん。

7月1日 激甚災に指定

六月九日、北村県知事をはじめ災害をうけた関係市町村長が国へ陳情

6／9　建設省中村政務次官に災害陳情する関係市町村長（右から2人目が松浦町長）



来県した山本自治大臣に県及び町村会が陳情
（6／6ホテル青森で）

6／9　自由民主党二階堂幹事長にも災害状況を説明・陳情

日本の大きな地震や特に近くで起きた地震の年代表

日本暦	西暦	北緯	東経	マグニ	地域・被害状況
天武13・10・14	687	32°5′	134°0′	8.4	土佐その他南海東海諸道：山くずれ、河湧き家屋社寺の破壊、人畜の死傷多く、津波襲来、土佐の舟多数沈没，土佐で田苑約12㎞海中に沈む。
天長 7・1・3	830	39°8′	140°1′	7.4	出羽：秋田の城廊、家屋倒壊、圧死者15人、傷者１００人、地割れ多く長いものは20～30丈(60～90ｍ)
仁和 3・7・30	887	33°0′	135°3′	8.6	五畿七道：京都の民家官庁の倒壊多く、圧死者多数。津波来襲し、摂津で被害最大、余震が８月末まで続く。
嘉保 3・11・24	1096	34°2′	137°3′	8.4	畿内：東海道：東大寺の巨鐘が落ち、諸寺に被害、京都大極殿破損、勢多橋落ちる。余震多く、津波が

日本暦	西暦	北緯	東経	マグニ	地域・被害状況
					伊勢、駿河を襲い、駿河で社寺民家流失400余。
承徳 3・1・24	1099	33°0′	135°5′	8.0	畿内：興福寺西金堂壊れ、大門が倒れる。土佐で田1,000余町みな海底に沈む。
正平16・6・24	1361	33°0′	135°0′	8.4	畿内、土佐、阿波：山城、摂津より紀州熊野に至る諸堂倒壊破損が多かった。津波の被害は摂津、土佐、阿波で多く、阿波雪湊で流失1,700戸、流死60人余、余震多数。
明応 7・8・25	1498	34°1′	138°2′	8.6	東海道全般：紀伊から房総に至る海岸と甲斐で振動強く、津波が紀伊から房総に至る海岸を襲い、伊勢大湊で流失1,000戸、溺死5,000人、静岡県志太郡地方で流死26,0

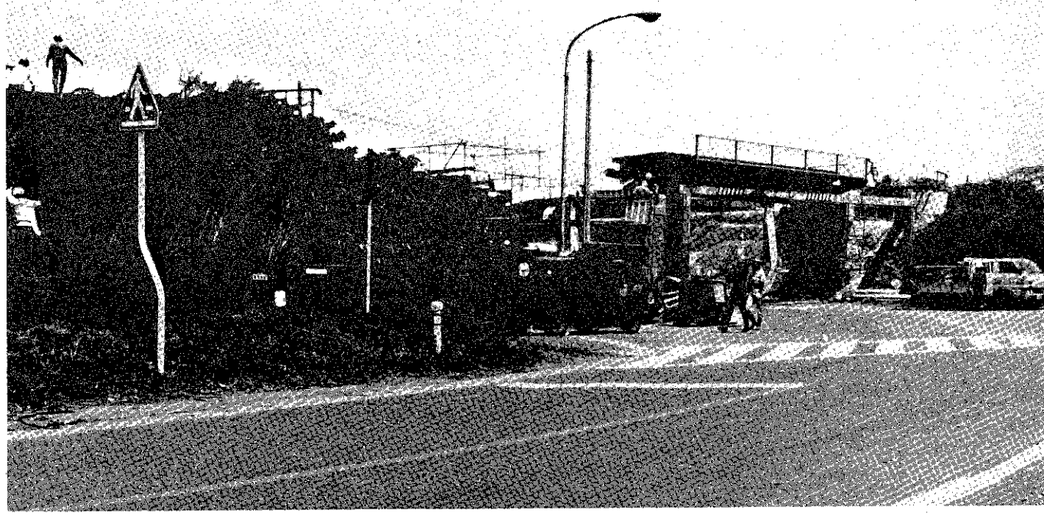
日本の大きな地震や特に近くで起きた地震の年代表

日本暦	西暦	北緯	東経	マグニ	地域・被害状況
					00人、伊勢志摩で溺死10,000人という。浜名湖海に通じた。
慶長16・8・21	1611	37°5′	139°7′	6.9	会津：岩代西部、若松付近で被害大、社寺民家倒壊大破20,000余戸、死者3,700人、山くずれで会津川、只見川塞ぎ、南北60㎞の範囲に多数の沼を作った。
慶長16・10・28	1611	38°2′	143°8′	8.1	三陸及び北海道東岸：三陸地方で強震、震害軽く、津波の被害大、伊達領内で死者1,783人、南部、津軽で人馬の死3,000余。三陸地方で家屋流失多く、溺死者1,000人を超えた。岩沼付近でも家屋皆流失、北海道東部でも溺死者が多かった。
慶長19・10・25	1614	37°5′	138°0′	7.7	越後高田：震域は極めて広く、会

日本暦	西暦	北緯	東経	マグニ	地域・被害状況
					津、小田原、伊豆、駿府、伊那、奈良、大阪、田辺、松山などで大地震、津波あり、死者が多かった。
寛永21・9・18	1644	36°4′	140°1′	6.9	羽後本荘：本荘城大破、家屋倒れ死者が出た。石沢村にも壊家死傷者が出、院内村で地裂け水が湧く。
正保 3・4・26	1646	37°7′	141°7′	7.6	陸前：仙台城の石壁数十丈くずれ、櫓３つ倒れる。白石城破損、東照宮の垣破損、江戸でも強かった。
万治 2・2・30	1659	37°2′	139°8′	6.7	岩代、下野：会津で民家倒壊309戸、死者28人、那須で民家倒壊100余戸、死者11人。
寛文 5・12・27	1666	37°1′	138°2′	6.4	越後西部：積雪14～15尺、高田城破損、侍屋敷700戸つぶれる。夜火災、死者1,500人。

復旧へ

破損した水道の配水本管布設替え工事（関ゴロマ地区）



急ピッチで復旧工事を進める
国鉄・五能線　（風合瀬）

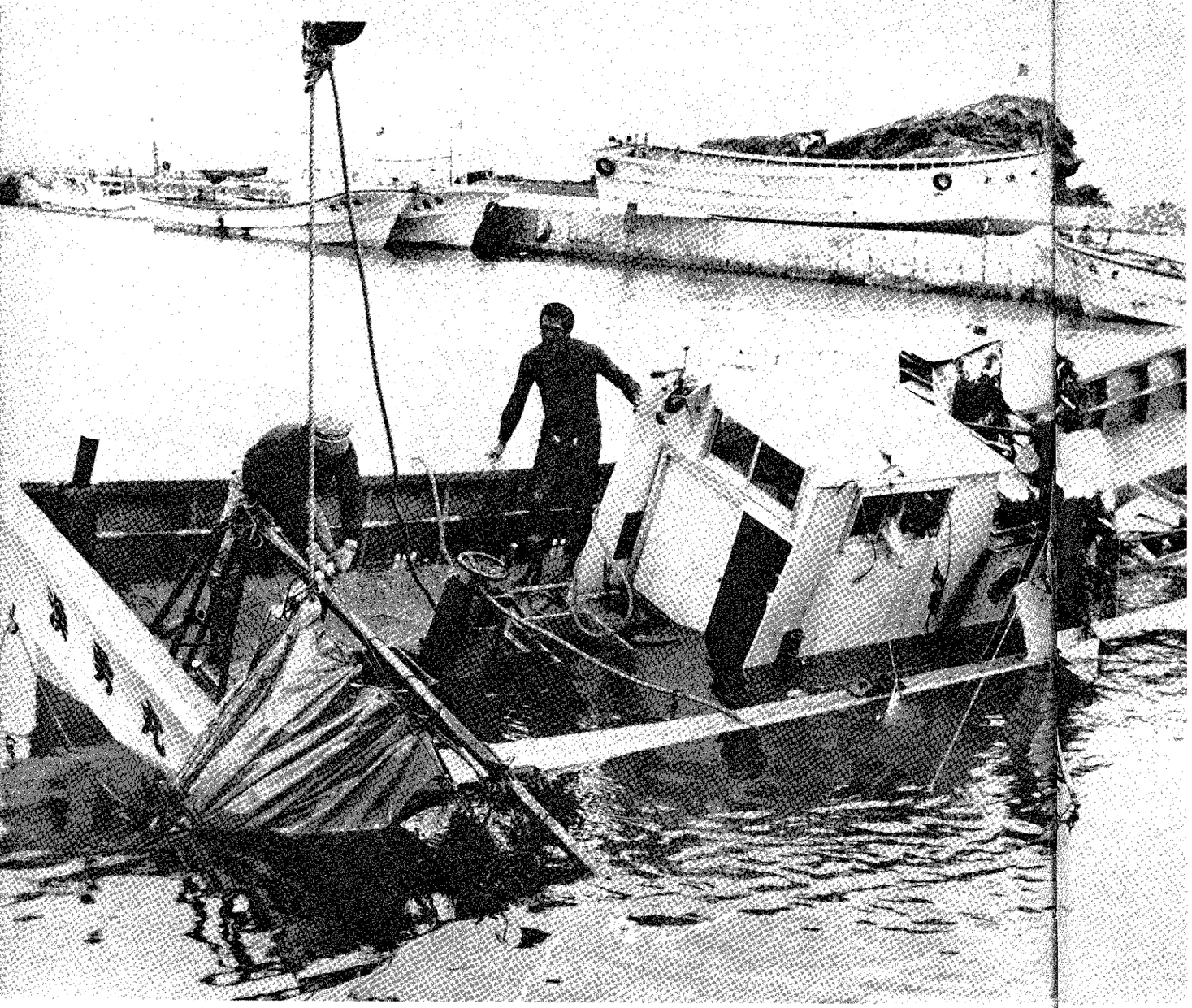
全面復旧まで22日間北金ケ沢駅に
足止めされた列車
――五能線全面復旧は6月16日――
（北金ケ沢）

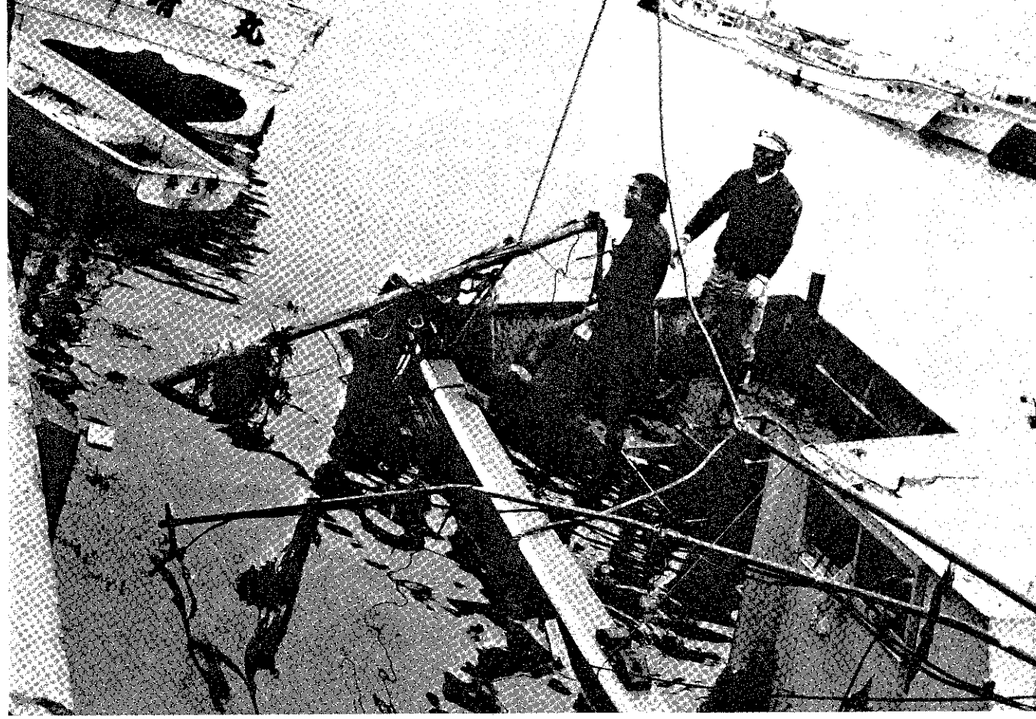
日本の大きな地震や特に近くで起きた地震の年代表

日本暦	西暦	北緯	東経	マグニ	地域・被害状況
寛文 7・7・3	1667			6.4	八戸：市中の建物損失が多かった。
延宝 2・3・10	1674			5.9	八戸：城内や諸士屋敷、町家損害多し、南宗寺の廟所破損。
延宝 3・3・10	1675			5.9	八戸：諸士家屋、町屋とも被害が多かった。
延宝 5・3・12	1677	38°7′	144°0′	8.1	陸中南部：八戸に震害、余震多く、津波により、大鰐浦、宮古浦、鍬ケ崎浦被害。
延宝 6・8・17	1678	38°6′	142°3′	7.4	陸中：花巻城石垣くずれ、家屋損壊、死者１人、白石城破損、江戸では天水桶の水が溢れる。
元禄 7・5・27	1694	40°2′	140°2′	7.0	能代地方：42か村被害、秋田死者394人、壊家1,273、焼失859、破損447、秋田、弘前で被害あり、岩木山で岩石崩落、硫黄平火を発した。
元禄16・11・23	1703	34°7′	139°8′	8.2	江戸、関東諸国：武蔵、相模、安房、上総で震度大、小田原領で出火し壊家8,007、死者2,291人、江戸本所あたりで壊家多く、津波は下田から犬吠岬に至る海岸に押寄せ、震災地を通じ、壊家20,162、死者約5,233人、三浦房総両半島沿岸が最大5.5ｍ隆起。
宝永 1・4・24	1704	40°4′	140°0′	6.9	羽後、津軽：能代で被害最大、1,193戸中倒壊435、焼失758、死者58人、山くずれ多く十二湖を生じた。岩館付近の海岸で最大1.9ｍ隆起。
宝永 4・10・4	1707	33°2′	135°9′	8.4	五畿七道：全体で潰家29,000、死者4,900人、家屋倒壊範囲は、東海道から中国、九州に及ぶ、震害は、
宝永 7・8・30	1710			6.4	東海道、伊勢湾、紀伊半島で最もひどく、袋井全滅、田辺で431戸中158戸つぶれ、大阪壊家1,061、死者734人、徳島で630戸倒壊、津波は伊豆半島から九州に至る沿岸を襲い、瀬戸内海にも達した。土佐で流家11,170、死者1,844人、尾鷲で死者1,000人余。波高は室戸、種崎23ｍ（溺死700余）、久礼25.7ｍ、室戸1.5ｍ、串本1.2ｍ、御前崎２ｍ隆起し、高知市の東20㎢が最大２ｍ沈下、海水に浸された。遠州灘沖及び紀伊半島沖の２つの地震とも考えられる。
享保 2・4・3	1717	39°4′	142°7′	7.6	花巻：家屋破損多く、地割れで泥噴出した。津軽で天水桶の水がこぼれ、江戸でやや強かった。
享保17・11・5	1732			6.2	津軽：津軽城所々破損。
元文 4・7・12	1739	40°7′	142°3′	7.1	陸奥、南部：高森で特に強く、青森では蔵がつぶれた。八戸諸士町屋ともに被害が多かった。
寛保 1・7・18	1741	41°5′	139°4′	6.9	渡島西岸、津軽、佐渡：北海道西岸沖の大島上旬より活動し、18日に津波があり、北海道で流家729、流死1,467人、津軽で流家82、流死８人、佐渡でも流失家屋は少なくなかった。

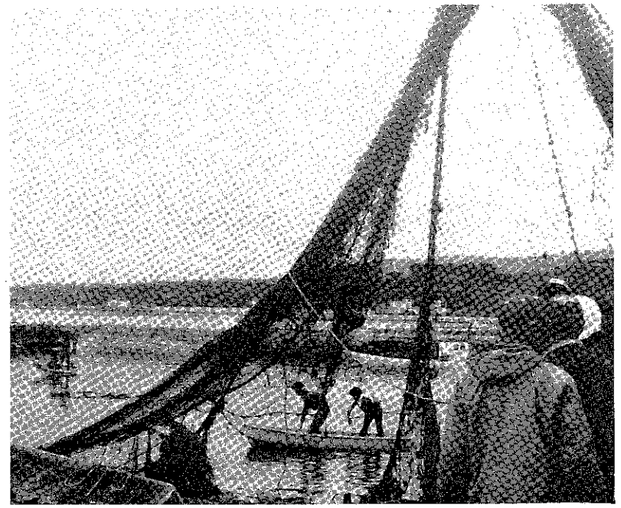
日本の大きな地震や特に近くで起きた地震の年代表

日本暦 | 西暦 | 北緯 | 東経 | マグニ | 地域・被害状況
宝永 7・8・30 | 1710 | | | 6.4 | 東海道、伊勢湾、紀伊半島で最もひどく、袋井全滅、田辺で431戸中158戸つぶれ、大阪壊家1,061、死者734人、徳島で630戸倒壊、津波は伊豆半島から九州に至る沿岸を襲い、瀬戸内海にも達した。土佐で流家11,170、死者1,844人、尾鷲で死者1,000人余。波高は室戸、種崎23ｍ（溺死700余）、久礼25.7ｍ、室戸1.5ｍ、串本1.2ｍ、御前崎２ｍ隆起し、高知市の東20㎢が最大２ｍ沈下、海水に浸された。遠州灘沖及び紀伊半島沖の２つの地震とも考えられる。
享保 2・4・3 | 1717 | 39°4′ | 142°7′ | 7.6 | 花巻：家屋破損多く、地割れで泥噴出した。津軽で天水桶の水がこぼれ、江戸でやや強かった。
享保17・11・5 | 1732 | | | 6.2 | 津軽：津軽城所々破損。
元文 4・7・12 | 1739 | 40°7′ | 142°3′ | 7.1 | 陸奥、南部：高森で特に強く、青森では蔵がつぶれた。八戸諸士町屋ともに被害が多かった。
寛保 1・7・18 | 1741 | 41°5′ | 139°4′ | 6.9 | 渡島西岸、津軽、佐渡：北海道西岸沖の大島上旬より活動し、18日に津波があり、北海道で流家729、流死1,467人、津軽で流家82、流死８人、佐渡でも流失家屋は少なくなかった。





沈没した漁船引き揚げ作業をする皆さん。　（風合瀬）



撮影者／坂崎　一さん

日本の大きな地震や特に近くで起きた地震の年代表

日本暦	西暦	北緯	東経	マグニ	地域・被害状況
宝暦 5・2・17	1755			6.2	陸奥、八戸：殿中、諸建物損害が多かった。南宗寺の廟所破損。
宝暦12・12・16	1763	40°8′	142°0′	7.4	陸奥八戸：11月初めより地震あり、この日大地震、家屋破損、地割れがあった。函館で強く感じる。津波があった。余震が多かった。
明和 3・1・28	1766	40°8′	140°6′	6.9	津軽：弘前城破損、各地で地割れ、弘前領で寺社、侍屋敷、町屋倒壊約7.000、焼失300余、圧死1,027人、焼死308人、青森で全半壊547、焼失175、圧死101人、焼死91人に上った。
明和 8・3・10	1771	24°0′	124°3′	7.4	宮古、八重山両群島：震害はなさそう、津波による被害は甚大だった。石垣島で最高28丈（一説によると約40m）、全体で家屋流出が3,237、溺死11,741人。
明和 9・5・3	1772	39°3′	142°7′	7.4	陸前、陸中：山田、大槌、沢内などで山くずれ、人馬が死んだ。仙台領でもしょう屋壊敗が多かった。
天明 2・8・15	1782			6.1	陸奥八戸：諸家の被害少なくなかった。津軽でも震動が強かった。
寛政 4・12・28	1793	40°7′	140°0′	6.9	西津軽：鰺ケ沢、深浦、岩木山付近で激しく、全壊154、死者12人、発震数時間前より大戸瀬を中心に海岸12kmにわたり、最高3.5m隆起。
寛政 5・1・7	1793	38°3′	142°4′	7.1	陸前、陸中：仙台藩で1,060余戸壊れ、死者12人、津波があり、両石で17戸流失、死者12～13人、波高は大船渡で9尺。

日本の大きな地震や特に近くで起きた地震の年代表

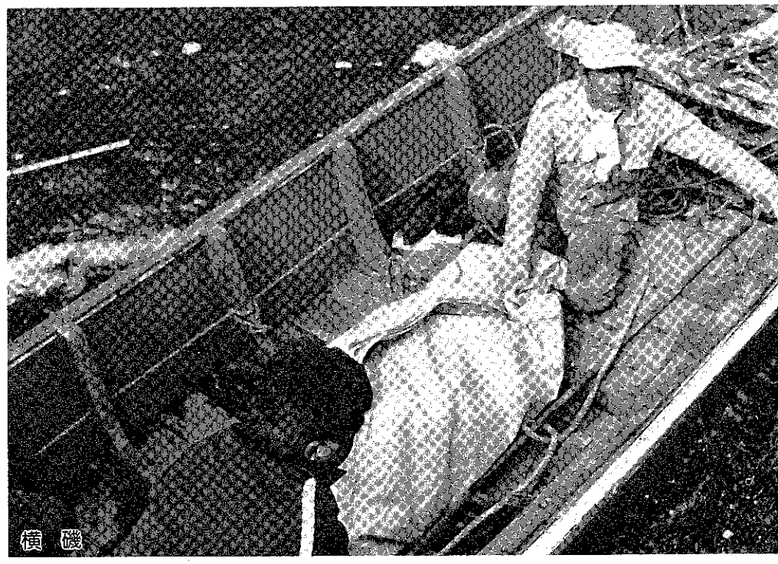
日本暦	西暦	北緯	東経	マグニ	地域・被害状況
文化 1・6・4	1804	39°0′	140°0′	7.1	由利、飽海、田川郡で死者333人、壊家5,500余り、象潟湖隆起し陸及び沼になった。津波があった。6日朝の強い地震で酒田で壊家15戸。
文化 7・8・27	1810	39°9′	139°9′	6.6	羽後：男鹿半島の半分が5月から鳴り動いた。全壊1,098、半壊400、死者57人、八郎潟西岸約1m隆起。
文政 4・8・16	1821			5.9	津軽、青森：青森で小店の屋根が落ち子供1人死亡。
天保 4・10・26	1833	38°7′	139°2′	7.4	羽前、羽後、越後、佐渡：庄内地方の被害が最大、庄内で壊家475、死者42人、津波が象潟から新潟に至る海岸と佐渡を襲い、佐渡でも流失建物123、能登、函館で地震を感じ、津波があった。
天保 6・6・25	1835	37°9′	141°9′	7.6	仙台：城の石垣がくずれ、家土蔵に破損あり、羽前最上郡に大地震があった。江戸で有感。
弘化 4・3・24	1847	36°7′	138°2′	7.4	北信及び越後西部：被害範囲は高田から松本、上田に至る南北90km、東西40kmの地域、壊家29,633、死者8,600人、断層を生じ、落差2.4m、山くずれ松代領内で42,000、松本領で1,900か所、犀川の堰止められ数10か村が水没した。4月13日に決壊洪水を生じた。
弘化 4・3・29	1847			6.5	越後頸城郡：3月24日とこの日の地震で高田城下で全壊293、死者200数10人、直江津でも150軒つぶれた。

行方不明者捜索活動

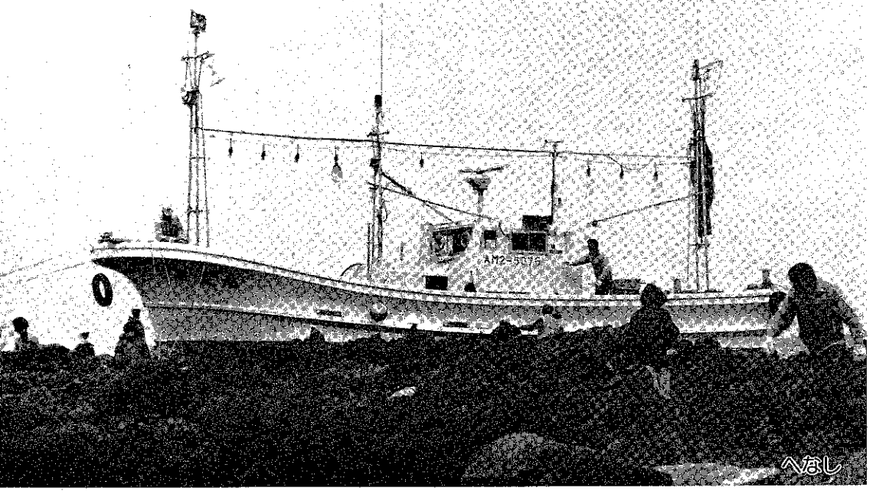
横磯

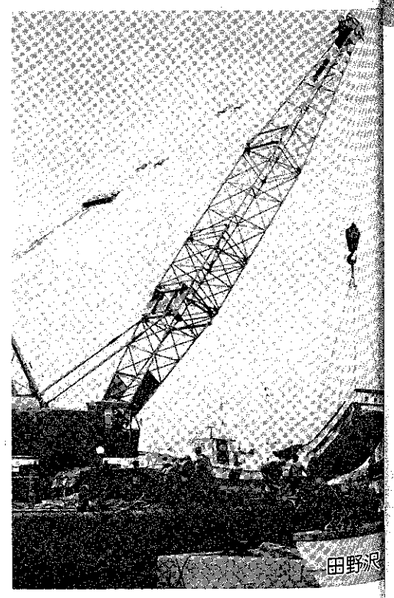
田野沢

横磯海岸に釣りに来ていた能代市の加藤昇さんが、6月3日午後2時遺体で収容されました。
田野沢の山下久夫さんは、6月4日午前7時帰らぬ人となって発見されました。
町民ともども心からご冥福を祈ります。


横磯

復旧作業


へなし


田野沢

日本の大きな地震や特に近くで起きた地震の年代表

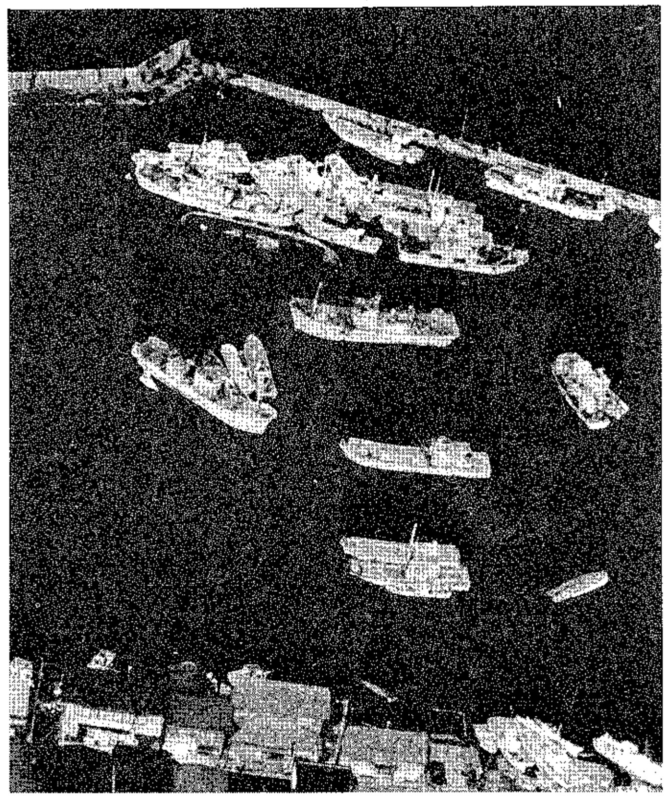
日本暦	西暦	北緯	東経	マグニ	地域・被害状況
弘化 4・12・ 8	1848	40°7′	140°6′	5.9	津軽：弘前で小被害、黒石、猿賀のあたりでことに強く、壊家があった。
嘉永 7・11・ 4	1854	34°1′	137°8′	8.4	東海、東山、南海：家屋倒壊は伊豆から伊勢に至る沿岸と、甲斐、信濃、近江、越前、加賀に及ぶ。津波は、房総から土佐に至る沿岸を襲い、下田で875戸中841戸流失、碇泊中のロシア軍艦ディアナ号大破、27日沈没、波高は甲賀10ｍ、鳥羽5～6ｍ、錦浦6ｍ余、二木島9ｍ、尾鷲6ｍ、御前崎で80～100㎝、隆起、浜名湖北端、渥美湾沿岸は沈下した。全体で倒壊流失8,300余、焼失600、圧死者300人、流死300人
嘉永 7・11・ 5	1854	33°2′	135°6′	8.4	畿内、東海、東山、北陸、南海、山陰、山陽道：前の地震の32時間後、被害は、近畿、中国、四国全部と九州、中部地方の一部及び津波は房総から九州に至る海岸を襲った。全壊20,000、半壊40,000、焼失6,000、流失15,000、死者約3,000人、波高は久礼16.1ｍ、種崎11ｍ、室戸3.3ｍ、宍喰5～6ｍ、室戸、紀伊半島は南上がりの傾動を示し、室戸、串本で1.2ｍ隆起、甲浦、加太で約1ｍ沈下、浸水。
安政 3・ 7・23	1856	40°5′	143°5′	7.3	日高、胆振、渡島、津軽、南部：19日より前震、震害は極めて軽かった。有感範囲は江戸、中仙道に及

日本の大きな地震や特に近くで起きた地震の年代表

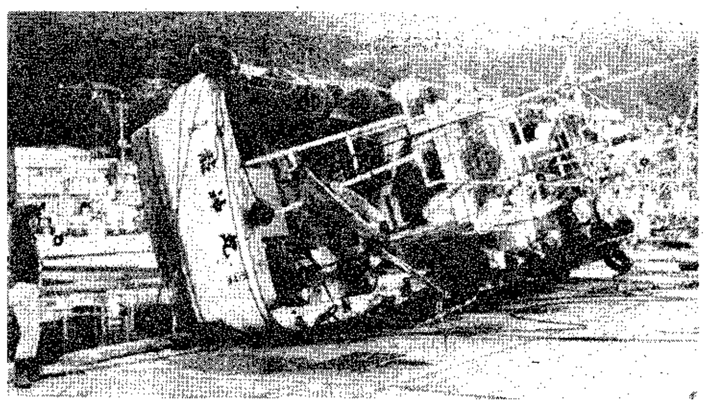
日本暦	西暦	北緯	東経	マグニ	地域・被害状況
					び、津波が、北海道太平洋岸、三陸を襲う。波高、函館3ｍ、野田6ｍ、釜石3ｍ、南部領で家屋流出93、流死26人。
安政 5・ 8・23	1858				青森：安方町の米蔵がつぶれた。
文久 1・ 9・18	1861	37°7′	141°6′	6.4	陸前、陸中、盤城：仙台城破損、壊家、死者あり、陸前で被害が多く、津波があり綾里で波高4ｍ。
明治27・10・22	1894	38°9′	139°8′	7.3	庄内地方：酒田付近で被害が著しく、被害は山形、本荘に及ぶ。山形県下で全壊3,858、半壊2,397、焼失2,148、死者726人。
明治29・ 8・31	1896	39°5′	140°7′	7.5	秋田、岩手県境：秋田県仙北、平鹿郡、岩手県西和賀、稗貫郡で被害大、全壊5,792、死者209人、川

日本暦	西暦	北緯	東経	マグニ	地域・被害状況
					舟断層、千屋断層を生じた。
明治30・ 2・20	1897	38°1′	141°5′	7.8	仙台沖：岩手、山形、宮城、福島で小規模の被害、一の関で家屋破損が72。
明治31・ 4・23	1898	39°5′	143°6′	7.8	岩手沖：岩手、宮城、福島、青森各県で小被害。金華山灯台にかなりの被害があった。
明治31・ 5・26	1898	36°9′	138°9′	6.7	新潟県南魚郡：家屋に小被害があり、田畑に亀裂ができた。
明治33・ 5・12	1900	39°0′	141°0′	7.3	宮城県北部：遠田郡で最も激しく、県全体で死傷者17人、家屋全壊が44、半壊48、破損1,474。
明治34・ 8・ 9	1901	40°3′	141°8′	7.7	八戸地方：10日にも同程度の地震があった。青森県で死者18人、家屋全壊8、秋田、岩手でも小被害

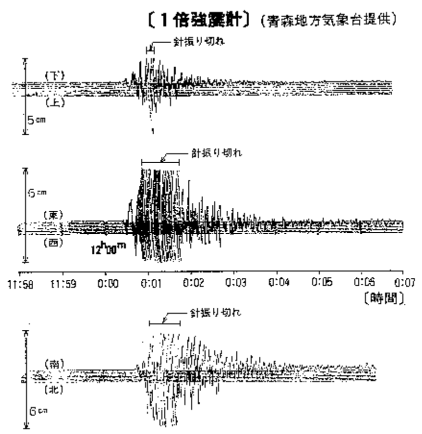
海と陸に大きな傷跡



シーアンカーを出しながら転覆した漁船＝深浦町深浦港（本社特別機から）



岸壁に船底を見せてひっくり返る漁船＝小泊港



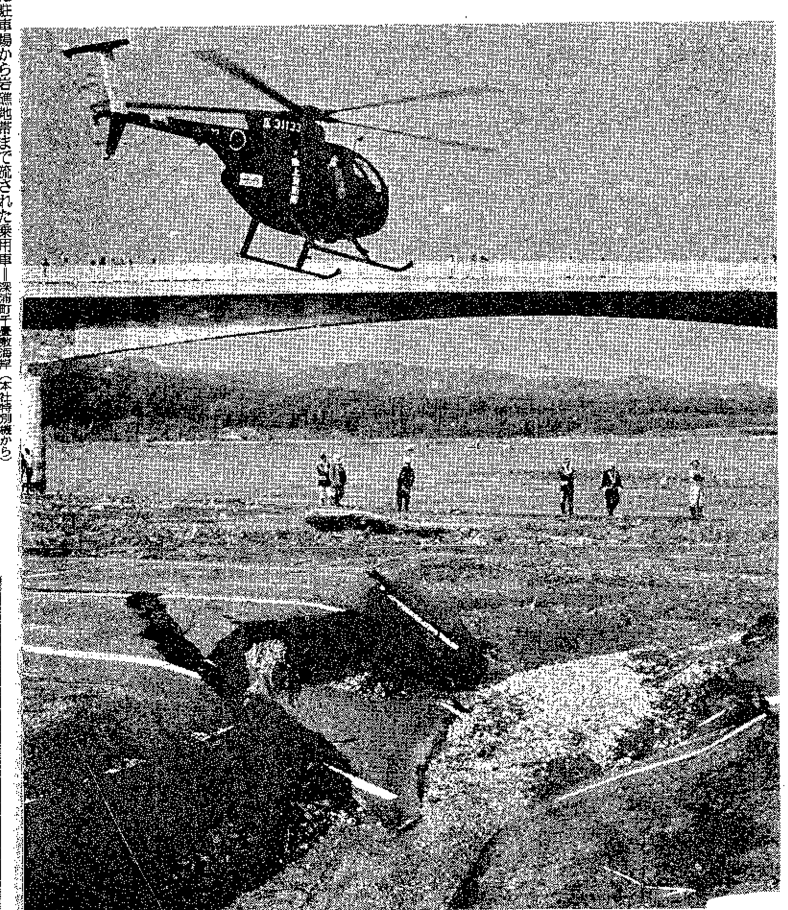
これがM 7.7

あっという間に駐車場から岩礁地帯まで流された乗用車（本社特別機から）

無残に倒壊した酒造会社の土蔵＝青森市油川

M7.7 日本海沿岸に津波

32人死亡、69人不明　8道府県で被害



懸命の捜索　不明の釣り人捜索に陸自ヘリコプターも加わる。手前の崩れた個所からも釣り人が流された＝十三湖河口で

日本海中部地震

4人死亡、13人不明

県内 作業員ら犠牲に

二十六日正午ごろ、秋田県沖の日本海を震源地としたマグニチュード7・7の強い地震と津波による被害は、夜に入って秋田県を中心にますます広がった。警察庁が二十六日午後十時現在でまとめたところでは、被害は八道府県に及び、死者三十二人、行方不明六十九人、負傷五十六人に上った。気象庁は「昭和五十八年日本海中部地震」と命名、政府も対策本部を設置した。津波被害としては三十五年のチリ地震以来の規模。本県は県警本部地震対策室の同日午後十一時現在の調査によると、西部鰺ケ沢町赤

釣り人、依然不明

十三湖 早朝から再び捜索

3日公示 日参

国会閉幕

東奥日報
発行所 東奥日報社
©東奥日報社 1983

今日の紙面

2面 遠足の小学生に大津波
3面 警報、すぐ津波が襲った
4 5面 写真で見る県内の惨状
12面 県内各地にツメ跡残す
13面 高層住宅、その時の恐怖
14面 空と陸からの現地ルポ
15面 3㍍の高波、釣り人のむ

◇お断り　日本海中部地震……

日本の大きな地震や特に近くで起きた地震の年代表

日本暦	西暦	北緯	東経	マグニ	地域・被害状況
					があり、宮古に波高60cmの津波があった。
明治35・1・30	1902	40°9′	141°7′	7.4	三戸地方：三戸、七戸、八戸地方で倒壊家屋3、死者1人。
明治37・5・8	1904	37°2′	138°8′	6.9	新潟県六日町：五十沢村、城内村で、家屋、土蔵などの破損があった。
大正3・3・15	1914	39°5′	140°4′	6.4	秋田：仙北郡で最も著しく、全体で死者94人、家屋全壊640、地割れ、山くずれが多かった。
大正3・3・28	1914	39°3′	140°5′	5.8	秋田県平鹿郡：沼館町で家屋全壊数戸。
大正4・11・1	1915	38°9′	143°1′	7.5	石巻沖：小津波、石巻辺で屋上の天水桶転落。
大正12・9・1	1923	35°2′	139°3′	7.9	関東南部：東京で観測した最大振

日本暦	西暦	北緯	東経	マグニ	地域・被害状況
					幅14～20cm、地震後火災が発生し、被害が増大した。死者99,331人、行方不明43,476人、家屋全壊128,266、半壊126,233、焼失447,128、山くずれが多く、房総方面（木更津32cm、北条157cm）、神奈川南部（大磯182cm、藤沢75cm）は隆起し、東京付近以西神奈川北方は沈下した。また、相模湾では小田原――布良線以北は隆起、南は沈下した。関東沿岸に津波が襲来し、波高は三崎で6m、洲の崎で8.1m。
昭和2・10・27	1927	37°5′	138°8′	5.3	新潟県三島郡：傷者2人、家屋半壊23、宮本村の田園内に石油ガス噴出孔を生じた。

日本暦	西暦	北緯	東経	マグニ	地域・被害状況
昭和8・3・3	1933	39°1′	144°7′	8.3	三陸沖：震害はなかった。津波が太平洋岸を襲い、三陸沿岸で被害は甚大、死者3,008人、家屋流失4,917、倒壊2,346、浸水4,329、船舶流失7,303、波高は、田老10.1m、白浜23.0m、綾里25.0m、銚子0.2m。
昭和11・11・3	1936	38°2	142°2′	7.7	金華山沖：福島、宮城両県で非住家全壊3、その他の小被害もあった。
昭和13・5・23	1938	36°7′	141°4′	7.1	盤城沖：福島県に壁の剝落などの小被害があった。規模の割に被害は少ない。
昭和13・6・10	1938	25°3′	125°2′	6.7	宮古島北々西沖：津波来襲、平良港で振幅1～1.5m、桟橋流失し、

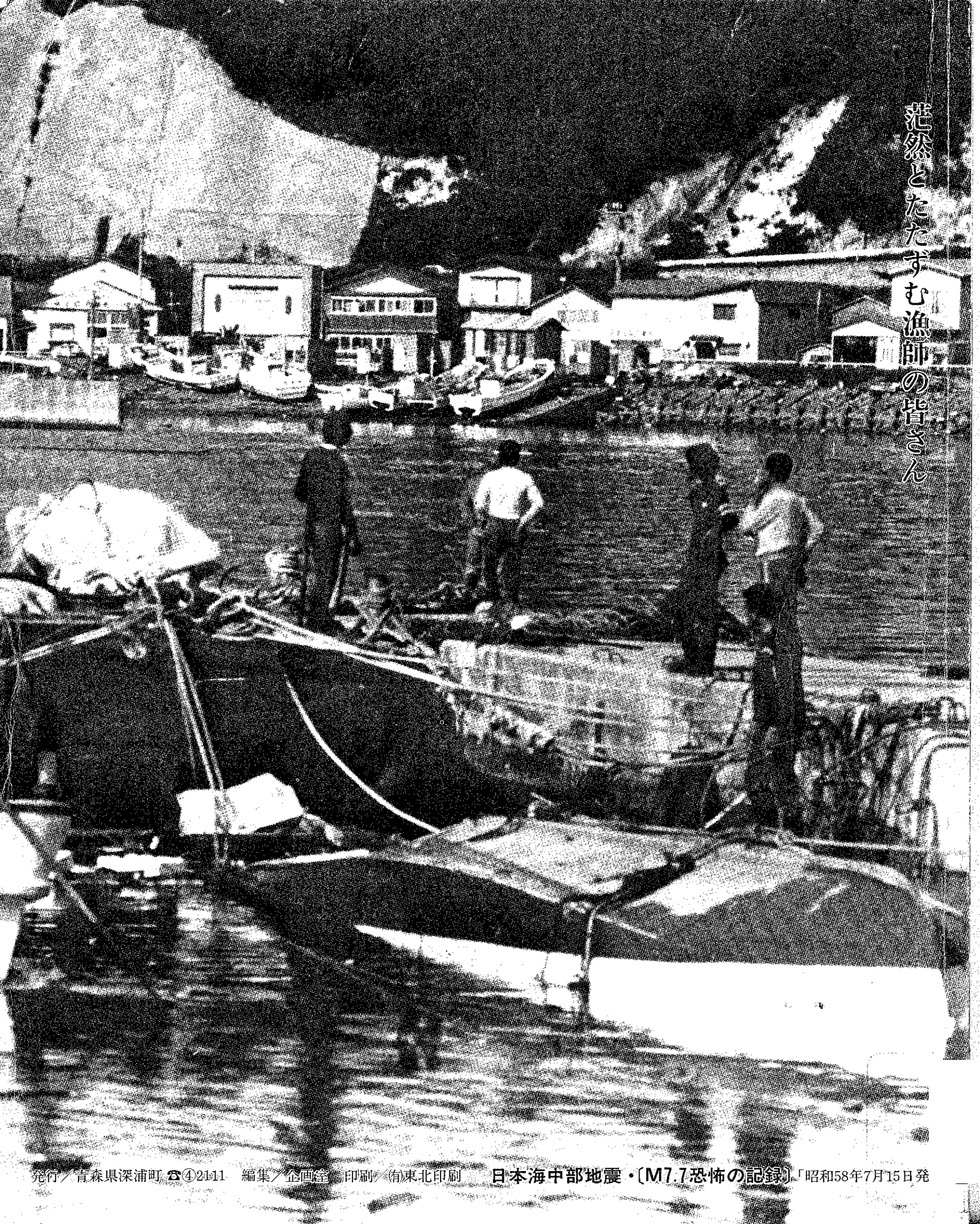
日本暦	西暦	北緯	東経	マグニ	地域・被害状況
					帆船に損害があった。
昭和13・11・5	1938	37°1′	141°7′	7.7	福島県東方沖：福島県下で死者1人、住家全壊4、非住家全壊16、小名浜で津波1.07m。
昭和14・5・1	1939	40°0′	139°8′	7.0	男鹿半島：死者27人、住家全壊479半壊858、非住家全壊106、軽微な津波あり、半島西部で最大44cm隆起。
昭和18・8・12	1943	37°3′	139°8′	6.1	福島県田島付近：崖くずれ、壁の剝落など、小被害があった。
昭和19・12・7	1944	33°7′	136°2′	8.0	熊野灘：静岡、愛知、三重、岐阜、奈良、滋賀各県、特に名古屋重工業地区に被害が大きかった。死者998人、住家全壊26,130、半壊が46,950、流失3,059、津波が各地に襲来

日本の大きな地震や特に近くで起きた地震の年代表

日本暦	西暦	北緯	東経	マグニ	地域・被害状況
					した。波高は熊野灘沿岸8～10m、木ノ本、新宮間3m、御前崎、下田2m、紀伊半島東岸で30～40cm地盤沈降。
昭和30・10・19	1955	40°3′	140°2′	5.7	秋田県二ツ井：被害は二ツ井、響村に限られ、傷者2人、住家破損52、非住家破損99。
昭和33・11・7	1958	44°3′	148°5′	8.0	エトロフ島南方沖：釧路地方で電信線、鉄道、道路に小被害があった。津波太平洋岸各地に、波高は霧多布2m、八戸1m。
昭和35・5・23	1960	38.0S	73.5W	8.5	チリ沖：24日2時ごろから津波日本沿岸各地に来襲、波高は三陸沿岸5～6m、その他で3～4m、北海道南岸、三陸沿岸、志摩半島付近で被害大、死者119人、行方不明20人、家屋全壊1,571、半壊が2,183、流失1,259。
昭和37・4・30	1962	38°7′	141°1′	6.5	宮城県北部：築館、石越、小牛田付近経40kmの範囲に被害が集中した。死者3人、住家全壊369、半壊1,542、橋梁、道路、鉄道の被害が多かった。
昭和38・10・13	1963	43°8′	150°0′	8.1	エトロフ島沖：第2エトロフ沖地震、津波があり、八戸で1.3m、歯舞で1.4m
昭和39・5・7	1964	40°3′	139°0′	6.9	青森県西方沖：青森、秋田、山形の三県に小被害があった。
昭和39・6・16	1964	38°4′	139°2′	7.5	新潟県沖粟島付近：新潟、秋田、山形の各県に被害あり、死者26人、家屋全壊1,960、半壊6,640、浸水は15,297、船舶、道路の被害が多かった。新潟市内で地盤の流動、不同沈下による震害が著しかった。津波が日本海沿岸一帯を襲い、波高、大島崎で5m、両津3m、粟島で0.8～1.5m隆起した。
昭和43・5・16	1968	40°7′	143°7′	7.9	十勝沖：青森県を中心に北海道南部、東北地方に被害、死者49人、行方不明3人、傷者330人、建物全壊673、半壊3,004、青森県下山くずれが多く、津波あり、三陸沿岸3～5m、襟裳岬3m、浸水527、船舶流失沈没127、コンクリート造建築の被害が目立った。
昭和45・10・16	1970	39°2′	140°7′	6.2	秋田県東部：傷者6人、建物半壊20、一部破損、446、全焼1、山くずれ19などの破害があった。
昭和46・2・26	1971	37°1′	138°4′	5.5	新潟県南西部：傷者13人、雪崩れ数か所、小規模な地割れや崖くずれがあった。
昭和53・6・12	1978	38°2′	142°2′	7.4	宮城県沖：被害は宮城県に多く、全体で死者27人、傷者1,227人、建物全壊651、半壊5,450、道路損壊813か所、山くずれ529か所、新興開発地に被害が集中した。

日本海中部地震〔M7.7恐怖の記録〕

発行／深浦町
青森県西津軽郡深浦町
大字深浦字苗代沢84-2
☎ 01737-4-2111
編集／企画室
印刷／㈲東北印刷



発行／青森県深浦町 ☎④2111　編集／企画室　印刷／㈲東北印刷